

Console DA UI 操作マニュアル

マニュアルはよく読み、大切に保管してください。
製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。
このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

-目次-

1 動作環境	1
2 初期設定	3
2-1 画面の構成	3
2-2 「ConsoleDA Manager」への接続	4
2-3 JP1 宛先ファイルのインポート	5
2-4 CSVファイルのインポート	7
2-5 新規グループの作成方法	9
2-6 新規設置場所の作成方法	10
2-7 新規ラックの作成方法	11
2-8 新規シャーンシの作成方法	12
2-9 新規ブレードの作成方法	13
3 運用管理	16
3-1 状態・情報の表示	16
3-1-1 状態表示	16
3-1-1-1 表示列の選択	18
3-1-2 ブレード情報表示	19
3-1-3 ConsoleDAの構成表示	20
3-1-4 ブレードの省電力設定表示	21
3-1-4-1 省電力設定の一覧表示	21
3-1-4-2 省電力設定の個別表示	22
3-2 情報の編集	24
3-2-1 グループ・設置場所・ブレードの移動	24
3-2-1-1 ドラッグ&ドロップ	24
3-2-1-2 カット&ペースト	25
3-2-2 名前の変更	26
3-2-3 削除	27
3-3 省電力設定の操作・設定	28
3-3-1 カレンダーと休日スケジュール設定	28
3-3-2 スケジュール設定	31
3-3-2-1 曜日別設定	32
3-3-2-2 日別設定	33
3-3-2-3 特異期間設定	34
3-3-3 配信	35
3-4 省電力効果レポートの表示	36
3-4-1 グループごとの省電力効果レポート表示	36
3-4-2 ブレードごとの省電力効果レポート表示	38
3-5 ブレードの利用履歴表示	39
3-5-1 ブレードの接続履歴	39
3-5-2 ブレードの稼働履歴	41

3-5-3 ユーザーの接続履歴.....	43
3-5-4 履歴データのエクスポート.....	45
3-6 ブレードの検索.....	47
3-7 ログの管理.....	49
3-7-1 表示.....	49
3-7-2 保存期間の変更.....	50
3-8 シャーシアラート情報.....	51
3-9 アラートメールの管理.....	52
3-10 CALLランプ制御.....	54
3-11 SOL (Serial Over LAN) 画面の表示.....	56
3-11-1 SOLによるBIOSセットアップメニュー画面の表示.....	58
3-11-2 SOLによるブートデバイス選択画面の表示.....	59
3-12 電源制御.....	60
3-13 起動デバイスの変更.....	62
3-14 CPU制御.....	63
3-15 外部ツール起動.....	65
3-16 サーバブレードの管理.....	68
3-16-1 サーバステータス.....	68
3-16-2 サービス一覧.....	69
3-16-3 イベントログ.....	69
3-16-4 アラート設定.....	70
3-17 データセンターのビジュアル表示 (VDC Viewer).....	72
3-18 デプロイ機能.....	73
3-19 コマンドラインインタフェース.....	74
4 環境設定.....	77
4-1 接続先の管理.....	77
4-1-1 接続先の登録設定.....	77
4-1-2 接続先の切り替え.....	79
4-2 IPMIの設定.....	80
4-3 接続認証の設定.....	81
5 困ったときは.....	82
6 制限事項.....	85
7 付録.....	86

重要なお知らせ(注意事項)

- 本書をよくお読みになってから、製品をご使用ください。
- 本書の内容は、将来予告なしに変更される場合があります。
- 本書の内容の一部、または全てを無断で転載することを禁止します。

Copyright © Hitachi, Ltd. 2010 all rights reserved.

他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

- Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、SQL Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windows®の正式名称は、Microsoft® Windows® Operating System です。
- Citrix、XenDesktop は Citrix Systems, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。
- インテル、Intel、Pentium、Xeon、Celeron は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
- ActiveReports for .NET 3.0J

Copyright (C) 2007-2008 DataDynamics, Ltd.

- その他、会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

1 動作環境

ConsoleDA Manager (Ver. 3.0)

OS	Microsoft® Windows Server® 2003 SP2 以降 Microsoft® Windows Server® 2003 R2 (32bit)
CPU	Hitachi bd Link の管理コンソールとしてご使用の場合： Intel® Xeon® プロセッサ 2GHz 以上 (4コア以上推奨) SAVINGDA Pro の管理コンソールとしてご使用の場合： Intel® Pentium® プロセッサ 1GHz 以上 (2コア以上推奨)
HDD	Hitachi bd Link の管理コンソールとしてご使用の場合： 空き容量4GB 以上 SAVINGDA Pro の管理コンソールとしてご使用の場合： 空き容量1GB 以上
メモリ	Hitachi bd Link の管理コンソールとしてご使用の場合： 4GB 以上 SAVINGDA Pro の管理コンソールとしてご使用の場合： 1GB 以上
ネットワーク I/F	100Base-TX 以上の Ethernet
必須ソフトウェア	Microsoft® .NET Framework 3.5 SP1 Microsoft® .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack Microsoft® SQL Server® 2005 SP3

ConsoleDA UI (Ver. 3.0)

	Microsoft® Windows Server® 2003 SP2 以降 Microsoft® Windows Server® 2003 R2 (32bit) Microsoft® Windows® XP Professional SP2 以降 Microsoft® Windows Vista® Business SP1 以降 (32bit) Microsoft® Windows® 7 Professional Edition (32bit)
CPU	Intel® Celeron® プロセッサ 540(1.8GHz) 以上
HDD	空き容量1GB 以上
メモリ	512MB 以上
ネットワーク I/F	100Base-TX 以上の Ethernet
必須ソフトウェア	Microsoft® .NET Framework 3.5 SP1 Microsoft® .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack Microsoft® Windows® Installer 3.1 以降 (Windows® XP SP2 使用時のみ必要)

ConsoleDA Agent (Ver. 3.0)

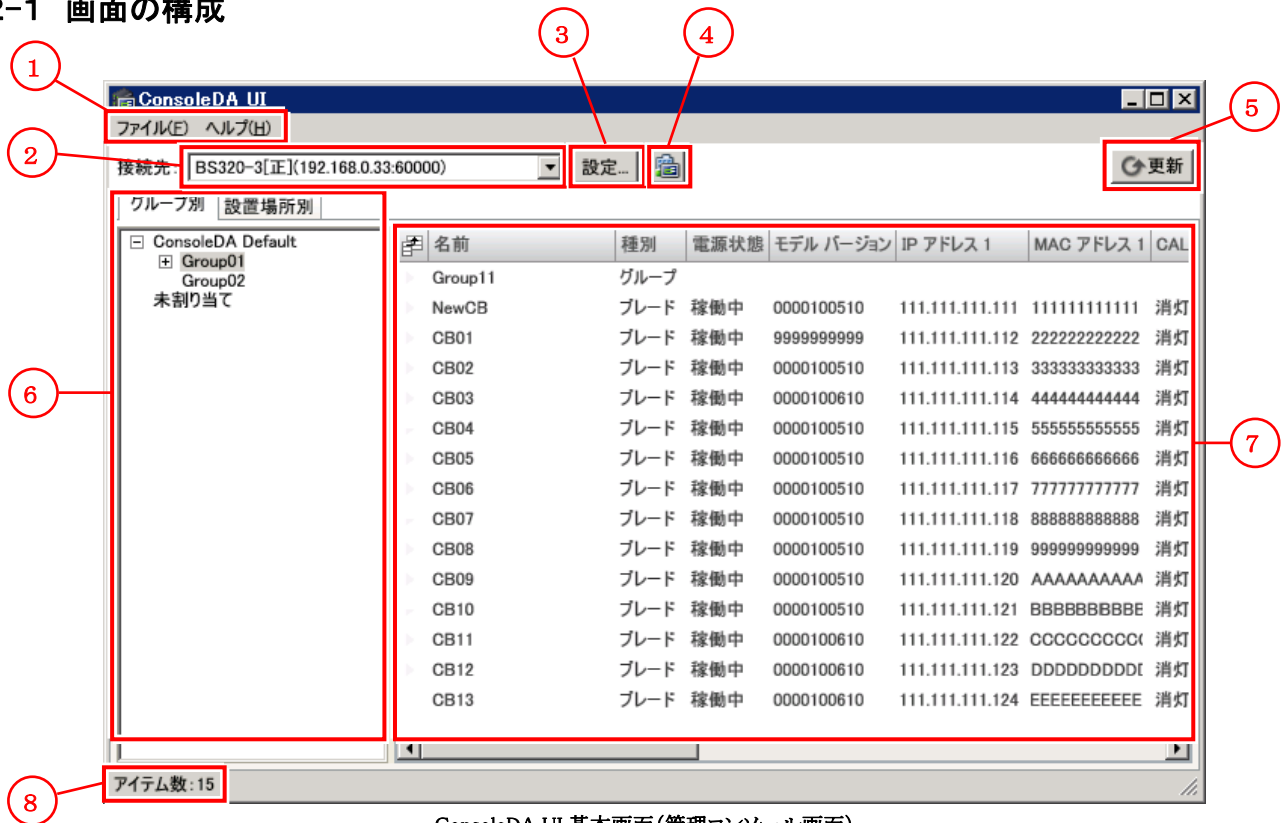
OS	Microsoft® Windows® XP Professional SP2 以降 Microsoft® Windows Vista® Business SP1 以降 (32bit) Microsoft® Windows® 7 Professional (32bit)
適用機種	FLORA bd100 X6 モデル、FLORA bd500 X7 モデル
HDD	空き容量1GB 以上
必須ソフトウェア	Microsoft® .NET Framework 3.5 SP1 Microsoft® .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack Microsoft® Windows® Installer 3.1 以降 (Windows® XP SP2 使用時のみ必要)

ConsoleDA Agent For Server (Ver. 3.0)

OS	Microsoft® Windows Server® 2003 SP2 以降 Microsoft® Windows Server® 2003 R2 (32bit/64bit) Microsoft® Windows Server® 2008 SP2 以降 Microsoft® Windows Server® 2008 R2
適用機種	FLORA bd100 X6 モデル、FLORA bd500 X7 モデル、 FLORA gd500 X7 モデル、HA8000-bd/BD10 モデル
HDD	空き容量1GB 以上
必須ソフトウェア	Microsoft® .NET Framework 3.5 SP1 Microsoft® .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack Microsoft® Windows® Installer 3.1 以降 (Windows Server® 2003 SP2 使用時のみ必要)

2 初期設定

2-1 画面の構成



ConsoleDA UI 基本画面(管理コンソール画面)

①メインメニュー

ファイルのインポート、接続先管理、外部ツール・デプロイ機能の使用などを行います。

②接続先

接続中の ConsoleDA Manager を表示します。[▼]ボタンをクリックすると、接続先を切り替えることができます。

③設定ボタン

接続先 ConsoleDA Manager の設定画面を表示します。

④「VDC Viewer」起動ボタン

データセンターのビジュアル表示を行う「VDC Viewer」を起動します。

(この機能は「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にご使用できます。)

⑤「更新」ボタン

ConsoleDA Manager と通信を行い、画面の表示内容を最新の情報に更新します。

⑥ツリー構成表示エリア

ユーザー定義のグループまたは設置場所の登録情報をツリー状に表示します。

タブで グループ別表示/設置場所別表示 を切り替えます。

⑦アイテムリスト

登録されているグループ・設置場所・ラック・シャーシ・ブレードを一覧表示します。

⑧ステータス

ツリー構成表示エリアにて選択されているアイテムの下層に属するアイテム数、またはアイテムリストにてユーザーが選択中のアイテムの数を表示します。

2-2 「ConsoleDA Manager」への接続

・ConsoleDA Managerに接続するには次のように操作します。(初回起動時は、接続管理画面が自動で表示されます。)

1. デスクトップ上のショートカットまたは、「スタートメニュー」→「すべてのプログラム」→「ConsoleDA」→「ConsoleDA UI」を選択して ConsoleDA UI を起動してください。
2. ConsoleDA UI が起動すると、次の接続管理画面が表示されます。「追加」ボタンをクリックしてください。

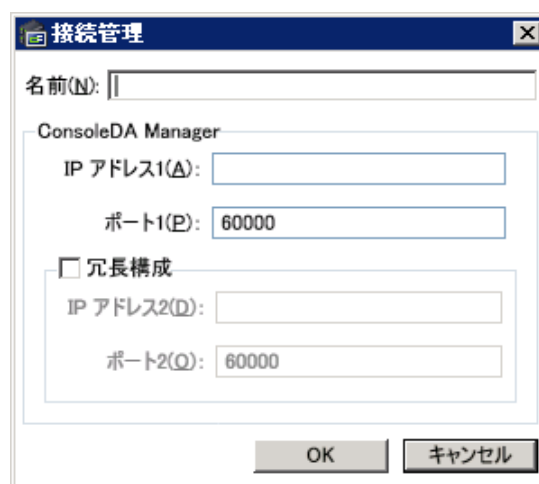


3. 接続設定画面が表示されます。以下の各項目を入力してください。

- ・「名前」欄 接続先の管理用の、任意の名前(サーバのコンピューター名など)
- ・「IP アドレス 1」欄 ConsoleDA Manager がインストールされているサーバの IP アドレス
- ・「ポート 1」欄 ConsoleDA Manager の受信ポート

正副冗長構成を組んでいる場合は「冗長構成」にチェックを入れ、以下の各項目を追加設定してください。

- ・「IP アドレス 2」欄 副側の ConsoleDA Manager がインストールされているサーバの IP アドレス
- ・「ポート 2」欄 副側の ConsoleDA Manager の受信ポート



4. 「OK」ボタンをクリックし接続設定画面を閉じてください。
5. 「閉じる」ボタンをクリックして接続管理設定を終了します。

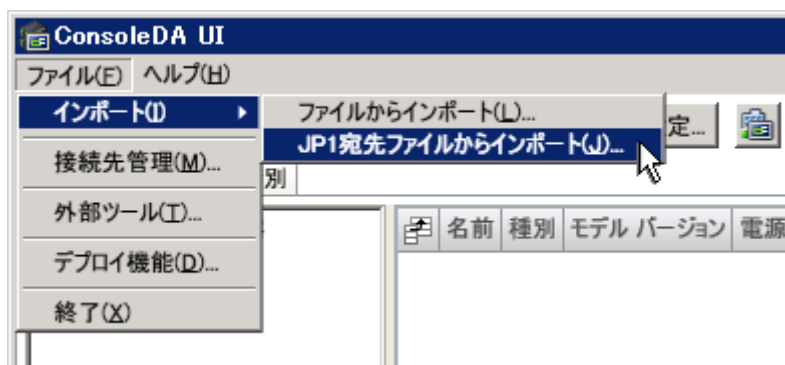
注意	<ul style="list-style-type: none"> 各ブレードにてBMC (Baseboard Management Controller) のパスワードが出荷状態から変更されている場合は、パスワードの設定が必要です。「4-2 IPMIの設定」を参照して、パスワードを設定してください。
補足	<ul style="list-style-type: none"> 接続先情報が未設定の状態では ConsoleDA UI を起動すると、初回起動時と同様に接続設定画面が表示されません。 「ConsoleDA Manager」に設定されるポートのデフォルト値は「60000」です。 複数の ConsoleDA Manager と接続可能です。設定方法は、「4-1 接続先の管理」を参照してください。

2-3 JP1 宛先ファイルのインポート

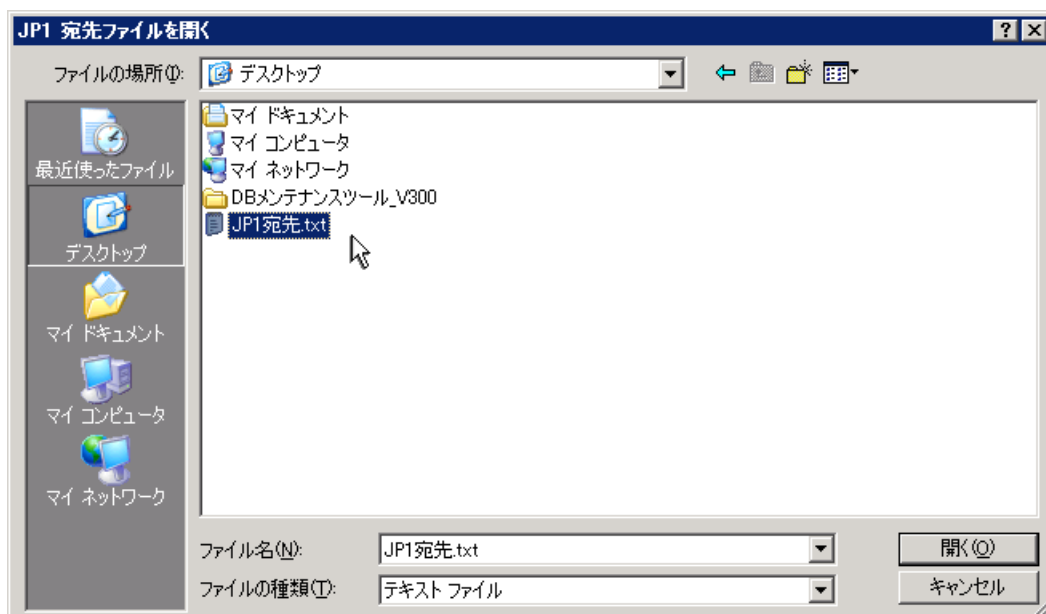
データベースが初期状態の時のみ、JP1 宛先ファイルをインポートすることができます。

・JP1 宛先をインポートするには次のように操作します。

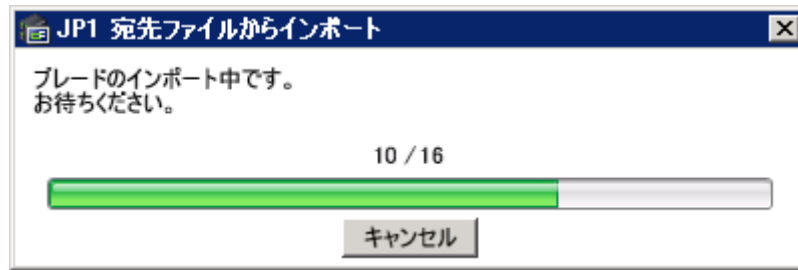
1. メインメニューの「ファイル」を選択し、「インポート」の「JP1 宛先ファイルからインポート」を選択してください。



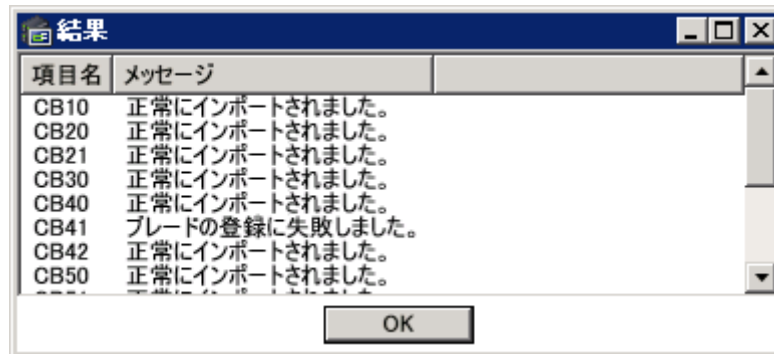
2. 「JP1 宛先データ」が入っているテキスト形式のファイルを選択して、「開く」をクリックしてください。



3. インポート進行ダイアログが次のように表示されます。



4. インポートが完了すると、その結果が表示されます。

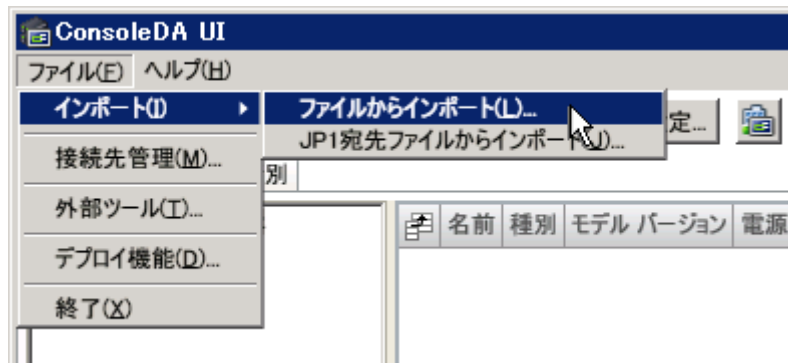


2-4 CSVファイルのインポート

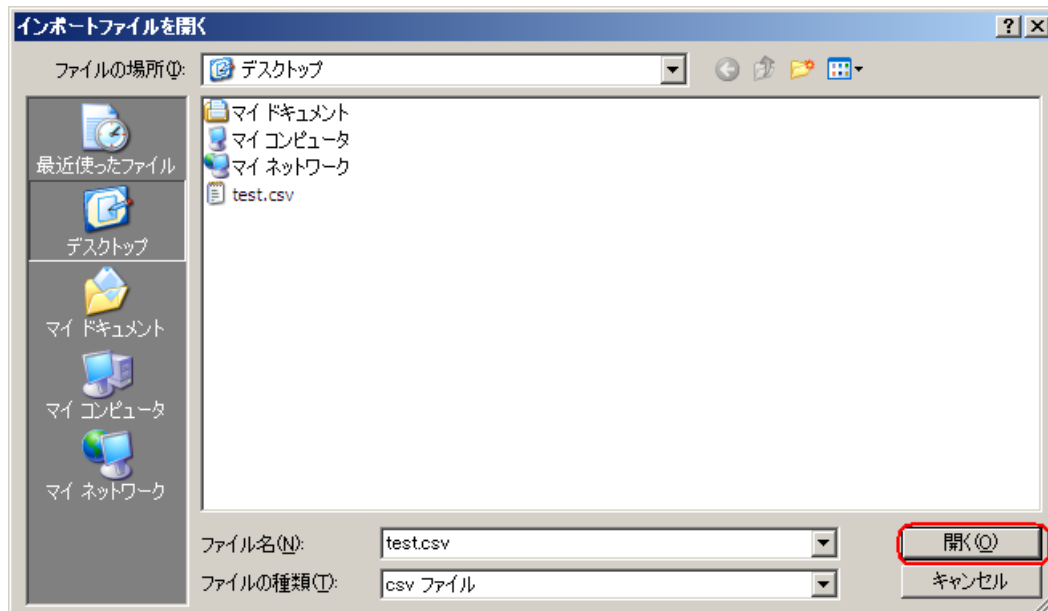
・CSV ファイルからブレードをインポートするには次のように操作します。

(「ConsoleDA Agent」または「ConsoleDA Agent For Server」を用いない場合、この方法か手動登録(2-9 新規ブレードの作成方法)を行ってブレード情報を作成してください。)

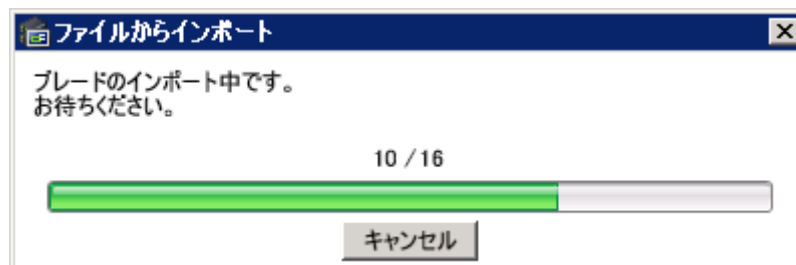
1. メインメニューの「ファイル」から、「インポート」を選択し、「ファイルからインポート」を選択してください。



2. CSV 形式のファイルを選択して、「開く」をクリックしてください。



3. インポート進行ダイアログが次のように表示され、インポートが完了するとダイアログが消えます。



以下、「CSV ファイル」のフォーマット形式です。

NEWCB01,9999999999,192.168.1.1,11-22-33-44-55-66,192.168.1.1,11-22-33-44-55-66,
新しいフォルダ,PLACE01,RACK01,CHASSIS1,1,192.168.1.1,11-22-33-44-55-66

※ 上図では折り返しがされていますが、実際には 1 行で書いてください。

カラム列数	図表示	項目	必須
1	NEWCB01	PC 名	○
2	9999999999	モデル バージョン(下記参照)	○
3	192.168.1.1	IP アドレス 1	○
4	11-22-33-44-55-66	MAC アドレス 1	○
5	192.168.1.1	IP アドレス 2	
6	11-22-33-44-55-66	MAC アドレス 2	
7	新しいフォルダ	グループ名(グループのフルパス)	
8	PLACE01	設置場所名	
9	RACK01	ラック名	
10	CHASSIS1	シャーシ名	
11	1	スロット No	
12	192.168.1.1	BMC IP アドレス	△※
13	11-22-33-44-55-66	BMC MAC アドレス	△※

※ …… HA8000-bd/BD10 モデルは入力必須

表中の必須の欄にマークが入っていない項目は記述を省略できます。

以下に、最小限の記述例を示します。

NEWCB01,0000100510,192.168.1.1,11-22-33-44-55-66,,,,,,,,

「モデル バージョン」には、以下の表を参照してブレードのモデルに対応する 10 桁の数字を入力してください。

モデル バージョン	番号
FLORA bd100 X6	0000100410
FLORA bd500 X7	0000100510
FLORA gd500 X7	0000100510
HA8000-bd/BD10	0000100610
モデルバージョン不明	9999999999

注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ HA8000-bd/BD10 モデルについては、「BMC IP アドレス」と「BMC MAC アドレス」の入力が必須です。 ・ FLORA bd100 X6 モデル、FLORA bd500 X7 モデル、FLORA gd500 X7 モデルについては、「BMC IP アドレス」と「BMC MAC アドレス」を入力する場合は、「IP アドレス 1」「MAC アドレス 1」と同じ値にしてください。 ・ 「BMC IP アドレス」と「BMC MAC アドレス」のどちらか一方のみの記述はしないでください。 ・ 「BMC IP アドレス」と「BMC MAC アドレス」を省略する場合は、行末の 2 つのコンマ(,)も一緒に省略してください。 ・ モデルバージョンが適切に入力されていない場合、該当モデルでのみ利用できる機能が利用できません。 ・ 複数のブレードを同時に登録する場合、ファイルの順番通りに登録されない場合があります。
-----------	--

2-5 新規グループの作成方法

・新しく「グループ」を作成するには次のように操作します。

1. 正常に「ConsoleDA Manager」に接続できると管理コンソール画面が表示されます。「グループ別」タブが選択されていることを確認し、「ConsoleDA Default」を右クリックして、メニューから「新規作成」→「グループ」を選択してください。



2. 新しく作成するグループの名前を入力してください。



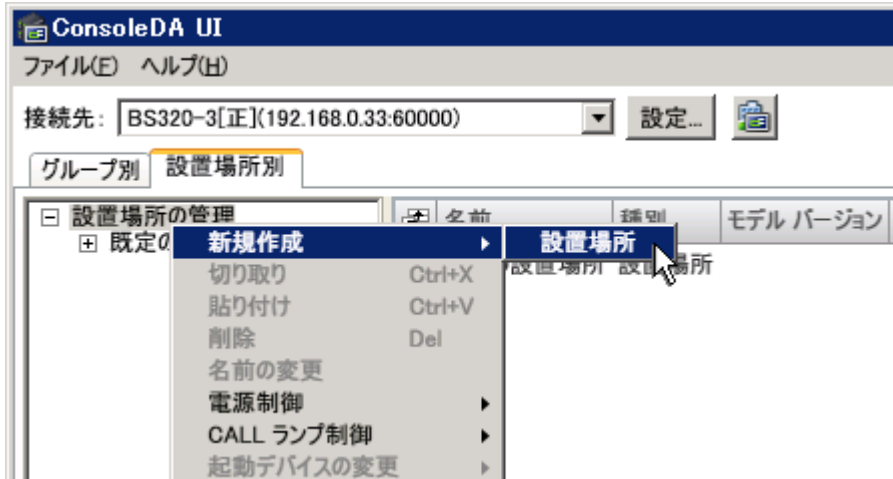
3. 入力した名前のグループが作成されます。

制限	<ul style="list-style-type: none">・作成できるグループは最大「6 階層」までです。・グループ階層上の位置に関係なく、同じ名前のグループを作成することはできません。・グループ名として設定できる文字数は、全角 16 文字、半角 32 文字までです。
-----------	---

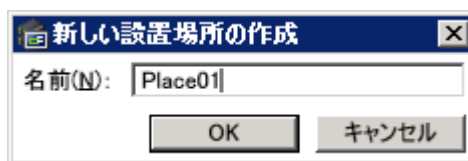
2-6 新規設置場所の作成方法

・新しく「設置場所」を作成するには次のように操作します。

1. 画面の「設置場所別」タブをクリックしてください。
2. 「設置場所別」画面が表示されるので、「設置場所の管理」を右クリックし、「新規作成」→「設置場所」を選択してください。



3. 新しく作成する設置場所の名前を入力してください。



4. 入力した名前の設置場所が作成されます。

制限	<ul style="list-style-type: none">・階層上の位置に関係なく、同じ名前の設置場所を作成することはできません。・設置場所名として設定できる文字数は、全角・半角によらず最大 8 文字までです。
-----------	---

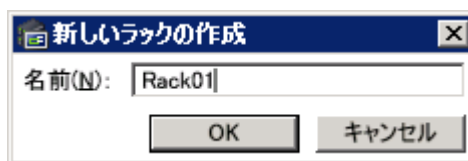
2-7 新規ラックの作成方法

・新しく「ラック」を作成するには次のように操作します。

1. 「設置場所別」タブをクリックし、階層表示を展開して「既定の設置場所」または新しく作成した設置場所を表示します。
2. 「既定の設置場所」または、新しく作成した設置場所を右クリックし、「新規作成」→「ラック」を選択してください。



3. 新しく作成するラックの名前を入力してください。



4. 入力した名前のラックが作成されます。

制限	<ul style="list-style-type: none">・階層上の位置に関係なく、同じ名前のラックを作成することはできません。・ラック名として設定できる文字数は、全角・半角によらず最大 10 文字までです。
-----------	--

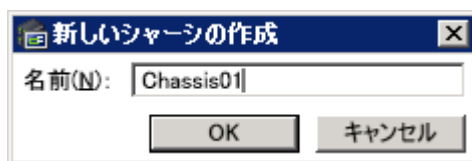
2-8 新規シャーシの作成方法

・新しく「シャーシ」を作成するには次のように操作します。

1. 「設置場所別」タブをクリックし、階層表示を展開して「既定のラック」または新しく作成したラックを表示します。
2. 「既定のラック」または、新しく作成したラックを右クリックし、「新規作成」→「シャーシ」を選択してください。



3. 新しく作成するシャーシの名前を入力してください。



4. 入力した名前のシャーシが作成されます。

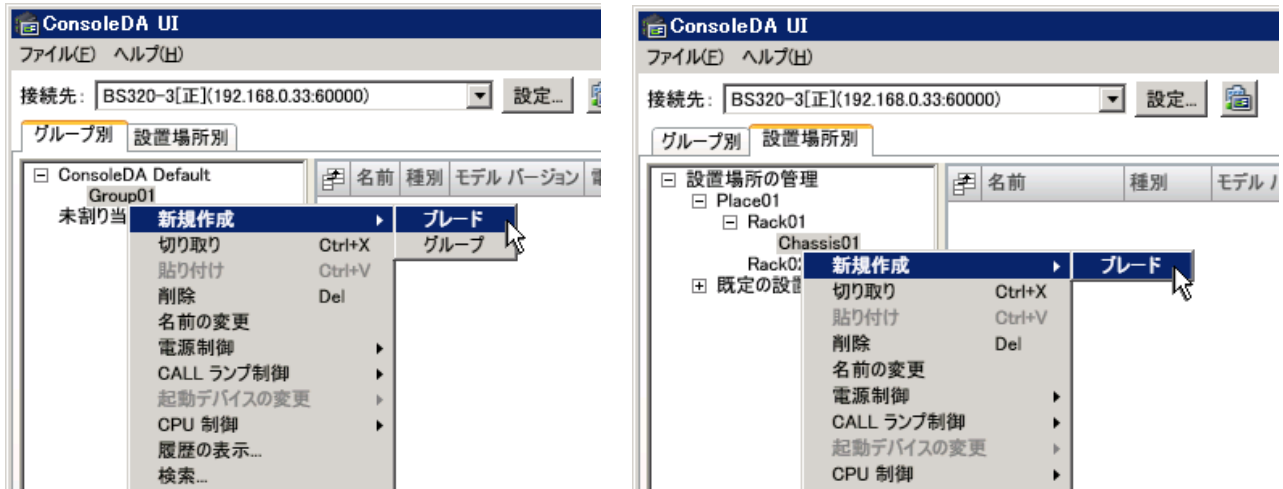
制限	<ul style="list-style-type: none">・階層上の位置に関係なく、同じ名前のシャーシを作成することはできません。・シャーシ名として設定できる文字数は、全角・半角によらず最大 10 文字までです。
-----------	--

2-9 新規ブレードの作成方法

・新しく「ブレード」を作成するには次のように操作します。

(ブレードに「ConsoleDA Agent」または「ConsoleDA Agent For Server」をインストールしておく自動的に登録されますので、この操作は不要になります。また、CSVファイルによる一括登録もできます(2-4 CSVファイルのインポート。))

1. 「グループ」または「シャーシ」を右クリックして、メニューから「新規作成」→「ブレード」を選択してください。



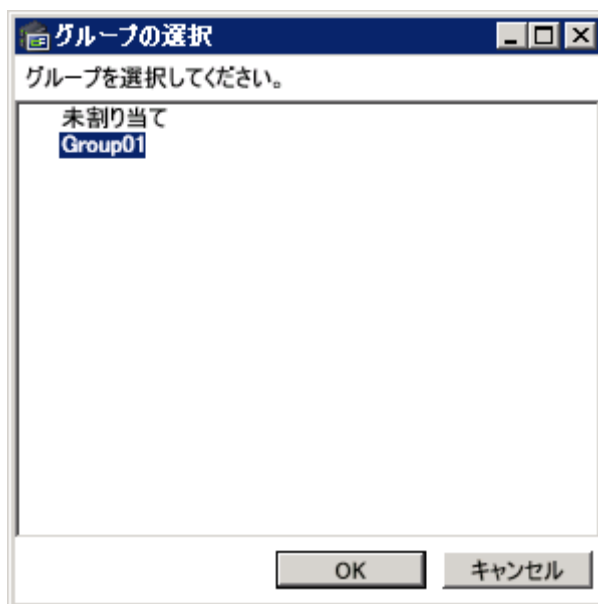
2. 選択すると、「ブレードの登録」画面が次のように表示されます。各入力欄に必要な情報を入力してください。(入力欄が赤色の項目は入力が必須です。)

The image shows the 'ブレードの登録' (Blade Registration) dialog box. The title bar says 'ブレードの登録' and there is a close button (X). The main text says '登録するブレードの情報を入力してください。' (Please enter the information for the blade to be registered.). Below this are several input fields:

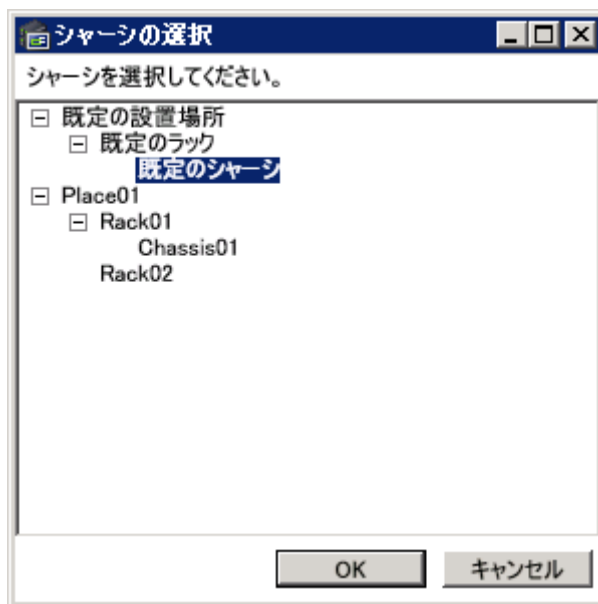
- コンピューター名(N): [Red field]
- IP アドレス 1(I): [Red field]
- MAC アドレス 1(M): [Red field]
- IP アドレス 2(E): [White field]
- MAC アドレス 2(A): [White field]
- グループ: Group01 [White field] with a '参照(W)' (Reference) button to its right.
- 設置場所: 既定の設置場所*既定のラック* [White field] with a '参照(R)' (Reference) button to its right.
- スロット No.(S): 1 [White field]
- BMC IP アドレス(B): [White field]
- BMC MAC アドレス(C): [White field]
- モデル バージョン(V): [Red field]

At the bottom right, there are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

3. 作成中のブレードの登録グループを変更する場合は、グループの「参照」ボタンをクリックし、一覧から登録したいグループを選択し、「OK」ボタンをクリックして設定を反映してください。



4. 作成中のブレードの登録設置場所の変更は設置場所の「参照」ボタンをクリックし、一覧から登録したいシャーシを選択し、「OK」ボタンをクリックして設定を反映してください。



5. 「モデル バージョン」欄には、以下の表を参照してブレードのモデルに対応する 10 桁の数字を入力してください。

モデル バージョン	番号
FLORA bd100 X6	0000100410
FLORA bd500 X7	0000100510
FLORA gd500 X7	0000100510
HA8000-bd/BD10	0000100610
モデルバージョン不明	9999999999

6. 入力必須項目(「PC 名」, 「IP アドレス 1」, 「MAC アドレス 1」, 「モデル バージョン」)の設定が完了すると「登録」ボタンが有効になりますので、「登録」ボタンをクリックして登録を完了してください。

7. 登録が完了すると、登録したブレードが次のように表示されます。

名前	種別	モデルバ...	電源状態	CALL...	STATUS...	IP アドレス 1	MAC アドレ
NewCB	ブレード	0000100510	停止中	消灯	消灯	111.111.111.1	2222222222

<p>注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ FLORA bd500 X7 以降のモデルではスロット番号が自動設定されます。ただし、ブレードをシャーシに取り付けた直後は表示されるスロット番号が正しくない場合があります。その場合、ブレードを一度再起動するか、休止に移行するとスロット番号が正しく表示されます。 ・ FLORA bd500 X7 以降のモデルでは、スロット No.を手動設定できません。手動設定を行っても、電源状態が変わると自動で上書き設定されます。 ・ 「コンピューター名」には、半角英数字および ‘-’ (ハイフン) 以外の文字は使用しないでください。 ・ 「コンピューター名」にはアルファベットの大文字・小文字が使用できますが、ConsoleDA 内部の処理では大文字・小文字が区別されません。 ・ 同じコンピューター名、または大文字・小文字のみの差異しかないコンピューター名を持つブレードがないようにしてください。 ・ モデルバージョンが適切に入力されていない場合、該当モデルでのみ利用できる機能が利用できません。
<p>補足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未設定の IP アドレス, MAC アドレス, スロット No.の値はそれぞれ 255.255.255.255, FFFFFFFF, 255 になります。 ・ BMC IP アドレス・BMC MAC アドレスが未設定の場合、代替アドレスとして IP アドレス 1・MAC アドレス 1 が用いられます。

3 運用管理

3-1 状態・情報の表示

3-1-1 状態表示

・登録されているブレードの状態は「グループ別」または「設置場所別」に一覧表示されます。

グループ別		設置場所別																																		
<ul style="list-style-type: none"> ☐ ConsoleDA Default <ul style="list-style-type: none"> ☐ Group01 <ul style="list-style-type: none"> Group11 Group02 未割り当て 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>種別</th> <th>電源状態</th> <th>モデルバージョン</th> <th>IP アドレス 1</th> <th>MAC アドレス 1</th> <th>CALL ランプ</th> <th>STATUS ラ...</th> <th>BMC IP アド</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Group11</td> <td>グループ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NewCB</td> <td>ブレード</td> <td>稼働中</td> <td>0000100510</td> <td>111.111.111.111</td> <td>222222222222</td> <td>消灯</td> <td>消灯</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名前	種別	電源状態	モデルバージョン	IP アドレス 1	MAC アドレス 1	CALL ランプ	STATUS ラ...	BMC IP アド	Group11	グループ								NewCB	ブレード	稼働中	0000100510	111.111.111.111	222222222222	消灯	消灯									
名前	種別	電源状態	モデルバージョン	IP アドレス 1	MAC アドレス 1	CALL ランプ	STATUS ラ...	BMC IP アド																												
Group11	グループ																																			
NewCB	ブレード	稼働中	0000100510	111.111.111.111	222222222222	消灯	消灯																													

カラム列数	カラム列名	内容
①	名前	アイテム名
②	種別	アイテムの種類(設置場所・ラック・シャーシ・ブレード・グループ)
③	電源状態	電源状態(稼働・休止・停止・不明)
④	モデルバージョン	ブレードのモデルバージョン番号
⑤	IP アドレス 1	LAN1 に割り当てた IP アドレス
⑥	MAC アドレス 1	LAN1 の MAC アドレス
⑦	CALL ランプ	CALL ランプの点灯状態
⑧	STATUS ランプ	STATUS ランプの点灯状態
⑨	BMC IP アドレス	BMC に割り当てた IP アドレス
⑩	BMC MAC アドレス	BMC の MAC アドレス
⑪	IP アドレス 2	LAN2 に割り当てた IP アドレス
⑫	MAC アドレス 2	LAN2 の MAC アドレス
⑬	グループ	ブレードが登録されているグループ
⑭	設置場所	ブレードが設置されている設置場所
⑮	ラック	ブレードが入っているラック
⑯	シャーシ	ブレードがインストールされているシャーシ
⑰	スロット No	ブレードがインストールされているシャーシのスロット番号
⑱	最終更新	ブレードの情報が最後に更新された日付
⑲	最終配信	省電力スケジュールが最後に配信された日付
⑳	Agent バージョン	ブレードにインストールされている ConsoleDA Agent のバージョン

また、一覧画面のブレードの行は、状態により背景色が変わります。状態が重なった場合は、原則として優先順位の高い色になります。

色	優先順位	ステータス
赤	1	異常状態 (STATUS ランプ点滅状態)
黄	2	電源状態 不明 (ネットワーク切断等によりブレードの電源情報が得られない状態)
白	3	通常状態

設置場所別

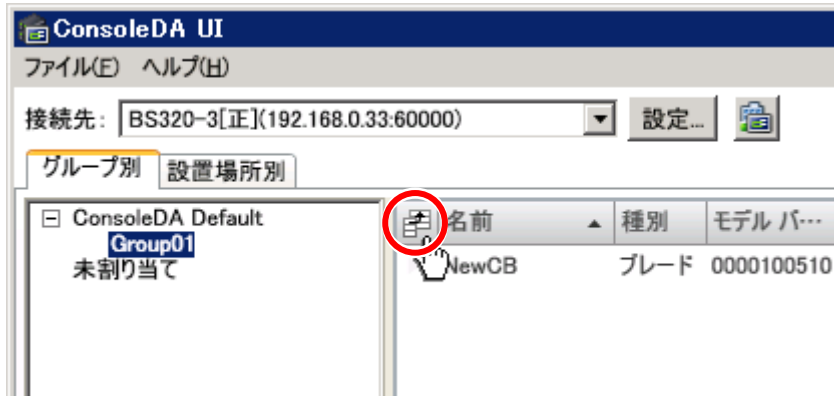
名前	種別	IP アドレス 1	MAC アドレス 1	電源状態	モ...
Group11	グループ				
NewCB	ブレード	111.111.111.111	222222222222	不明	000
NeuCB	ブレード	222.222.222.222	111111111111	停止中	000

注意	
	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク接続不良の状態から STATUS ランプが点滅状態になった場合は、STATUS ランプの情報が得られないため、表示は黄色のままとなります。このように表示が優先順位通りにならない場合もありますので、ご注意ください。 表示されるブレードの「電源状態」や CALL ランプ、STATUS ランプの状態は実機とは異なることがあります。「F5」キーや「更新」ボタンなどで最新の状態を取得してください。 ブレードが LAN に接続されていない状態で電源操作などを行った場合、「ConsoleDA UI」で表示される「電源状態」表示は正しくない場合があります。 Citrix® XenDesktop®環境でブレードを統合管理する場合、ブレードが休止状態になっていても、ConsoleDA UI 上で表示されるブレードの「電源状態」は「停止中」と表示されます。

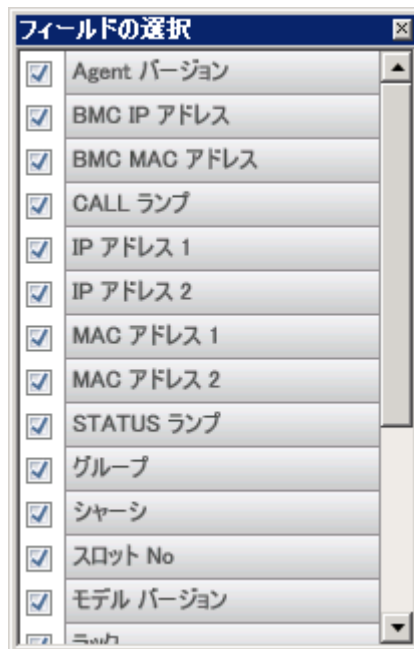
3-1-1-1 表示列の選択

・表示させる列を選択するには次のように操作します。

1. 管理コンソール画面の、次の図の赤枠部分のボタンをクリックしてください。



2. 表示させたい項目にはチェックを入れ、非表示にさせたい項目はチェックを外して、「×」ボタンをクリックしてください。

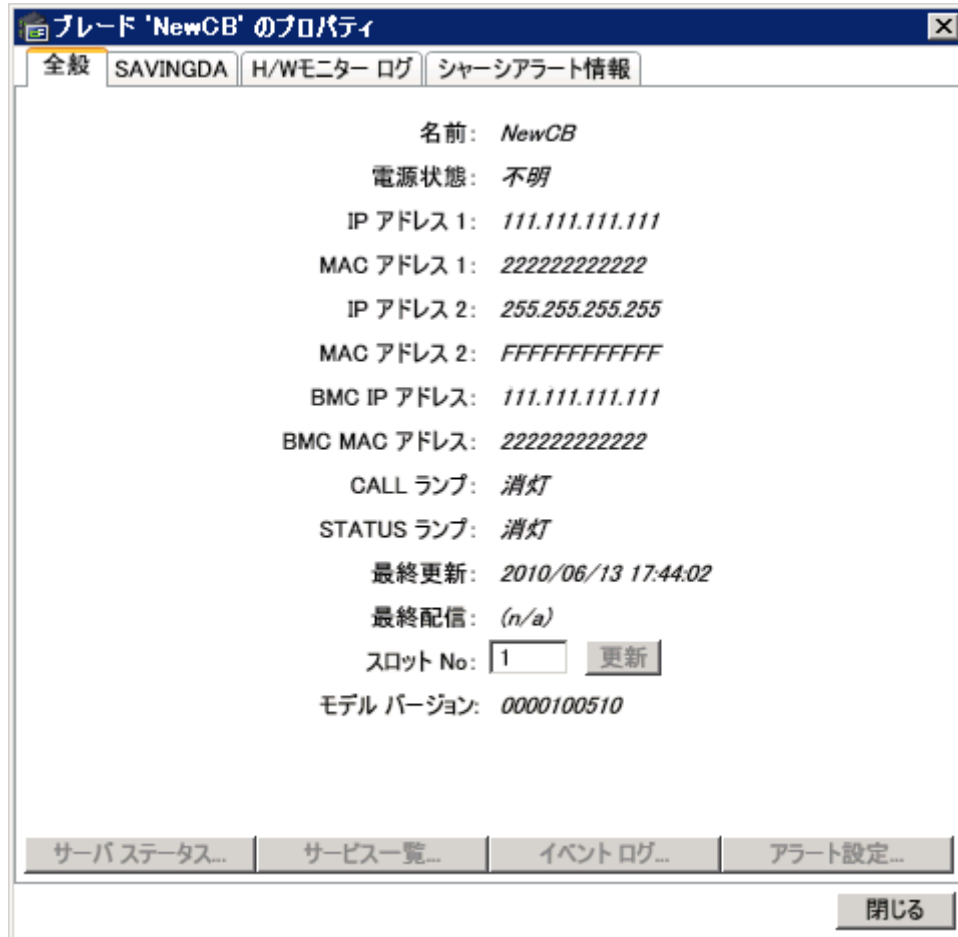


制限	<ul style="list-style-type: none">・「フィールドの選択」画面における表示列の並び順は固定です。・「フィールドの選択」画面において表示列のドラッグを行おうとするとマウスポインタが変化しますが、ドラッグ&ドロップによる操作はできません。
補足	<ul style="list-style-type: none">・各表示列は、列のヘッダー部分の区切り線をドラッグして表示幅を変更したり、列のヘッダー部分を別の列のヘッダーの区切りにドラッグ&ドロップすることにより並び順を変更したりすることができます。

3-1-2 ブレード情報表示

・ブレードの各種情報を見るには次のように操作します。

1. ブレードを選択して、右クリックメニューから「プロパティ」を選択してください。
2. ブレードの状態やネットワーク情報などが次のように表示されます。



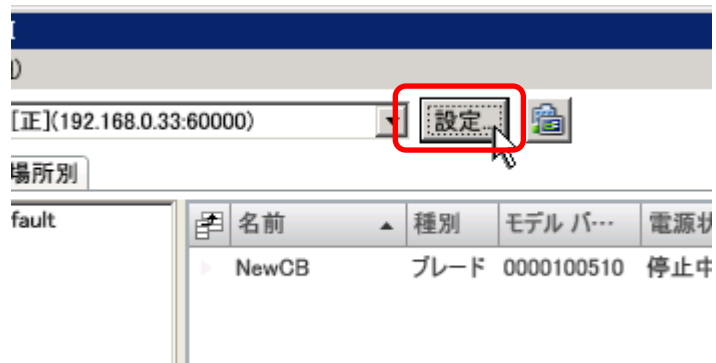
3. スロット No.を変更することができます。
変更する場合は、変更する番号を入力して「更新」ボタンをクリックしてください。

注意	・ FLORA bd500 X7 以降のモデルでは、スロット No.を変更できません。手動設定を行っても、電源状態が変わると自動で上書き設定されます。
-----------	---

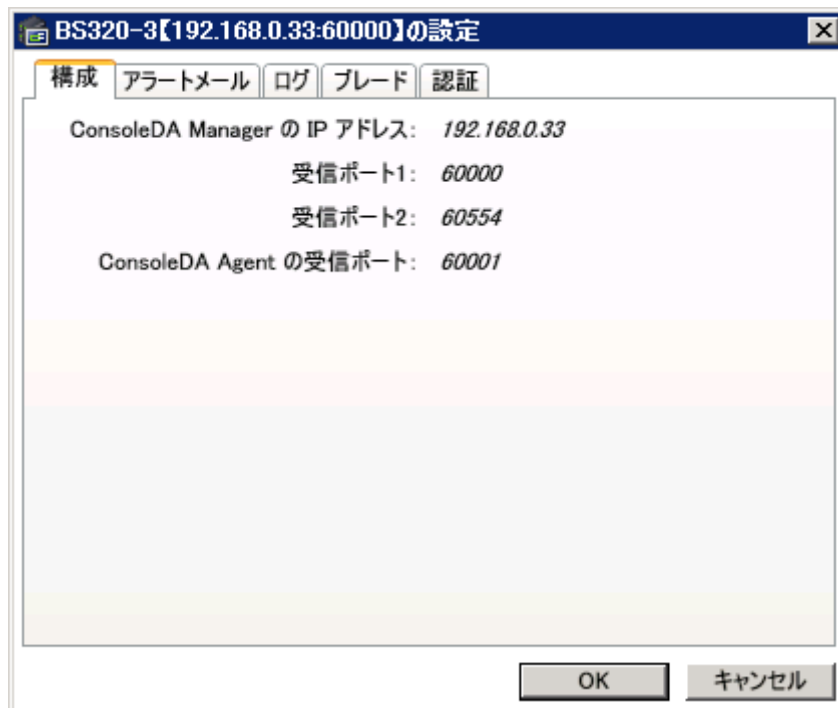
3-1-3 ConsoleDAの構成表示

・ConsoleDAの構成を見るには次のように操作します。

1. 管理コンソール画面の「設定」ボタンをクリックしてください。



2. 接続先の設定画面が開き、構成情報が表示されます。



3-1-4 ブレードの省電力設定表示

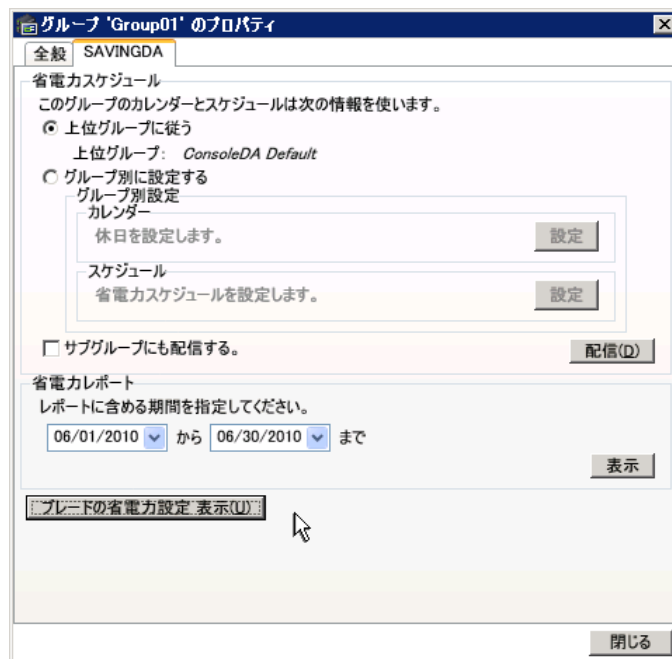
・ブレードに設定されている省電力設定を確認するには次のように操作します。

(※この機能は、ブレードに SAVINGDA Pro がインストールされている場合に有効です。また、サーバブレードでは本機能はご使用できません。)

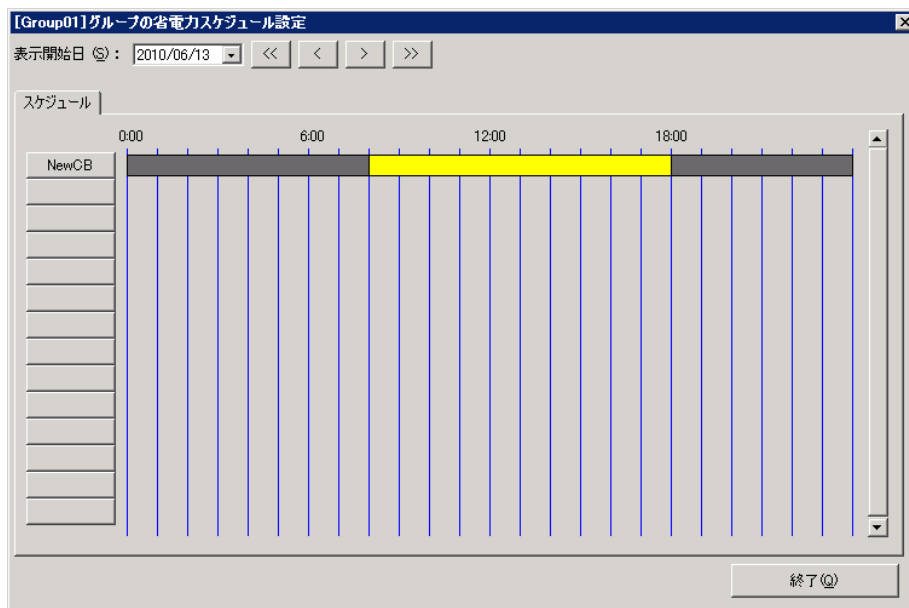
3-1-4-1 省電力設定の一覧表示

・1つのグループに登録されているブレードの省電力設定を一覧で表示するには次のように操作します。

1. グループのプロパティを表示し、「SAVINGDA」タブを選択してください。
2. 次の画面の「ブレードの省電力設定 表示」をクリックしてください。



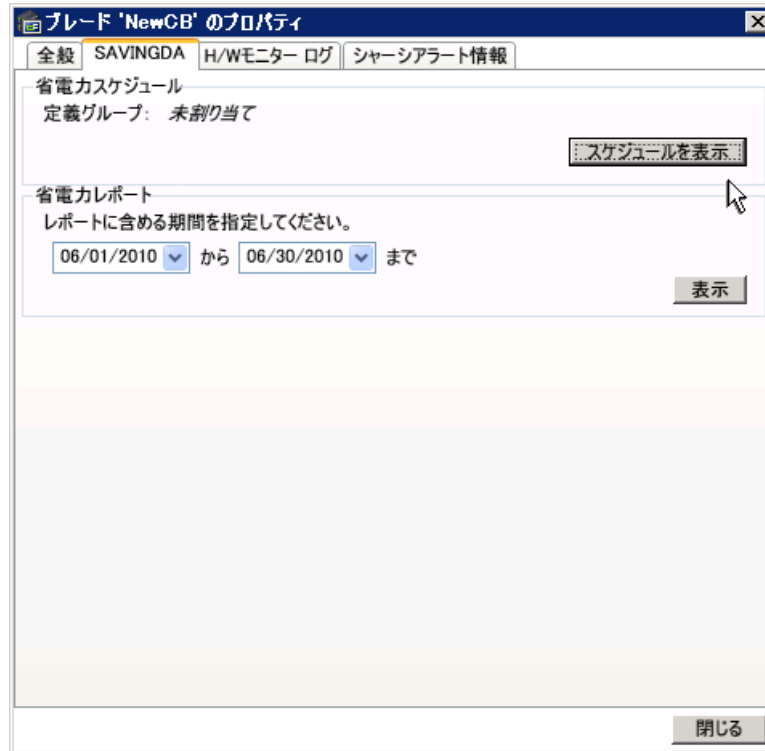
3. 選択しているグループに登録されているブレードの省電力設定が次の画面のように表示されます。



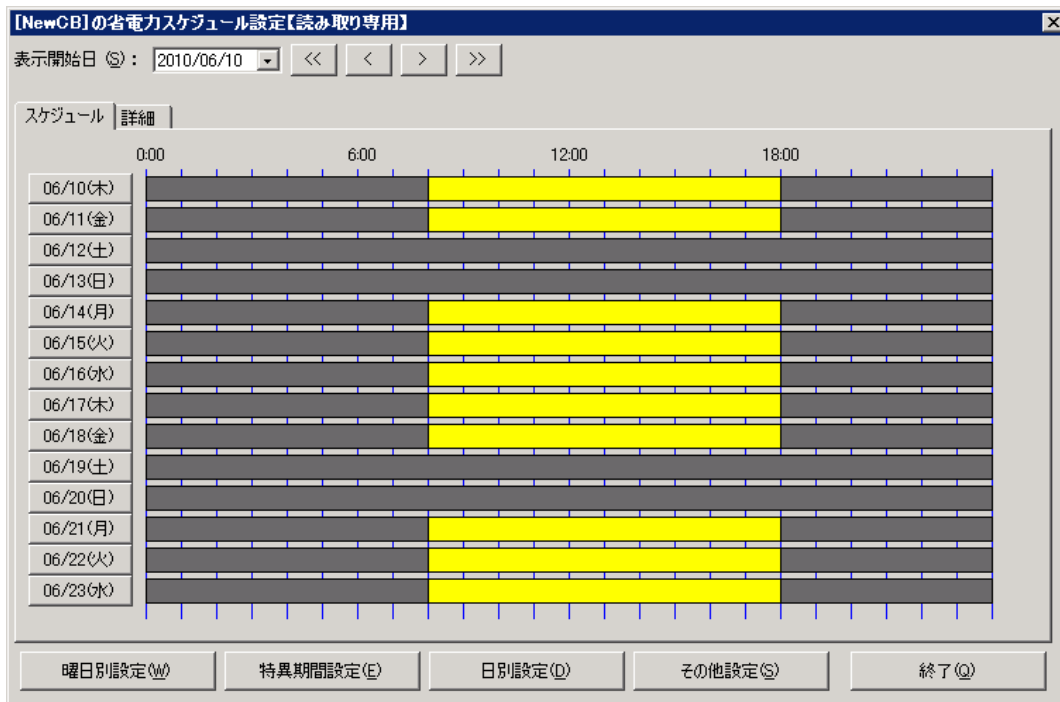
3-1-4-2 省電力設定の個別表示

・各ブレードの詳細な省電力設定を表示するには次のように操作します。

1. ブレードのプロパティを表示し、「SAVINGDA」タブを選択してください。
2. 「省電力スケジュール」の「スケジュールを表示」ボタンをクリックしてください。



3. ブレードの省電力設定が次の画面のように表示されます。



4. 「曜日別設定」、「特異期間設定」、「日別設定」以外の設定情報を見るには「その他の設定」をクリックしてください。

その他設定 【読み取り専用】

休止状態に入るまでのアイドル時間 (休止時間帯): 15分

休止状態に入るまでのアイドル時間 (通常時間帯): なし

PC復帰時に起動するプログラム:

プログラムに指定するコマンドライン:

ホットキー設定

「今すぐ休止状態」 なし

[今すぐ休止状態]後の復帰時間(分)

小休止:	15	(10~30)
昼休み:	45	(30~60)
会議:	120	(60~180)
出張:	240	(180~360)

閉じる

注意	<ul style="list-style-type: none"> ・省電力設定の個別表示は読み取りのみで、設定変更はできません。 ・「未割り当て」グループでは、「省電力設定の一覧表示」を行うことができません。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・「曜日別設定」・「特異期間設定」・「日別設定」の設定については、3-3-2 スケジュール設定を参照してください。 ・その他の設定画面の項目については「SAVINGDA Pro 取扱説明書」を参照してください。

3-2 情報の編集

3-2-1 グループ・設置場所・ブレードの移動

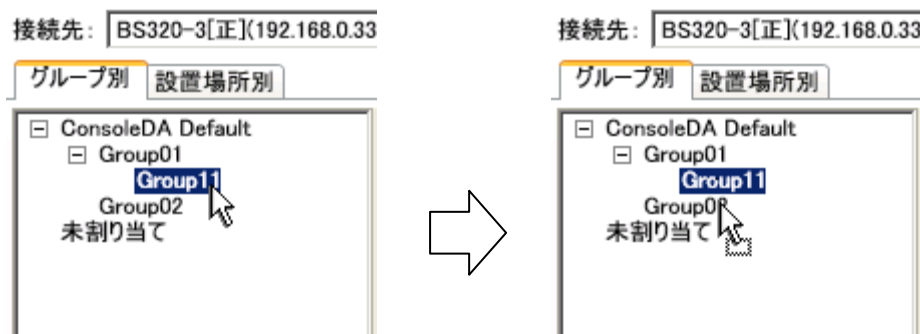
・ドラッグ&ドロップやカット&ペーストでグループ・設置場所・ブレードの移動ができます。

3-2-1-1 ドラッグ&ドロップ

・ドラッグ&ドロップでグループを他の場所に移動するには、次のように操作します。

(設置場所・ラック・シャーシ・ブレードについても同様の操作で移動ができます。)

1. 「グループ別」タブ選択し、移動する「グループ」と移動先である「グループ」を展開してください。
2. 移動する「グループ」をドラッグしたまま、移動先の「グループ」に持っていきます。
3. マウスポインタの右下に「□」が表示されたらドロップします。



4. 移動先の「グループ」に移動した「グループ」が表示されていれば、完了です。

制限	<ul style="list-style-type: none">・ デフォルトである「ConsoleDA Default」と「未割り当て」は移動することができません。・ 下位のグループから上位グループへの移動はできますが、上位グループから下位グループへの移動はできません。(他の下位グループに他の上位グループを移動することは可能)・ 「未割り当て」にグループを移動することはできません。・ デフォルトである「設置場所の管理」、「既定の設置場所」、「既定のラック」、「既定のシャーシ」または、「作成した設置場所」は移動できません。・ 設置場所の移動ができるのは「シャーシ」→「ラック」、「ラック」→「設置場所」のみとなっています。・ ブレードを「ConsoleDA Default」に移動することはできません。・ ブレードを設置場所・ラックに移動することはできません。
注意	<ul style="list-style-type: none">・ 移動するグループのサブグループとブレードも一緒に移動します。・ 移動する「ラック」・「シャーシ」に登録されているブレードも一緒に移動します。・ FLORA bd500 X7 モデルおよび HA8000-bd/BD10 モデルでは、コントロールボックスにシャーシ ID が設定されている場合、自動でシャーシが作成されブレードが配置されます。ブレードを再び「既定のシャーシ」へ手動で移動しても、電源状態の変更時に自動で元のシャーシに配置されます。(シャーシ ID が設定されていない場合は、「既定のシャーシ」に自動配置されます。) シャーシ ID の設定については、「FLORA bd500 ユーザーズガイド」または「HA8000-bd/BD10X1 ユーザーズガイド」を参照してください。

3-2-1-2 カット&ペースト

カット&ペーストでグループを他の場所に移動するには次のように操作します。

(設置場所・ラック・シャーシ・ブレードについても同様の操作で移動ができます。)

1. 「グループ別」画面を開き、次の画面のように移動する「グループ」と移動先である「グループ」を展開してください。
2. 移動する「グループ」の上で右クリックし、「切り取り」を選択してください。
3. 移動先の「グループ」または「詳細表示領域」で右クリックし、「貼り付け」を選択してください。



4. 移動先の「グループ」に移動した「グループ」が表示されていれば、完了です。

<p>制限</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ デフォルトである「ConsoleDA Default」と「未割り当て」は移動することができません。 ・ 下位のグループから上位グループへの移動はできますが、上位グループから下位グループへの移動はできません。(他の下位グループに他の上位グループを移動することは可能) ・ デフォルトである「設置場所の管理」, 「既定の設置場所」, 「既定のラック」, 「既定のシャーシ」または、「作成した設置場所」は移動できません。 ・ 「未割り当て」にグループを移動することはできません。 ・ 設置場所の移動ができるのは「シャーシ」→「ラック」、 「ラック」→「設置場所」のみとなっています。 ・ ブレードを「ConsoleDA Default」に移動することはできません。 ・ ブレードを設置場所・ラックに移動することはできません。
<p>注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動するグループのサブグループとブレードも一緒に移動します。 ・ 移動する「ラック」・「シャーシ」に登録されているブレードも一緒に移動します。 ・ FLORA bd500 X7 モデルおよび HA8000-bd/BD10 モデルでは、コントロールボックスにシャーシ ID が設定されている場合、自動でシャーシが作成されブレードが配置されます。ブレードを再び「既定のシャーシ」へ手動で移動しても、電源状態の変更時に自動で元のシャーシに配置されます。(シャーシ ID が設定されていない場合は、「既定のシャーシ」に自動配置されます。) シャーシ ID の設定については、「FLORA bd500 ユーザーズガイド」または「HA8000-bd/BD10X1 ユーザーズガイド」を参照してください。
<p>補足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーボードの「Ctrl + X」(切り取り)と「Ctrl + V」(貼り付け)でも操作可能です。

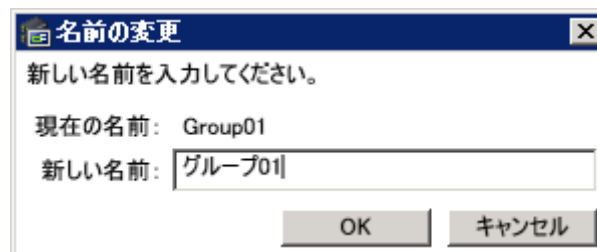
3-2-2 名前の変更

・グループ・設置場所・ラック・シャーシの名前を変更するには次のように操作します。

1. 名前を変更したいアイテムの上で右クリックし、「名前の変更」を選択してください。



2. 名前を入力後「OK」ボタンをクリックしてください。



3. 以上で名前の変更は完了です。

制限	<ul style="list-style-type: none">・グループ名として設定できる文字数は最大、半角 32 文字、全角 16 文字までです。・設置場所名として設定できる文字数は、全角・半角によらず最大 8 文字までです。・ラック・シャーシ名として設定できる文字数は、全角・半角によらず最大 10 文字までです。
注意	<ul style="list-style-type: none">・ブレードの名前は変更できません。

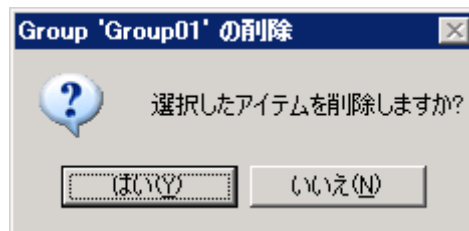
3-2-3 削除

・グループ・設置場所・ラック・シャーシ・ブレードを削除するには次のように操作します。

1. 削除したいアイテムの上で右クリックし、「削除」を選択してください。



2. 確認画面が次のように表示されるので、「はい」を選択してください。



3. 削除操作を行ったアイテムが表示されていなければ完了です。

制限	<ul style="list-style-type: none">・「ConsoleDA Default」・「未割り当て」は削除することができません。・「設置場所の管理」・「既定の設置場所」・「既定のラック」・「既定のシャーシ」は削除することができません。
注意	<ul style="list-style-type: none">・削除する「グループ」にブレードが登録されている場合、「未割り当て」に移動されます。・削除する「グループ」に「サブグループ」がある場合、「サブグループ」も含めて「グループ」が削除されます。・削除する「シャーシ」にブレードが登録されている場合、「既定のシャーシ」に移動されます。・削除する「ラック」に「シャーシ」が登録されている場合、「既定のラック」に移動されます。・削除する「設置場所」に「ラック」が登録されている場合、「既定の設置場所」に移動されます。・「グループ別」からブレードの削除を行った場合、ブレードは「未割り当て」に移動されます。・「設置場所別」からブレードの削除を行った場合、ブレードは「既定のシャーシ」に移動されます。

3-3 省電力設定の操作・設定

(※この機能は、ブレードに SAVINGDA Pro がインストールされている場合に有効です。また、サーバブレードでは本機能はご使用できません。)

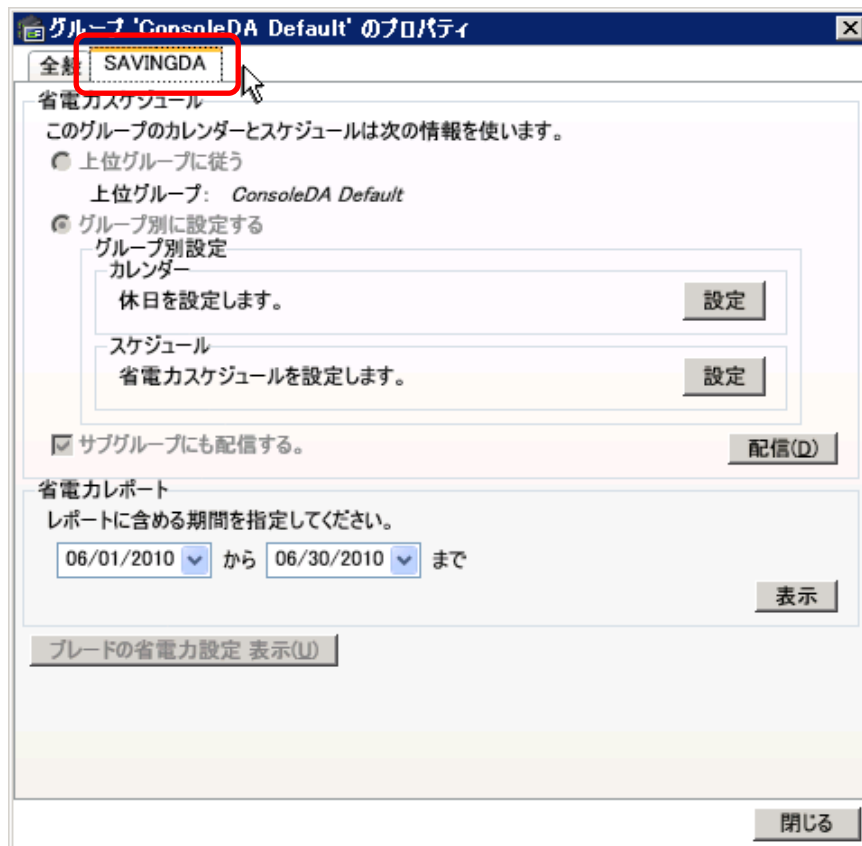
3-3-1 カレンダーと休日スケジュール設定

・カレンダー設定では、祝祭日などの不定期な休日のスケジュールを設定します。

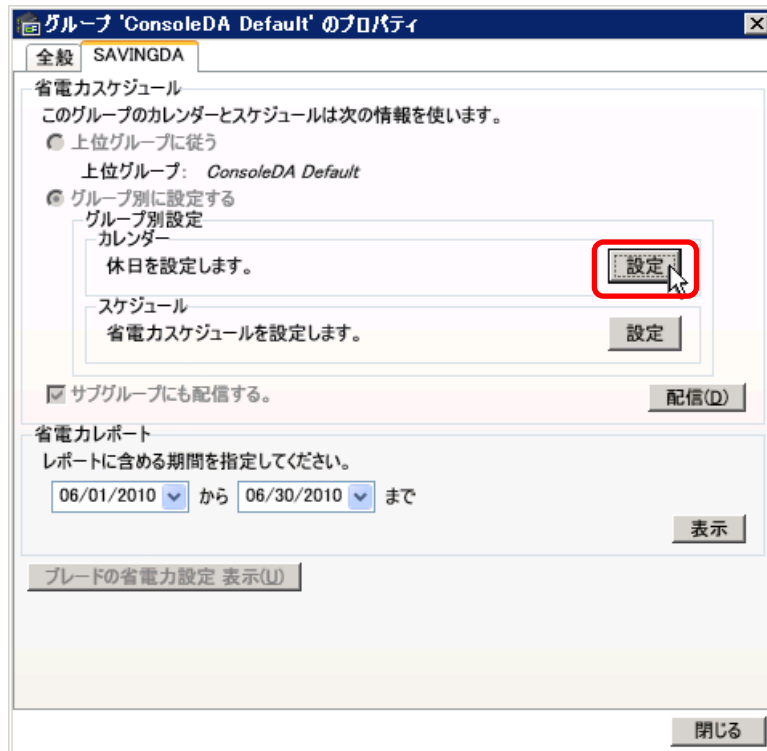
土日など、定期的な休日はスケジュール設定の「[3-3-2-1 曜日別設定](#)」で行ってください。

・「カレンダー設定」で省電力設定をするには次のように操作します。

1. 「ConsoleDA Default のプロパティ」または、「各グループのプロパティ」で「SAVINGDA」タブをクリックしてください。

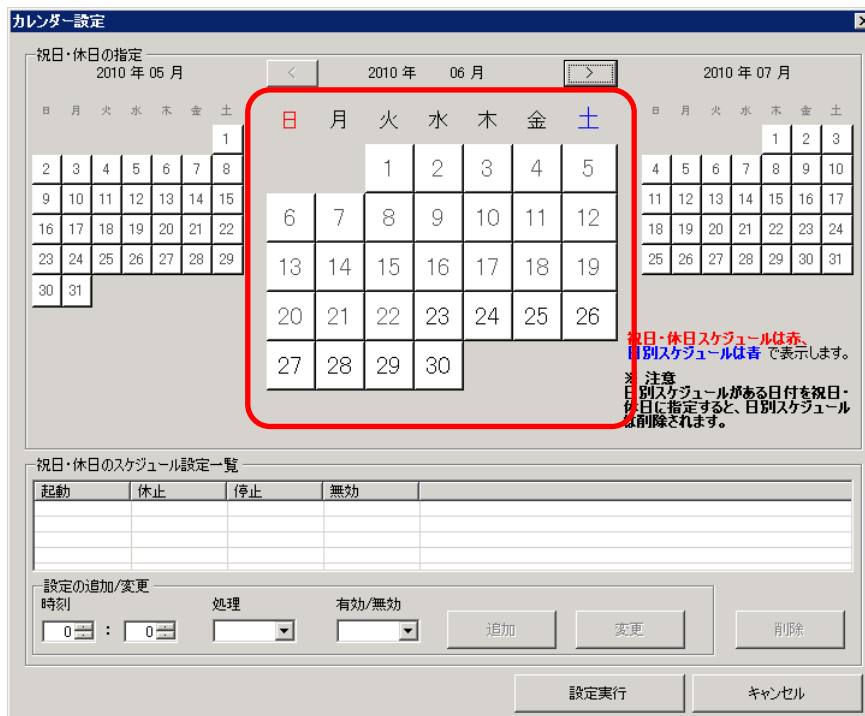


2. 「カレンダー」の「設定」ボタンをクリックします。

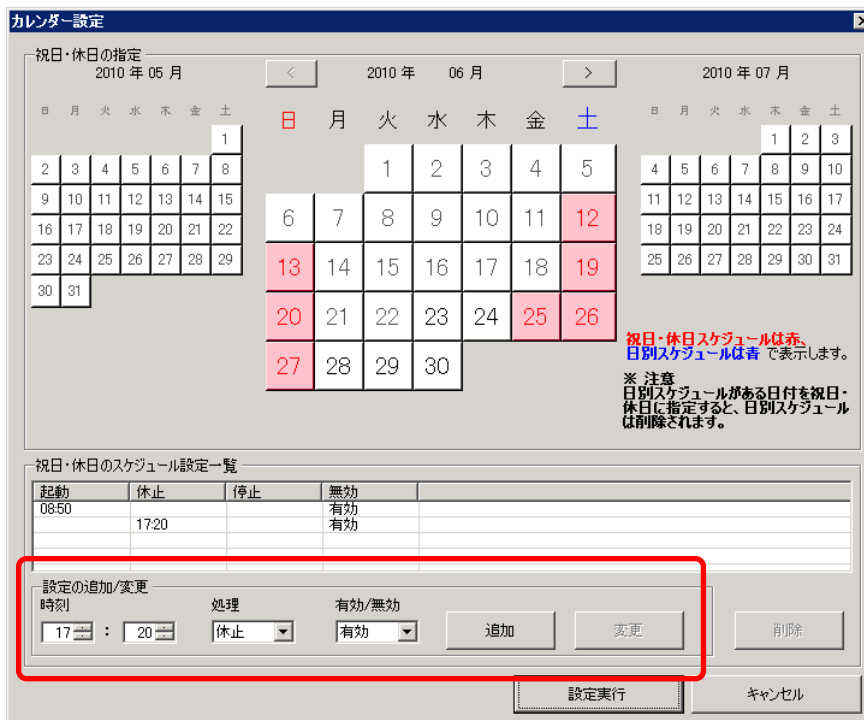


<p>補足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ConsoleDA Default」以外のグループは初期状態では「ConsoleDA Default」のスケジュールを使用します。 ・グループ別にカレンダーを設定する場合には上記の画面で「グループ別に設定する」にチェックを入れてください。
-----------	--

3. 祝日・休日に当てはまる日付を選択してください。



4. 指定した祝日・休日のスケジュールを「設定の追加/変更」にて設定してください。



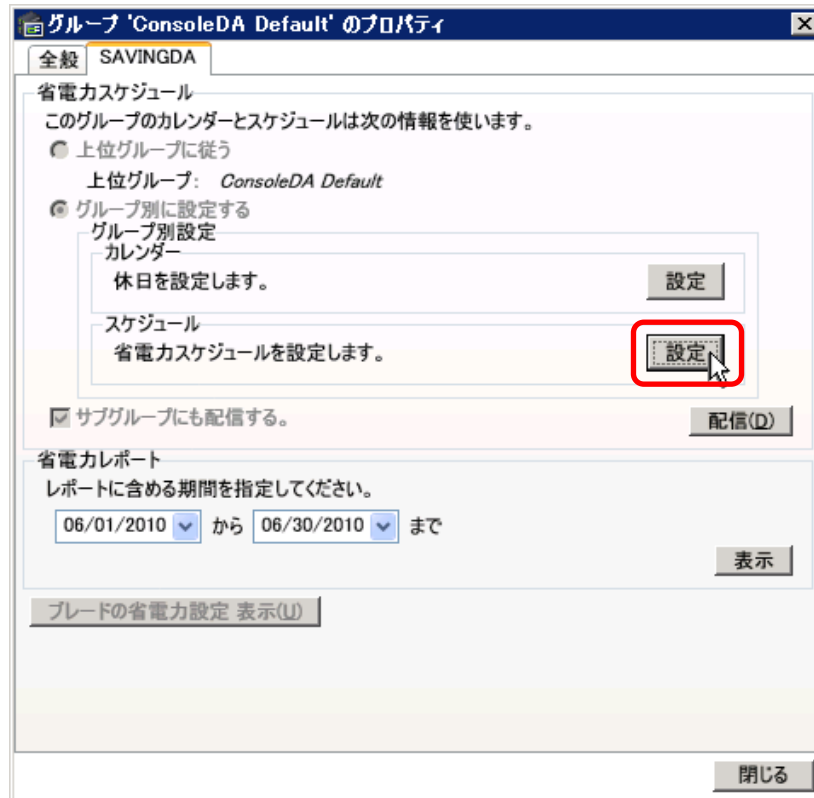
5. すべて入力が完了していることを確認し、「設定実行」ボタンをクリックしてください。

注意	<ul style="list-style-type: none"> ・「未割り当て」グループには、グループ独自の「カレンダー」、「スケジュール」は割り当てられません。 ・日別スケジュールがある日付を祝日・休日に指定すると、日別スケジュールは削除されます。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・既に設定しているスケジュールを変更する場合はそのスケジュールを選択し、「変更」ボタンをクリックしてください。(削除についても同様です。) ・スケジュール設定一覧に「停止」列がありますが、「停止」機能を使うことはできません。 ・過去の日付に対して設定を行うことはできません。

3-3-2 スケジュール設定

・省電力スケジュールを設定するには次のように操作します。

1. 「ConsoleDA Default のプロパティ」または、「各グループのプロパティ」で「SAVINGDA」タブをクリックしてください。
2. 「スケジュール」の「設定」ボタンをクリックします。



3. 「グループの省電力スケジュール設定」画面が次のように表示されます。



補足

・この「グループの省電力スケジュール設定」画面は初期状態の画面です。

3-3-2-1 曜日別設定

・起動/休止時刻を曜日別(月・火・水・木・金・土・日)で設定します。

曜日	起動	休止	停止	無効
月	08:50	17:20		有効
火	08:50	17:20		有効
水	08:50	17:20		有効
木	08:50	17:20		有効
金	08:50	17:20		有効

・平日(月曜～金曜)の8:50に起動し17:20に休止するように設定するには次のように操作します。

1. 「グループの省電力スケジュール設定」画面から「曜日別設定」を選択します。「曜日別設定」画面が表示されます。
2. [設定追加/変更]欄の各項目を設定します。[曜日]を「月」、[時刻]を「8:50」、[処理]を「起動」、[有効/無効]を「有効」に設定します。
3. 「追加」ボタンをクリックすると、[設定追加/変更]欄の内容が曜日別設定一覧に追加されます。
4. [時刻]を17:20、[処理]を休止に設定して「追加」ボタンをクリックします。
5. [曜日]を「火」、「水」、「木」、「金」に変更し、それぞれ 2～4. の操作を行います。
6. 追加した設定を変更したい場合は、曜日別設定一覧表の変更したい行を選択します。すると選択した設定内容が[設定追加/変更]欄の各ボックスに反映されます。変更したい項目の値を編集し「変更」ボタンをクリックすると、曜日別設定一覧表の選択していた行の設定内容が変更されます。
7. 一覧にあるスケジュールを削除したい場合は、曜日別設定一覧表の削除したい行を選択して「削除」ボタンをクリックします。曜日別設定一覧表の選択していた行の設定内容が削除されます。複数行を選択した場合、選択した全ての設定が削除されます。
8. 最後に「設定実行」ボタンをクリックして、設定内容をスケジュールとして反映します。

制限	・各曜日に登録できるスケジュールは2つまでです。
注意	<ul style="list-style-type: none"> ・設定の追加/変更を行う際、[設定追加/変更]欄に空白の項目があると処理が実行できません。 ・有効/無効の設定を「無効」にすると、無効なスケジュールとして登録されますので、通常は「有効」にしてください。 ・「設定実行」ボタンをクリックすることで設定が反映されますので、必ず設定を完了するときは「設定実行」ボタンをクリックしてください。
補足	・曜日別設定一覧に「停止」列がありますが、「停止」機能を使うことはできません。

3-3-2-2 日別設定

・起動/休止時刻を日別(年月日単位)で設定します。

・特定の日に対し 8:50 に起動し 17:20 に休止するよう設定するには次のように操作します。

1. 「グループの省電力スケジュール設定」画面から「日別設定」を選択するか、設定したい日のボタンをクリックします。日別設定画面が表示されます。
2. 起動時間を追加します。[設定追加/変更]欄の各項目を設定し、「追加」ボタンをクリックします。日別設定一覧および、設定内容一覧(曜日別、特異期間設定と組み合わせた設定内容)に設定内容が追加されます。
3. 同様に休止時間を追加します。[設定追加/変更]欄の各項目を設定し、「追加」ボタンをクリックします。
4. 追加した設定を変更したい場合は、日別設定一覧表の変更したい行を選択します。すると選択した設定内容が[設定追加/変更]欄の各ボックスに反映されます。変更したい項目の値を編集し「変更」ボタンをクリックすると、日別設定一覧表の選択していた行の設定内容が変更されます。
5. 一覧にあるスケジュールを削除したい場合は、日別設定一覧表の削除したい行を選択して「削除」ボタンをクリックします。日別設定一覧表の選択していた行の設定内容が削除されます。複数行を選択した場合、選択した全ての設定が削除されます。
6. 最後に「設定実行」ボタンをクリックして、設定内容を起動/休止スケジュールとして反映します。

制限	・各日に登録できるスケジュールは2つまでです。
注意	<ul style="list-style-type: none"> ・設定の追加/変更を行う際、[設定追加/変更]欄に空白の項目があると処理が実行できません。 ・曜日別設定を行ってから日別設定を行ってください。日別設定のみの場合、最後のスケジュール以降は通常時間帯として扱われます。 ・祝日・休日スケジュールがある日付を指定すると、祝日・休日スケジュールは削除されます。
補足	・一覧に「停止」列がありますが、「停止」機能を使うことはできません。

3-3-2-3 特異期間設定

・開始日時と終了日時を指定し、その期間が起動状態または休止状態となるように設定します。

開始日	開始時刻	終了日	終了時刻	状態	終了状態
2010/08/06	17:20	2010/08/16	08:50	休止	起動

・2010/08/06 の 17:20 から 2010/08/16 の 8:50 までの期間を休止状態にするには次のように操作します。

1. 「グループの省電力スケジュール設定」画面から、「特異期間設定」を選択します。特異期間設定画面が表示されます。
2. [設定追加/変更]欄の各項目を下図のように選択し、「追加」ボタンをクリックします。

開始日	開始時刻	終了日	終了時刻	開始後状態	終了後状態
2010/08/06	17:20	2010/08/16	8:50	休止	起動

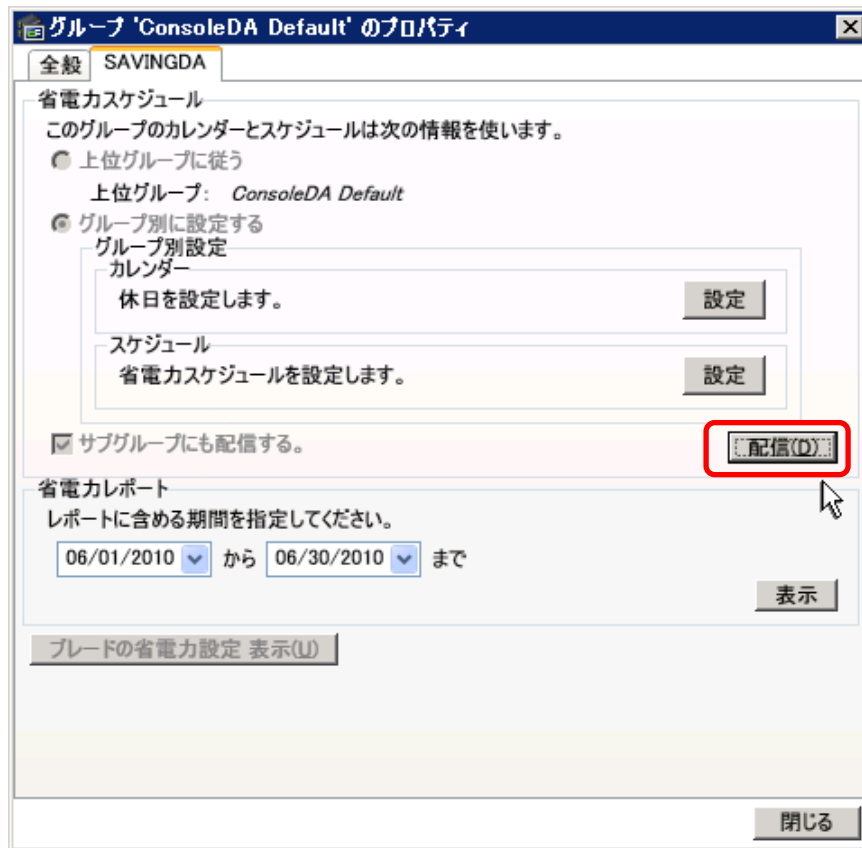
3. 追加した設定を変更したい場合は、特異期間設定一覧表の変更したい行を選択します。すると選択した設定内容が[設定追加/変更]欄の各ボックスに反映されます。変更したい項目の値を編集し「変更」ボタンをクリックすると、特異期間設定一覧表の選択していた行の設定内容が変更されます。
4. 一覧にあるスケジュールを削除したい場合は、特異期間設定一覧表の削除したい行を選択して「削除」ボタンをクリックします。特異期間設定一覧表の選択していた行の設定内容が削除されます。複数行を選択した場合、選択した全ての設定が削除されます。
5. 最後に「設定実行」ボタンをクリックして、設定内容を起動/休止スケジュールとして反映します。

注意	・設定の追加/変更を行う際、[設定追加/変更]欄に空白の項目があると処理が実行できません。
-----------	---

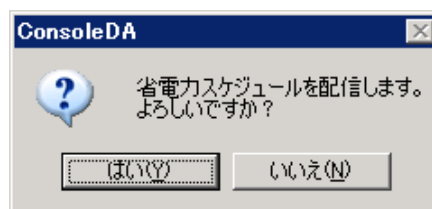
3-3-3 配信

・設定したスケジュールを各ブレードに配信するには次のように操作します。

1. 設定したスケジュールを各ブレードに配信する場合は「配信」ボタンをクリックしてください。



2. 確認ダイアログが次のように表示されるので、「はい」を選択してください。



3. 配信進行ダイアログが次のように表示され、配信が完了するとダイアログが消えます。



補足	<ul style="list-style-type: none">・ 通信障害などで配信に失敗した場合、または配信時にブレードが稼働していなかった場合は、ブレード起動時に自動的に配信されます。・ ここで配信した省電力設定を確認する場合は、「3-1-4 ブレードの省電力設定表示」を参照してください。
-----------	---

3-4 省電力効果レポートの表示

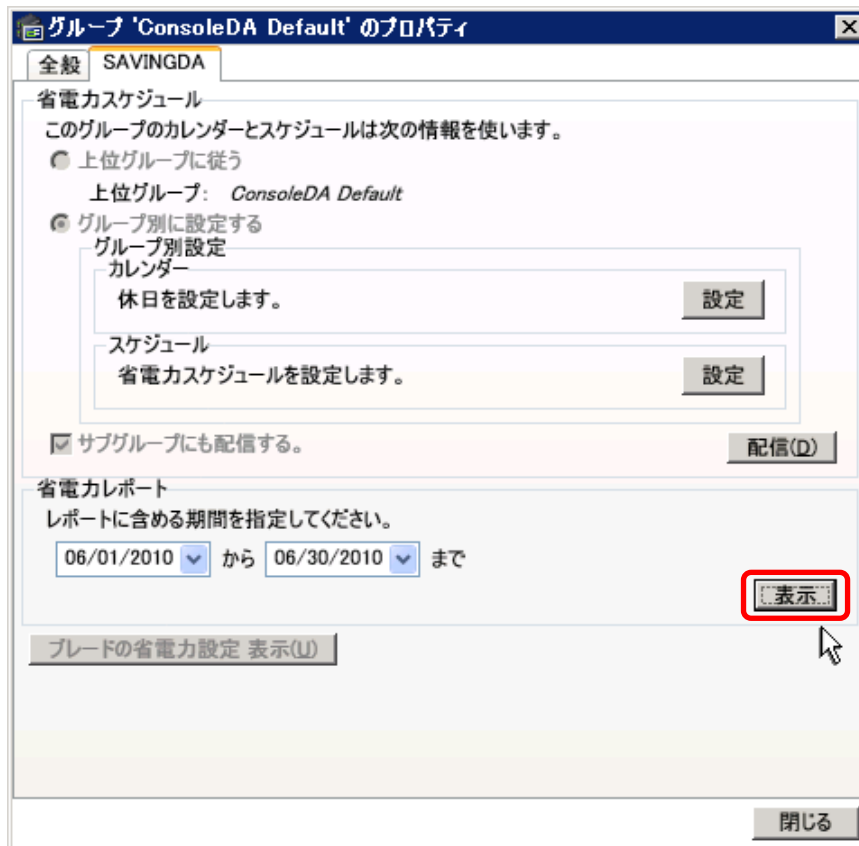
・省電力効果を確認するレポートを表示するには次のように操作します。

(※この機能は、ブレードに SAVINGDA Pro がインストールされている場合に有効です。また、サーバブレードでは本機能はご使用できません。)

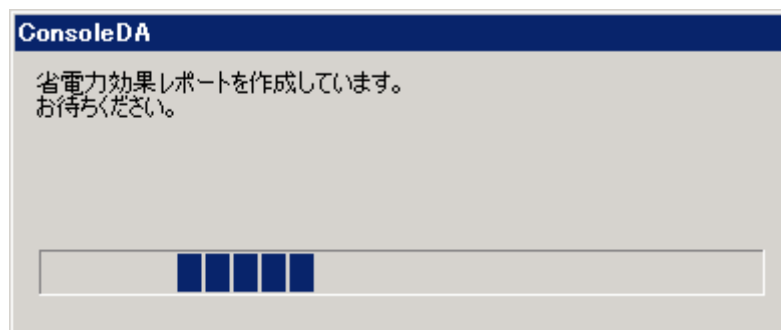
3-4-1 グループごとの省電力効果レポート表示

・グループに登録されているブレードの省電力効果レポートを表示するには次のように操作します。

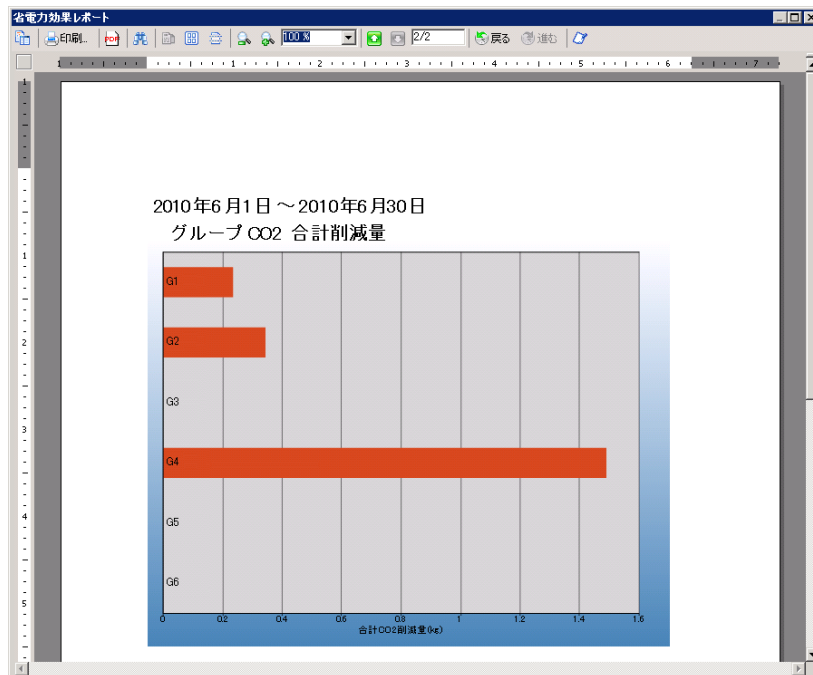
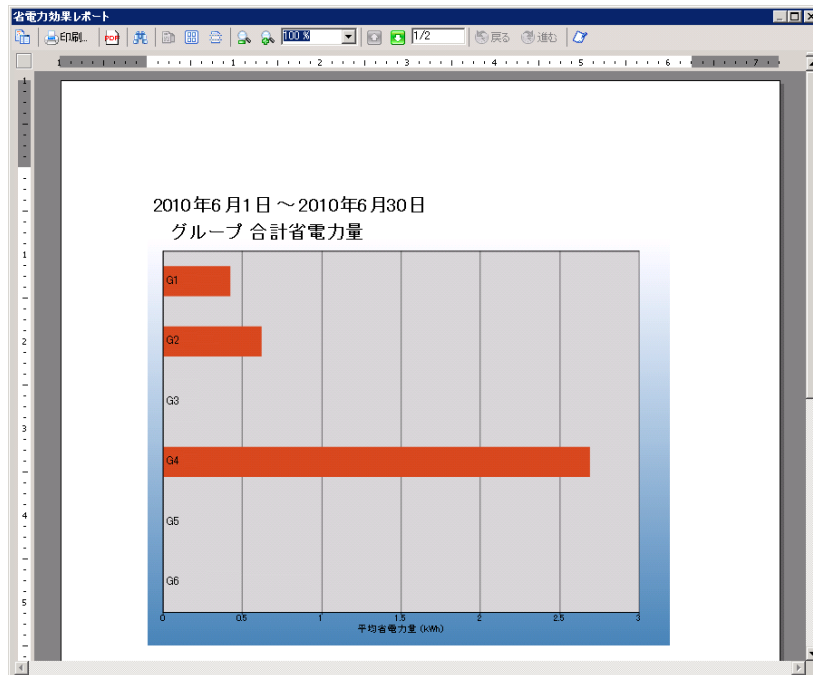
1. 「ConsoleDA Default のプロパティ」または「各グループのプロパティ」を表示し、「SAVINGDA」タブを選択してください。
2. 省電力効果レポートを表示する期間を設定し、「表示」ボタンをクリックしてください。



3. 取得進行ダイアログが次のように表示されます。



4. 取得できると、次のような画面が表示されます。



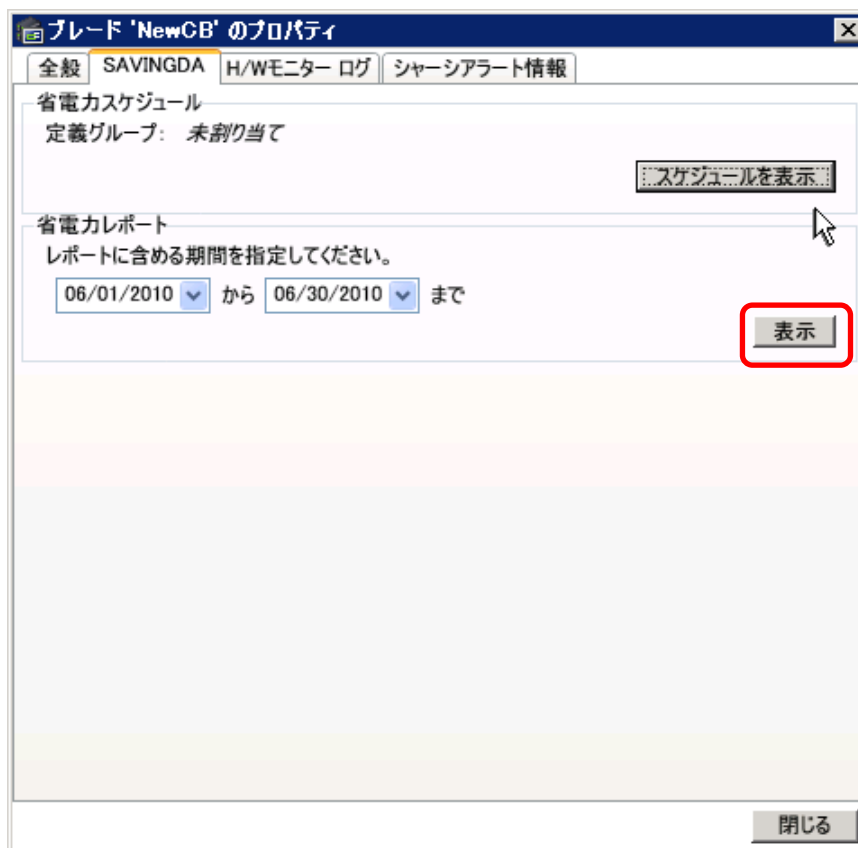
新しく作成したグループでも同様の操作で「省電力効果レポート」を表示します。

注意	<ul style="list-style-type: none">・省電力効果レポートを表示している日の省電力効果はレポートに反映されません。・稼動していないブレードについては最新の省電力効果が反映されません。
-----------	---

3-4-2 ブレードごとの省電力効果レポート表示

・各ブレードの省電力効果レポートを表示するには次のように操作します。

1. 「ブレードのプロパティ」を表示し、「SAVINGDA」タブを選択してください。
2. 省電力効果レポートを表示する期間を設定し、「表示」ボタンをクリックしてください。



3. 「省電力効果レポート」の画面については「[3-4-1 グループごとのレポート表示](#)」を参照してください。

3-5 ブレードの利用履歴表示

ブレードの動作履歴、およびユーザーの利用履歴をグラフと表を用いてレポート出力し、システムの稼働状況をまとめてとらえることができます。

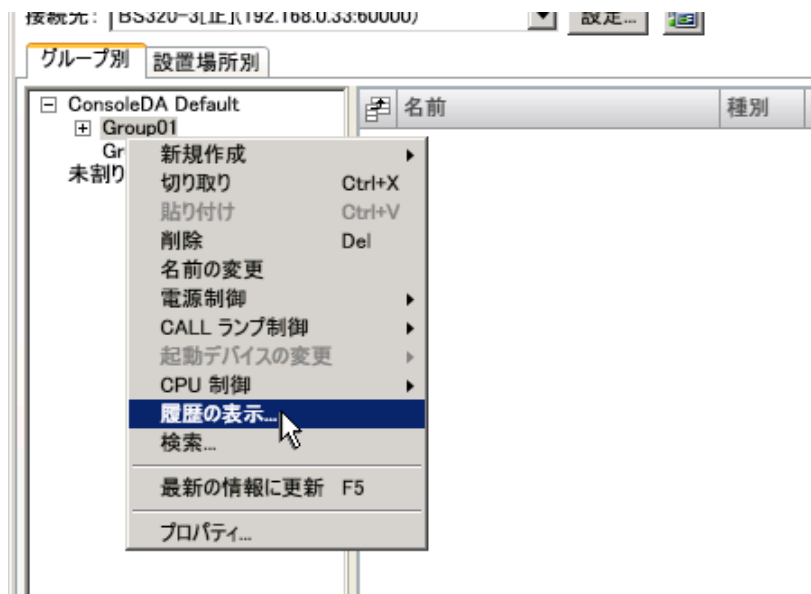
(※この機能は、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にご使用することができます。)

3-5-1 ブレードの接続履歴

・ブレードの接続履歴を表示するには、次のように操作します。

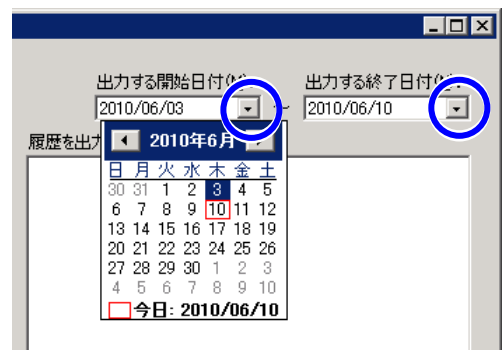
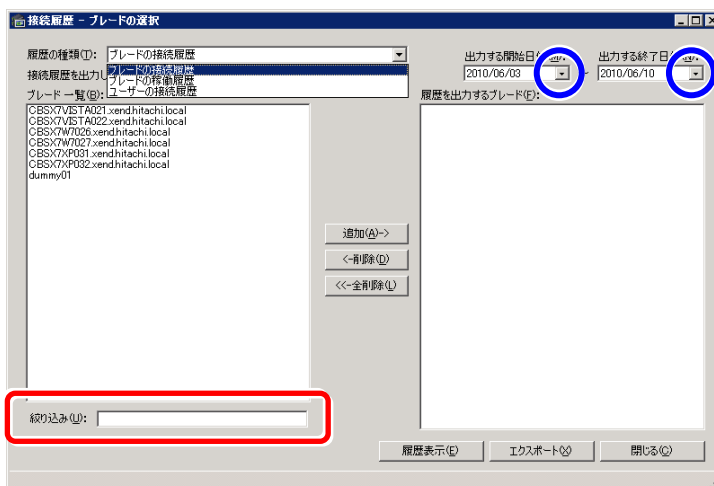
1. 「グループ」を右クリックし、「履歴の表示」を選択してください。

(データベースに登録されているブレードが多数の場合、選択画面が表示されるまで数秒かかることがあります。)

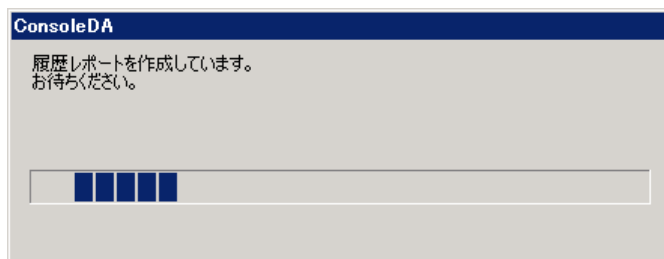


2. 選択画面が表示されましたら、まず表示する履歴の種類として「ブレードの接続履歴」を選択します。

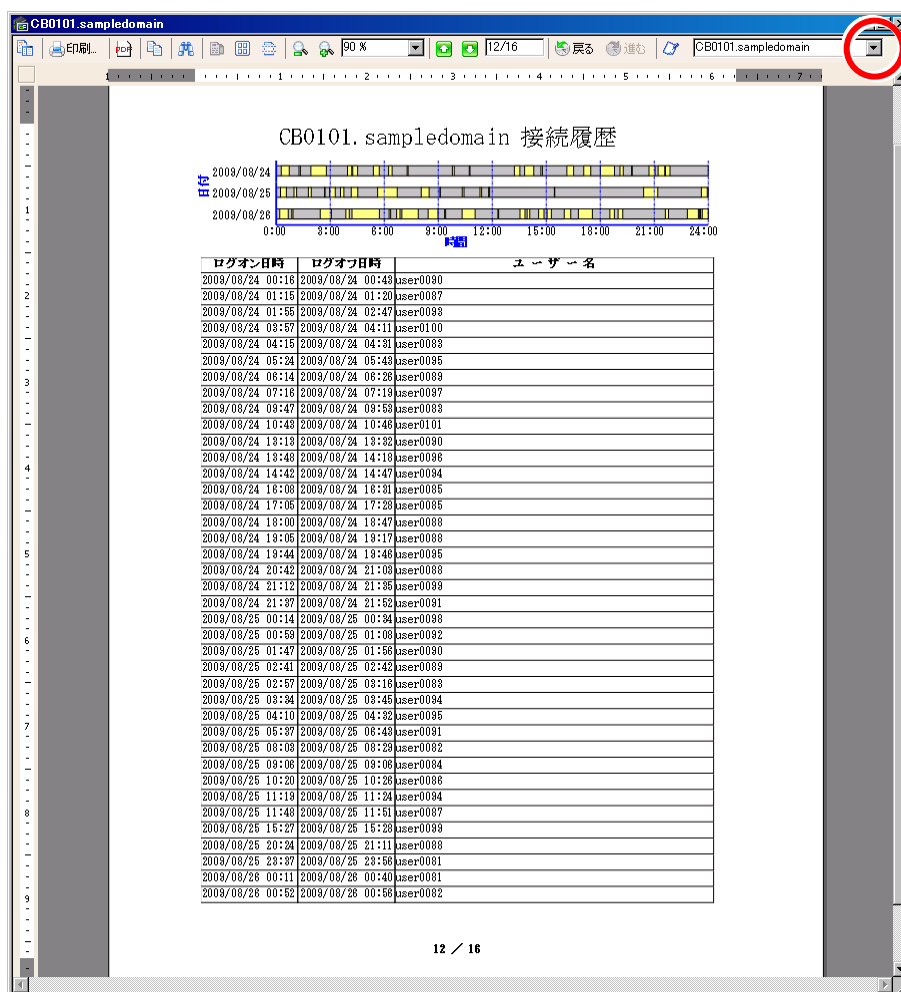
次に履歴を表示したいブレードおよび期間を設定します。画面左下部の「絞り込み」欄(赤枠部分)に文字列を入力すると、その文字列を含むブレード名の一覧表示を絞り込むことができます。また、画面右上部の[▼] (青枠部分)をクリックするとカレンダーが表示され、ここから開始日付と終了日付を選択することで期間が設定できます。設定が完了しましたら「履歴表示」ボタンをクリックしてください。



3. 処理が完了するまで、次のような進行ダイアログが表示されます。



4. ブレードの接続履歴レポートが表示されます。グラフの黄色部分はログオン状態、灰色部分はログオフ状態をそれぞれ示しています。ブレードを複数選択した場合、画面右上部の[▼] (赤枠部分)をクリックしてブレードを選択すると、表示を切り替えることができます。



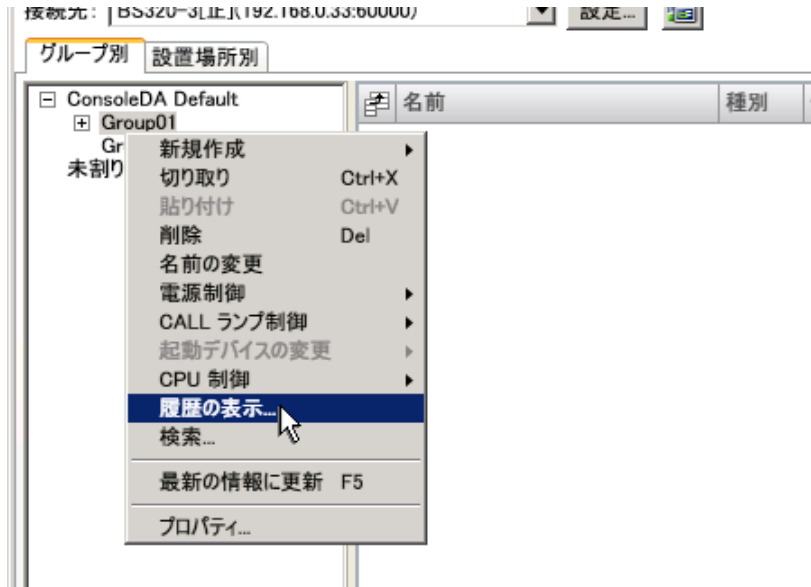
注意	<ul style="list-style-type: none"> ・日付を選択できる範囲は最大 2 年間 (731 日間) までです。 ・履歴を表示するブレードを選択できる数は最大 250 までです。 ・ユーザーがログオン中にブレードが休止やスタンバイ状態に移行した場合も、ログオン状態として記録されます。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・設置場所・ラック・シャーン・ブレードの右クリックメニューからも「履歴の表示」を行うことができます。 ・ブレード選択画面の「絞り込み」欄に入力したアルファベットは、大文字・小文字が区別されます。

3-5-2 ブレードの稼働履歴

・ブレードの稼働履歴を表示するには、次のように操作します。

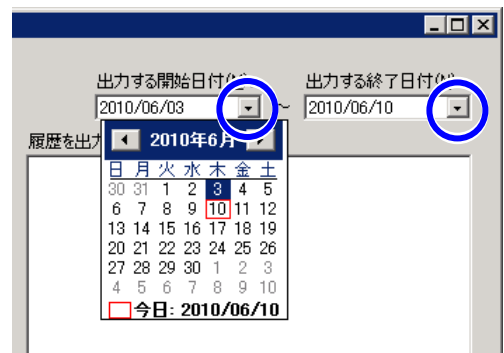
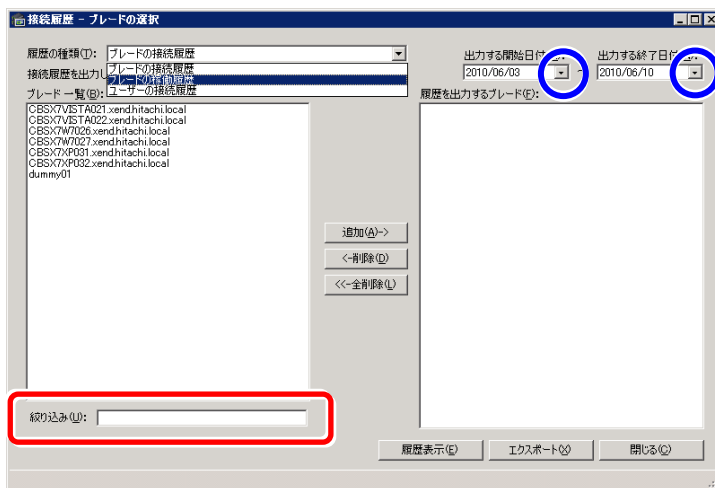
1. 「グループ」を右クリックし、「履歴の表示」を選択してください。

(データベースに登録されているブレードが多数の場合、選択画面が表示されるまで数秒かかることがあります。)

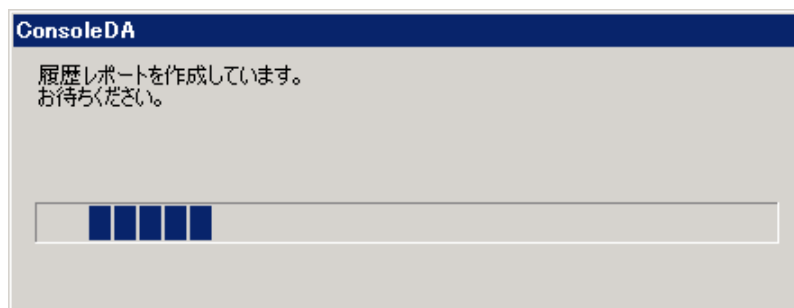


2. 選択画面が表示されましたら、まず表示する履歴の種類として「ブレードの稼働履歴」を選択します。

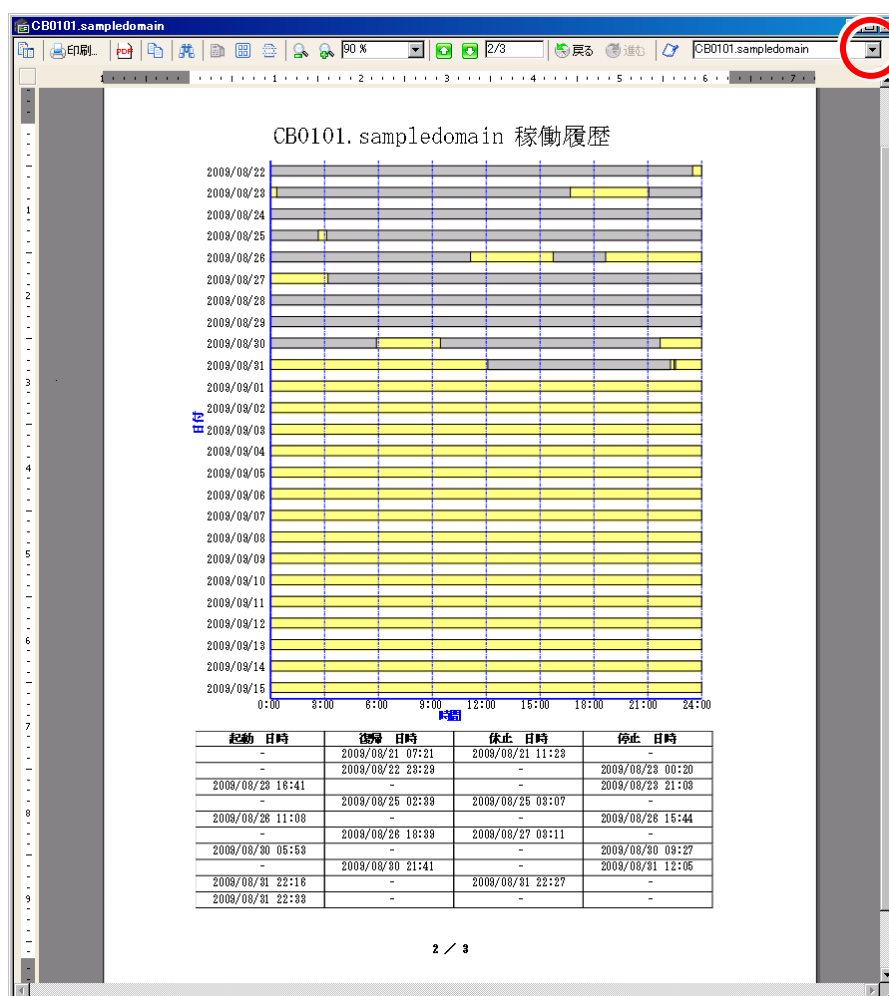
次に履歴を表示したいブレードおよび期間を設定します。画面左下部の「絞り込み」欄(赤枠部分)に文字列を入力すると、その文字列を含むブレード名の一覧表示を絞り込むことができます。また、画面右上部の[▼] (青枠部分)をクリックするとカレンダーが表示され、ここから開始日付と終了日付を選択することで期間が設定できます。設定が完了しましたら「履歴表示」をクリックしてください。



3. 処理が完了するまで、次のような進行ダイアログが表示されます。



4. ブレードの稼働履歴レポートが表示されます。グラフの黄色部分は稼働状態、灰色部分は休止または停止状態をそれぞれ示しています。ブレードを複数選択した場合、画面右上部の[▼] (赤枠部分)をクリックしてブレードを選択すると、表示を切り替えることができます。



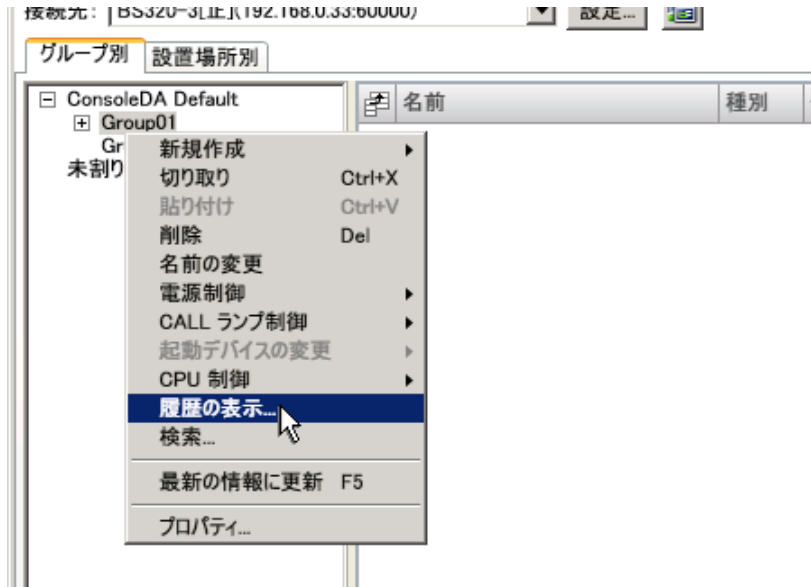
注意	<ul style="list-style-type: none"> 日付を選択できる範囲は最大2年間(731日間)までです。 履歴を表示するブレードを選択できる数は最大250までです。
補足	<ul style="list-style-type: none"> 設置場所・ラック・シャーン・ブレードの右クリックメニューからも「履歴の表示」を行うことができます。 ブレード選択画面の「絞り込み」欄に入力したアルファベットは、大文字・小文字が区別されます。

3-5-3 ユーザーの接続履歴

・ユーザーの接続履歴を表示するには、次のように操作します。

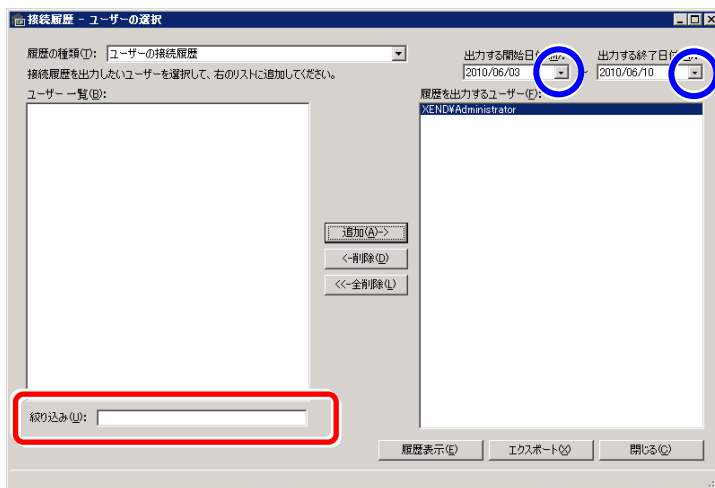
1. 「グループ」を右クリックし、「履歴の表示」を選択してください。

(データベースに登録されているブレードが多数の場合、選択画面が表示されるまで数秒かかることがあります。)

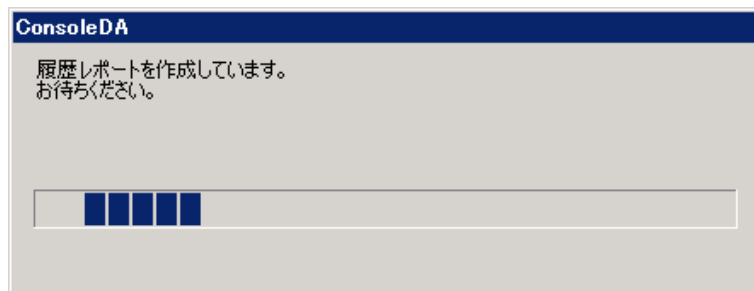


2. 選択画面が表示されましたら、まず表示する履歴の種類として「ユーザーの接続履歴」を選択します。

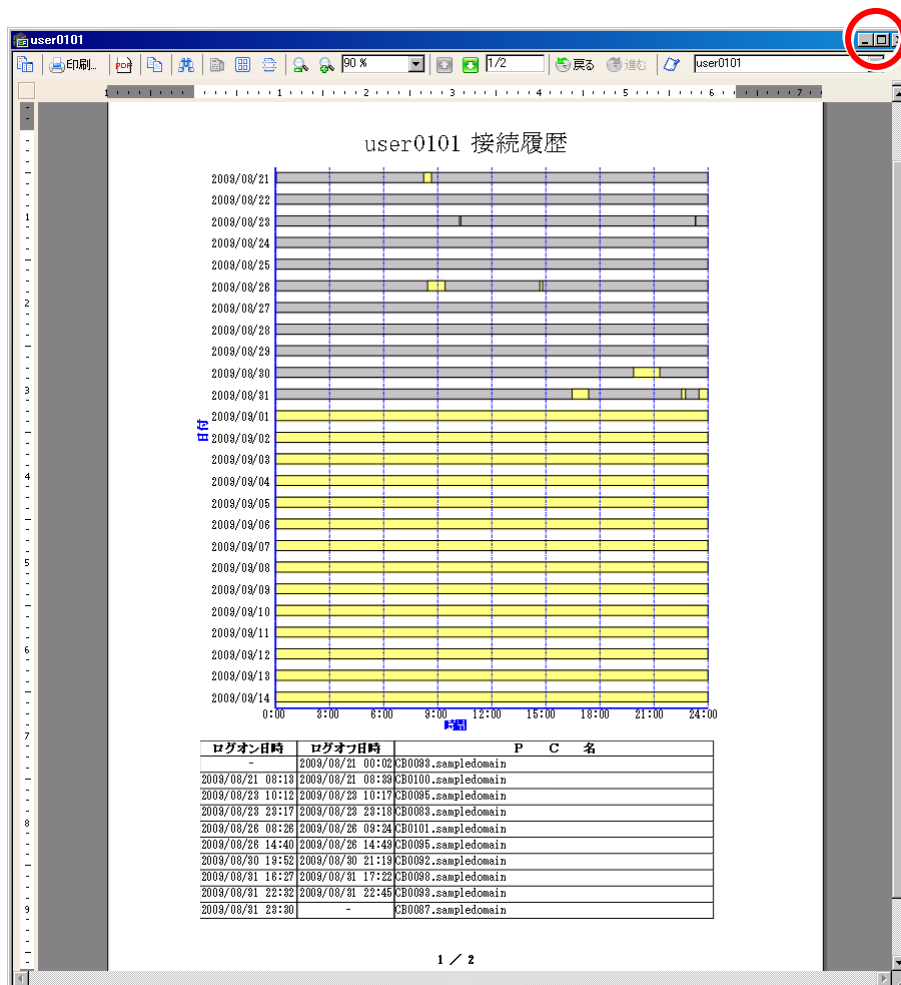
次に履歴を表示したいユーザーおよび期間を設定します。画面左下部の「絞り込み」欄(赤枠部分)に文字列を入力すると、その文字列を含むユーザー名の一覧表示を絞り込むことができます。また、画面右上部の[▼] (青枠部分)をクリックするとカレンダーが表示され、ここから開始日付と終了日付を選択することで期間が設定できます。設定が完了しましたら「履歴表示」をクリックしてください。



3. 処理が完了するまで、次のような進行ダイアログが表示されます。



4. ユーザーの接続履歴レポートが表示されます。グラフの黄色部分はログオン状態、灰色部分はログオフ状態をそれぞれ示しています。ユーザーを複数選択した場合、画面右上部の[▼] (赤枠部分)をクリックしてユーザーを選択すると、表示を切り替えることができます。



注意	<ul style="list-style-type: none"> ・日付を選択できる範囲は最大 2 年間 (731 日間) までです。 ・履歴を表示するユーザーを選択できる数は最大 250 までです。 ・ユーザーがログオン中にブレードが休止やスタンバイ状態に移行した場合も、ログオン状態として記録されます。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・設置場所・ラック・シャーシ・ブレードの右クリックメニューからも「履歴の表示」を行うことができます。 ・ブレード選択画面の「絞り込み」欄に入力したアルファベットは、大文字・小文字が区別されます。

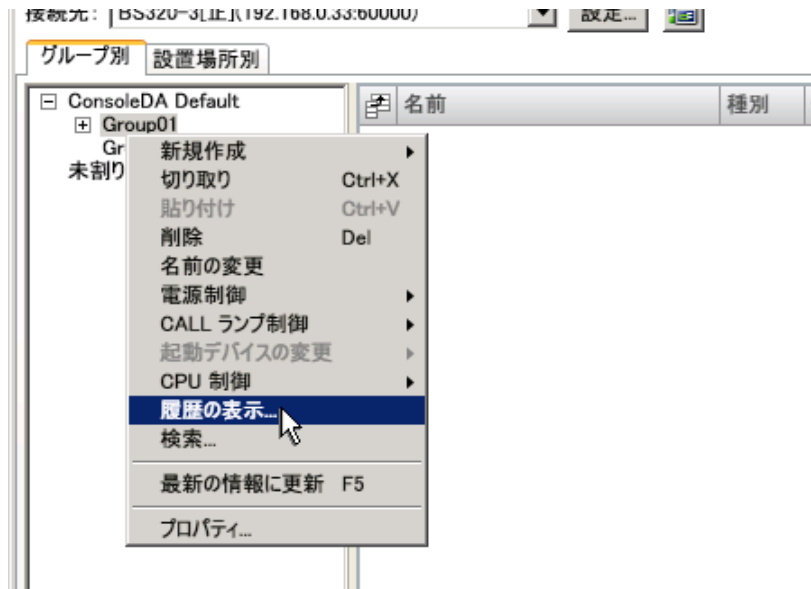
3-5-4 履歴データのエクスポート

ブレードまたはユーザー選択画面において「エクスポート」ボタンをクリックすると、ログオン・起動・停止などの履歴データを CSV 形式のファイルとして出力することができます。

・履歴データのエクスポートを行うには次のように操作します。

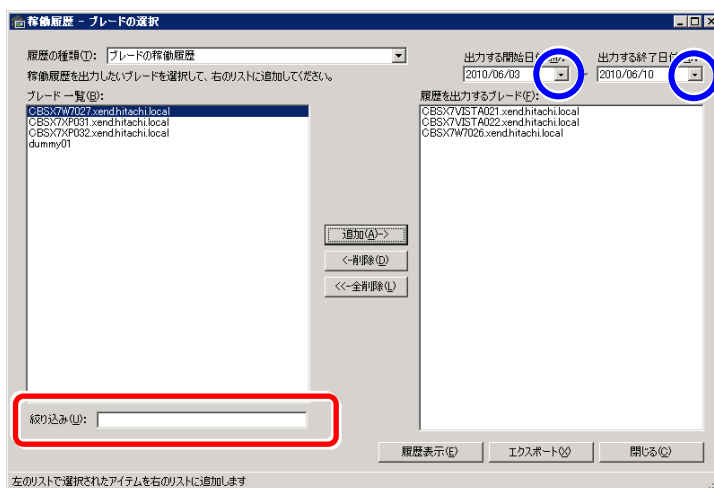
1. 「グループ」を右クリックし、「履歴の表示」を選択してください。

(データベースに登録されているブレードが多数の場合、選択画面が表示されるまで数秒かかることがあります。)

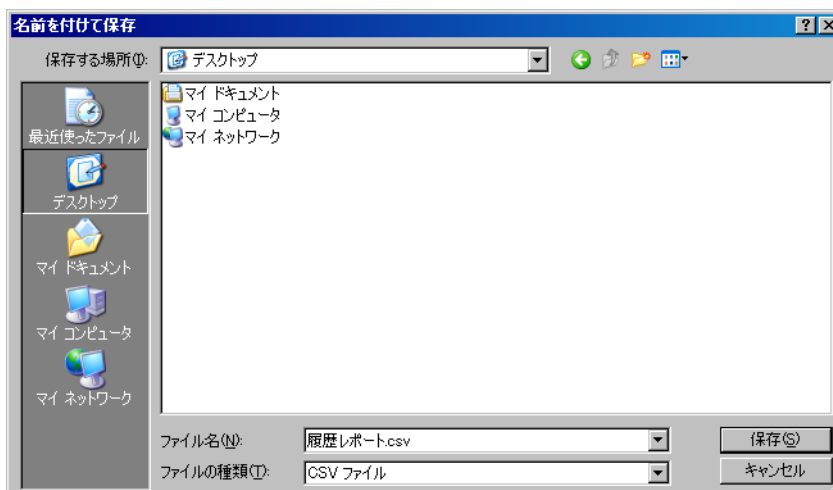


2. 選択画面が表示されましたら、エクスポートする履歴の種類を選択します。

次に履歴データを出力したいブレードまたはユーザー、および期間を設定します。画面左下部の「絞り込み」欄(赤枠部分)に文字列を入力すると、その文字列を含むブレードまたはユーザー名の一覧表示を絞り込むことができます。また、画面右上部の「▼」(青枠部分)をクリックするとカレンダーが表示され、ここから開始日付と終了日付を選択することで期間が設定できます。設定が完了しましたら「エクスポート」をクリックしてください。



3. ファイルを出力する場所とファイル名を入力し、「保存」ボタンをクリックしてください。



以下、出力される CSV ファイルのフォーマット形式です。

```
REGIST_DATE, PC_NAME, USER_NAME, EVENT_ID, EVENT_NAME
2010/10/12 9:19:18, HITACHI16, HITACHI16¥Admin, 201, ログオン
2010/10/12 9:19:20, HITACHI16, HITACHI16¥Admin, 202, ログオフ
...
```

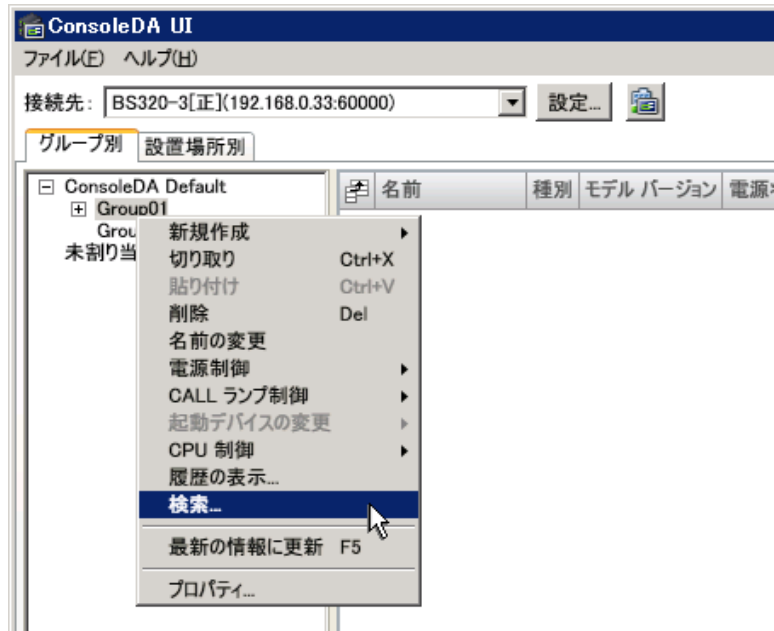
カラム列数	カラム名	説明
1	REGIST_DATE	イベントの日時
2	PC_NAME	ブレード名
3	USER_NAME	ユーザー名
4	EVENT_ID	イベント ID
5	EVENT_NAME	イベント ID に対応するイベント名 <ul style="list-style-type: none"> ・ ログオン ・ ログオフ ・ 起動 ・ 停止 ・ 休止 ・ 復帰

注意	<ul style="list-style-type: none"> ・日付を選択できる範囲は最大 2 年間 (731 日間) までです。 ・履歴を表示するブレードまたはユーザーを選択できる数は最大 250 までです。 ・ユーザーがログオン中にブレードが休止やスタンバイ状態に移行した場合も、ログオン状態として記録されます。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・設置場所・ラック・シャーシ・ブレードの右クリックメニューからも「履歴の表示」を行うことができます。

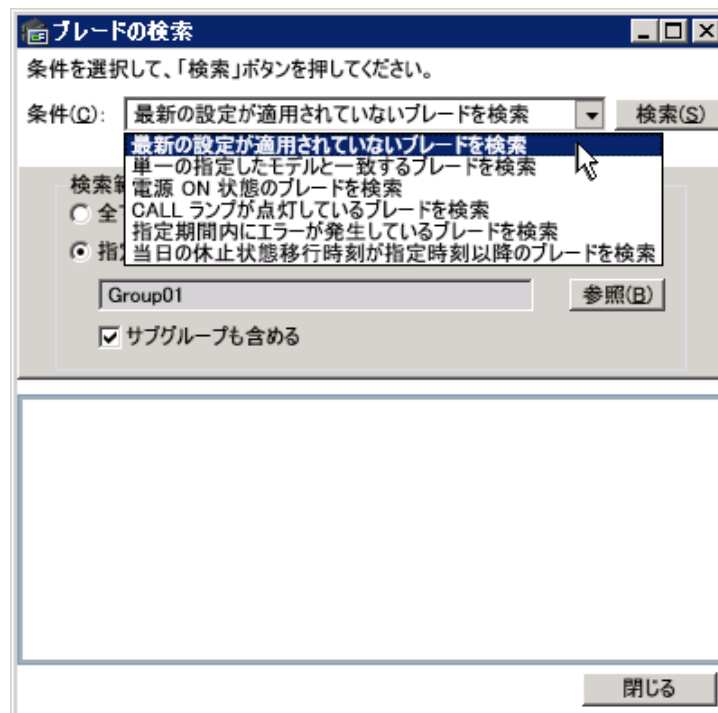
3-6 ブレードの検索

・ブレードを検索するには次のように操作します。

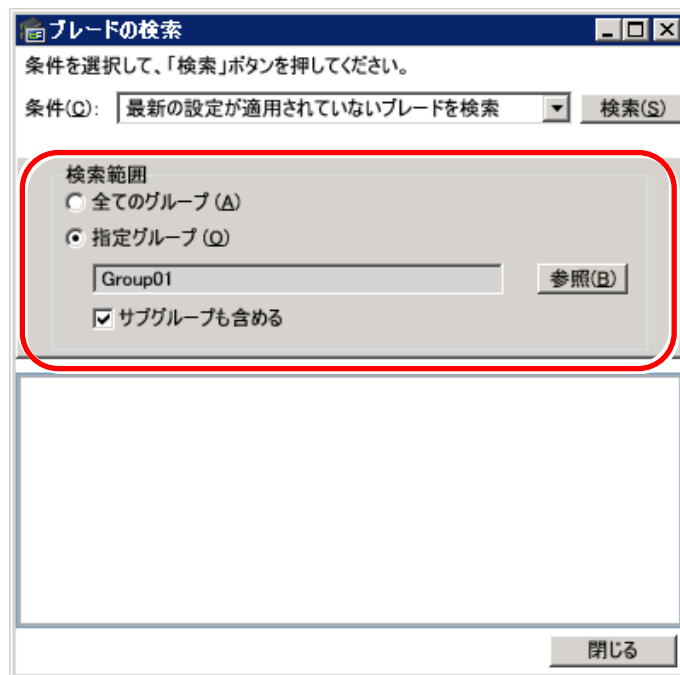
1. ブレードが登録されている「グループ」の上で右クリックし「検索」を選択してください。



2. ここでは例として、最新の設定が適用されていないブレードを検索します。検索するブレードの条件に「最新の設定が適用されていないブレードを検索」を選択してください。



3. 検索範囲を指定してください。



4. 上記の設定を完了後右上の「検索」ボタンをクリックして検索してください。

5. 下の枠内に検索条件に一致したブレードが表示されます。

注意 ・「2.」の検索条件によって、「3.」で指定するデータは変わります。

検索条件表

No	検索条件
①	最新の設定が適用されていないブレードを検索
②	単一の指定したモデルと一致するブレードを検索
③	電源 ON 状態のブレードを検索
④	CALL ランプが点灯しているブレードを検索
⑤	指定期間内にエラーが発生しているブレードを検索
⑥	当日の休止状態移行時刻が指定時刻以降のブレードを検索

3-7 ログの管理

3-7-1 表示

・ハードウェア 모니터のログを見るには次のように操作します。

1. ブレードを右クリックし、「プロパティ」を選択してください。
2. 「ブレードのプロパティ」の「H/W モニター ログ」タブを選択してください。



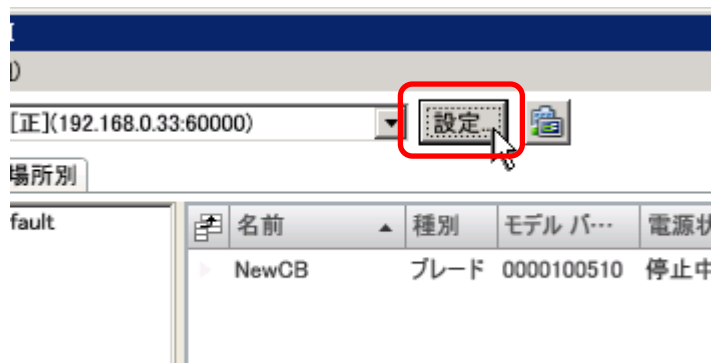
制限

- ・異なるドメインに参加している同一 PC 名のブレードを管理している場合、各ブレードのログが混在して表示されます。

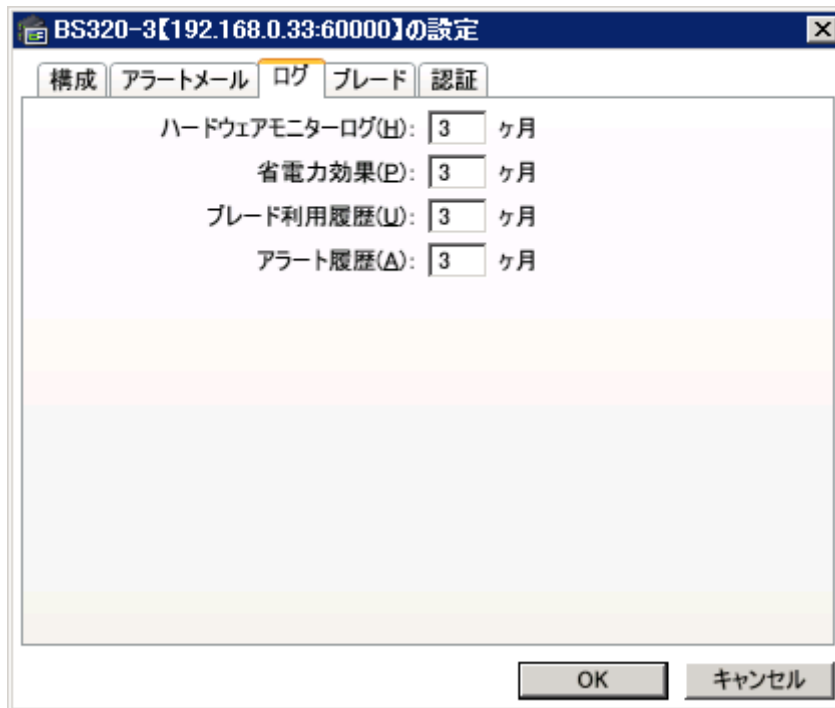
3-7-2 保存期間の変更

・ログの保存期間を変更するには次のように操作します。

1. 管理コンソール画面の「設定」ボタンをクリックしてください。



2. 現在接続している「ConsoleDA Manager」の設定画面が表示されます。「ログ」タブを選択し、ログを保存する期間を「ヶ月」単位で選択してください。



3. 「OK」ボタンをクリックして設定を反映してください。

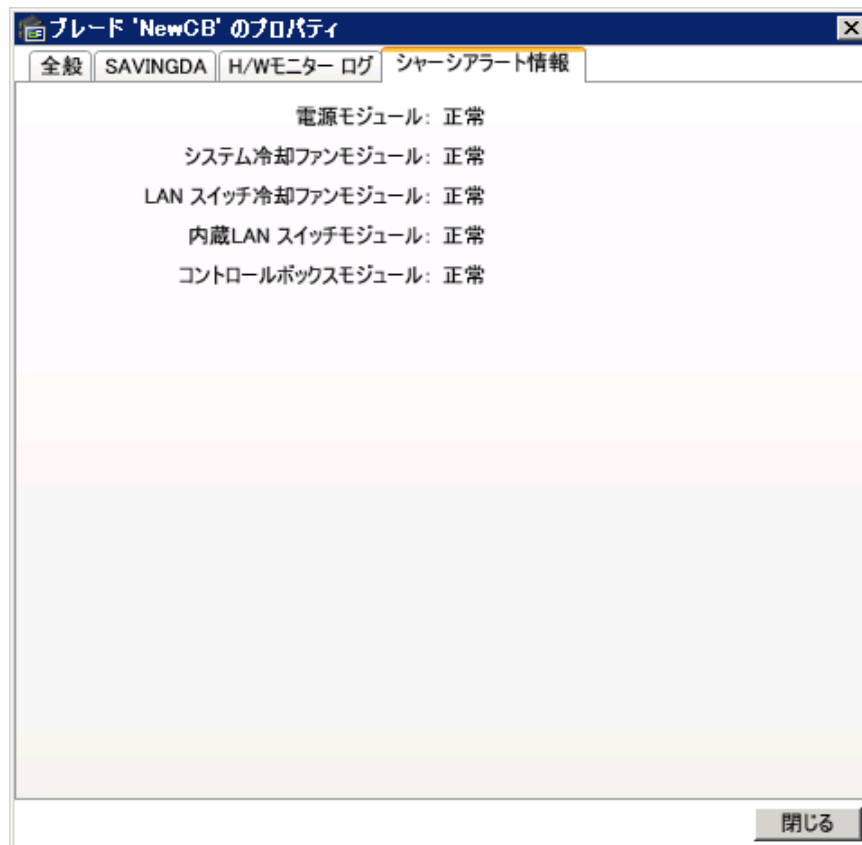
制限	・ ログの保存期間は 1～36 ヶ月です。
注意	・ 設定は接続先 (ConsoleDA Manager) ごとに行われます。

3-8 シャーシアラート情報

ブレードの STATUS ランプが点滅状態のとき、その原因がシャーシのモジュールにあるかどうかを確認することができます。

・シャーシの各モジュールのアラート情報を確認するには次のように操作します。

1. 「ブレードのプロパティ」を表示し、「シャーシアラート情報」タブを選択してください。
2. 選択したブレードをインストールしているシャーシの、各モジュールのアラート情報が確認できます。ブレードの STATUS ランプが点滅状態のとき、シャーシに n 個のエラーが発生している場合は「異常(n 台)」、ブレードにエラーが発生している場合は「正常」と表示されます。情報の取得に失敗した場合は、全項目「取得失敗」と表示されます。



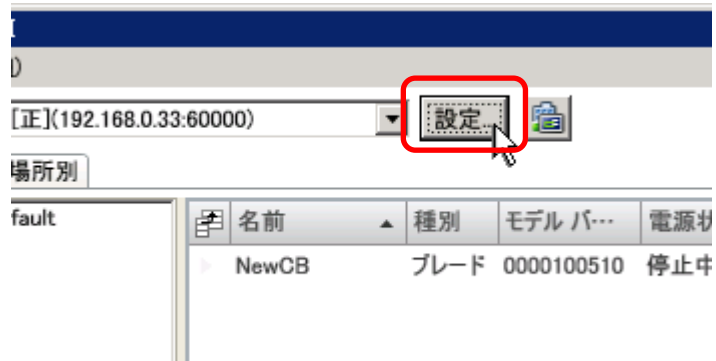
注意

- ・ FLORA bd100 X6 モデルのブレードでは、この機能はご使用になれません。(全項目「利用不可」と表示されます。)
- ・ 「アラート情報」の内容は、各ブレードではなく、シャーシのアラート情報です。そのため、ブレードのログには記録されません。
- ・ シャーシのエラーに関する詳細については、「FLORA bd500 ユーザーズガイド」または「HA8000-bd/BD10X1 ユーザーズガイド」を参照してください。

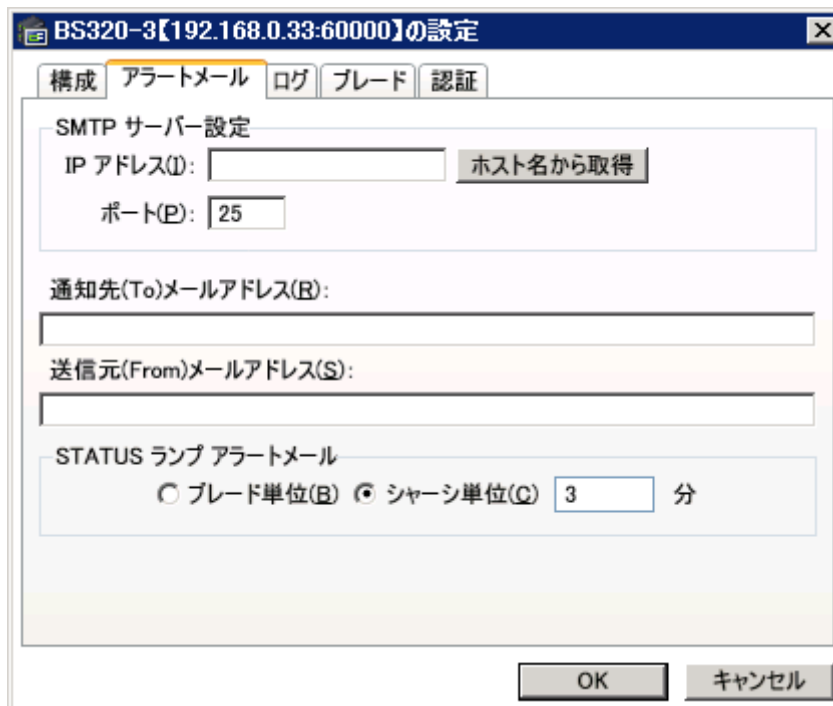
3-9 アラートメールの管理

・ブレードのハードウェアモニターがアラートを検出した場合、およびSTATUSランプが点灯した場合にメールを受け取るには次のように操作します。

1. 管理コンソール画面の「設定」ボタンをクリックしてください。



2. 現在接続している「ConsoleDA Manager」の設定画面で「アラートメール」タブを選択して、各欄に必要な情報を入力してください。



3. 「OK」ボタンをクリックして設定を反映してください。

以下は、送信されるアラートメールの内容です。

ハードウェアモニターによるアラート検出時

件名: ConsoleDA Alert Notification 内容: 20**/**/** **:*:*:* Error [マシン名] [エラーログの内容]
--

STATUS ランプ点灯時

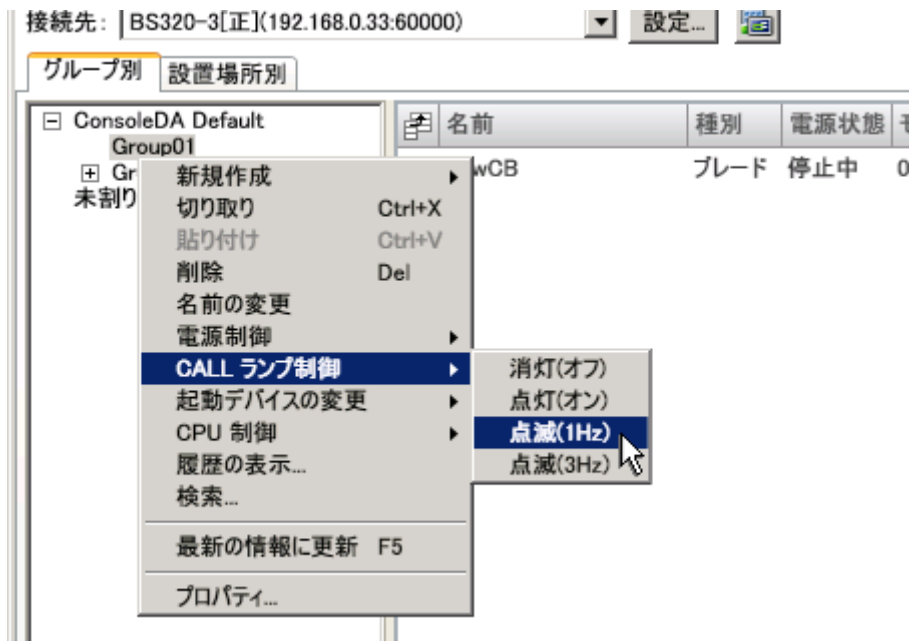
件名: ConsoleDA Alert Notification 内容: 20**/**/** **:*:*:* Status LED Alert [マシン名] STATUS ランプが点灯しています。ブレードにエラーが検出されました。

注意	<ul style="list-style-type: none">SMTP で使用されるポートのデフォルト値は「25」になっていますが、他のポートを使用されている場合は、変更したポート番号を指定してください。アラートメールを使用する場合は、専用のメールアカウントを用意してください。
補足	<ul style="list-style-type: none">SMTP サーバの設定は「IP アドレス」以外にサーバのホスト名からも設定ができます。通知先メールアドレスは、メールを受信するアドレスです。送信元メールアドレスは、メールを送信するアドレスです。

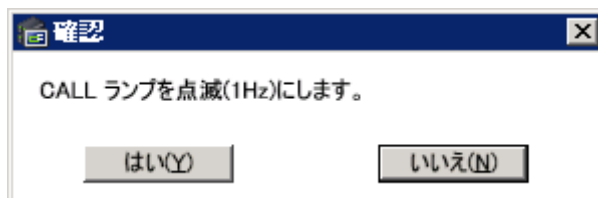
3-10 CALLランプ制御

・グループ内のCALLランプの制御をするには次のように操作します。

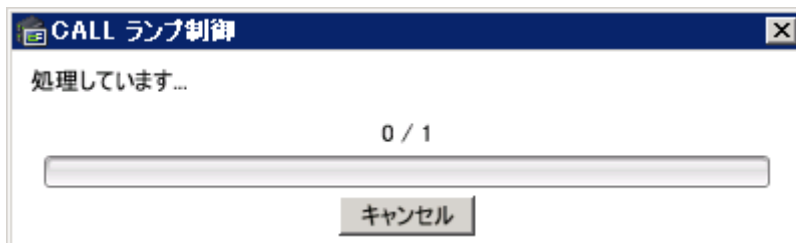
1. 「グループ別」タブを選択してください。
2. CALL ランプ制御をするグループを右クリックし、「CALL ランプ制御」から設定する CALL ランプの状態を選択してください。



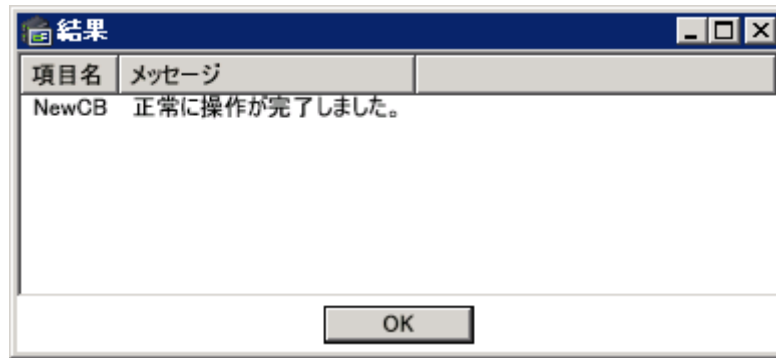
3. 確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックしてください。



4. CALL ランプ制御進行ダイアログが表示されます。



5. 操作が完了すると、結果が表示されます。



補足	<ul style="list-style-type: none">・ 設置場所・ラック・シャーシ・ブレードの右クリックメニューからも「CALL ランプ」の制御を行うことができます。・ 完了メッセージは、「ConsoleDA Manager」からブレードへの操作が完了したことを示します。制御がブレードに反映されたことを保証するものではありません。
-----------	---

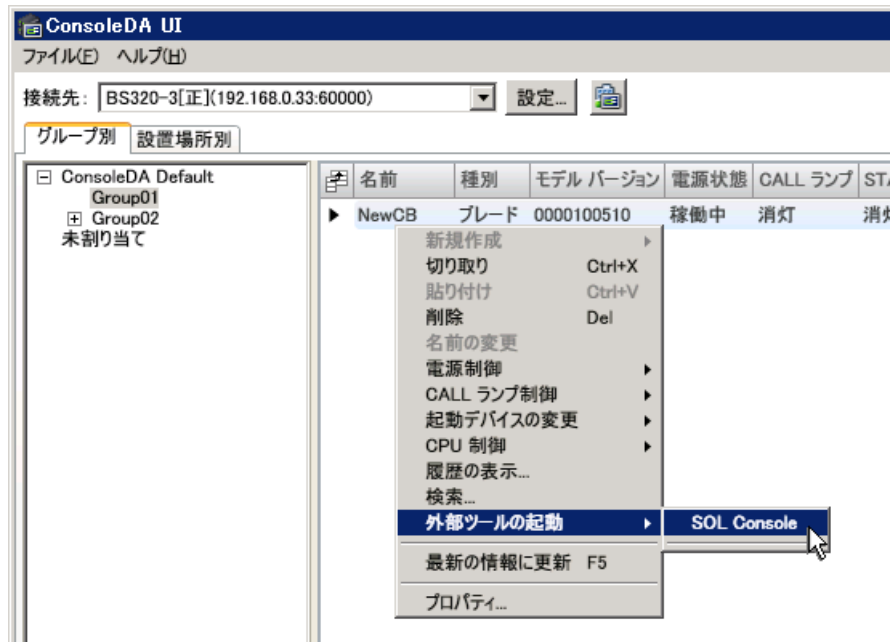
3-11 SOL(Serial Over LAN)画面の表示

ブレードに対して SOL(Serial Over LAN)通信を行うことができます。

(※この機能は、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にご使用できます。)


• SOL画面を表示するには次のように操作します。

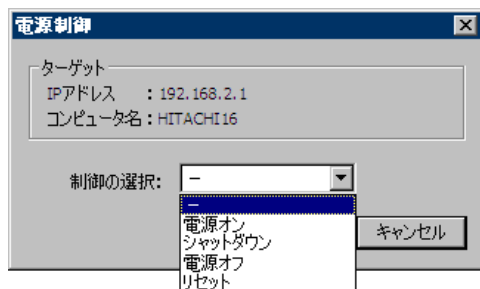
1. SOL 画面を表示したいブレード名を右クリックし、「外部ツールの起動」→「SOL Console」を選択してください。



2. SOL 画面が表示され、通信を開始します。

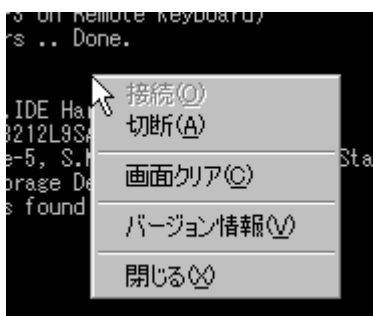


3. SOL 画面右下にある  アイコンをクリックすると、電源制御を行うことができます。



- ・電源オン …ブレードの電源を入れます。
- ・シャットダウン …OS によるシャットダウン処理を行います。
- ・電源オフ …強制的に電源を切ります。
- ・リセット …ハードウェア的に強制再起動を行います。

4. SOL 画面上を右クリックすると、以下のメニューが表示されます。




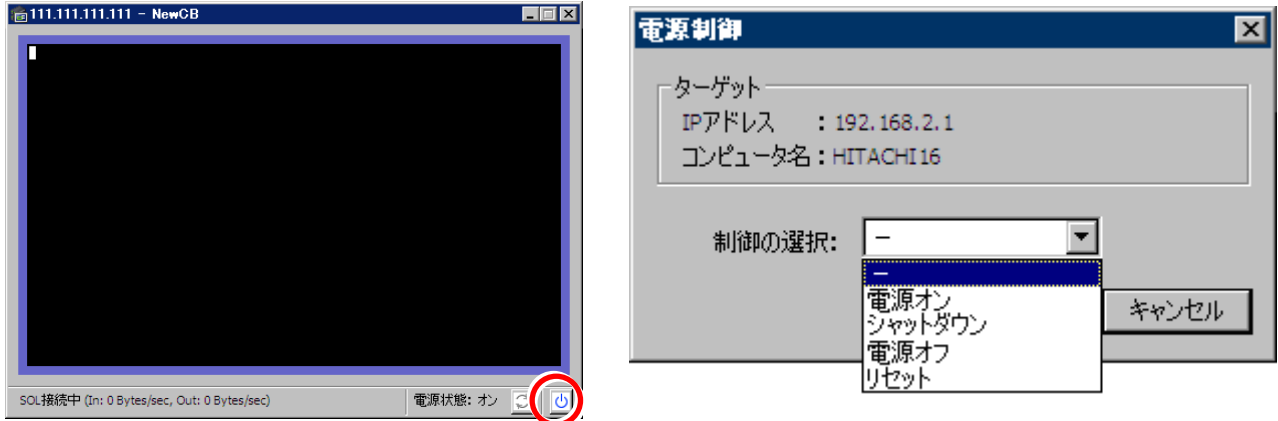
- ・接続 …SOL 通信を開始します。
- ・切断 …SOL 通信を切断します。
- ・画面クリア …画面の表示内容を消去します。
- ・バージョン情報 …バージョン情報を表示します。
- ・閉じる …SOL 画面を閉じます。

注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ SOL 画面表示機能は、BIOS バージョンが 1000.023 以降の FLORA bd500 X7 モデルのブレードで動作します。FLORA gd500 X7 モデルおよび HA8000-bd/BD10 モデルのブレードでは、BIOS やファームウェアのバージョンによっては動作しない場合があります。 ・ Windows®動作中は SOL 通信データが出力されないため、画面の更新がされません。 ・ SOL 通信データが受信されない時に、画面に以前の表示内容が残っている場合があります。
補足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源制御「電源オフ」「リセット」は、BIOS セットアップメニュー画面やブートデバイス選択画面から再起動をする場合に使用してください。 ・ 電源制御「シャットダウン」は、OS 起動中に停止する場合に使用してください。(OS の状態や設定によっては動作しない場合があります。その場合は OS の操作により処理を実行してください。)

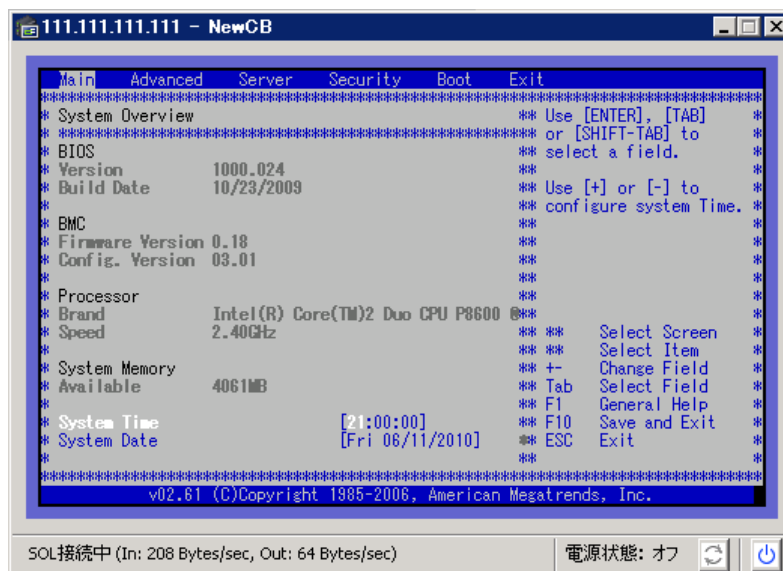
3-11-1 SOLによるBIOSセットアップメニュー画面の表示

・接続先のブレードのBIOSセットアップメニュー画面を呼び出すには、次のように操作します。

1. SOL 画面右下にある  アイコンをクリックして電源制御画面を表示します。「電源オン」を実行して、接続先のブレードを起動します。ブレードが既に起動していてOS 起動中以外の場合(BIOS 画面等)は「リセット」を実行してください。ブレードが既に起動していてOS が起動中の場合は、「シャットダウン」で一旦停止した後、「電源オン」を実行してください。



2. SOL 画面が変化し、ブレードの起動が始まりましたら、すぐに「F4」キーまたは「Delete」キーを押下します。するとBIOSセットアップメニュー画面へ移行します。




3. BIOS 設定を終了すると、OS が起動を開始します。この時 SOL 画面の更新が途中で止まりますが、異常ではありません。

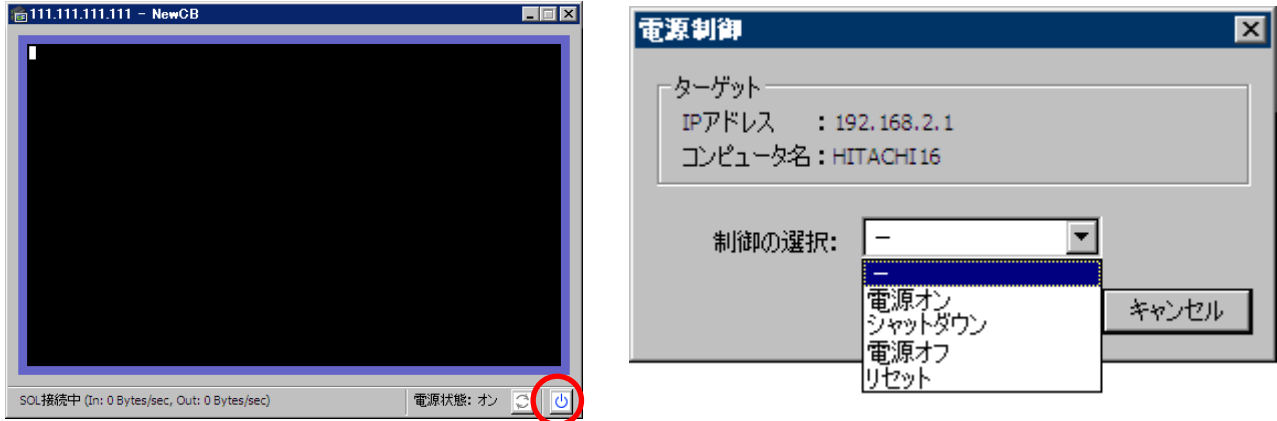
補足

- ・「電源制御」からもブレードの起動および再起動を行うことができます。[3-12 電源制御](#) を参照してください。
- ・BIOS セットアップメニューについては、「FLORA bd500 ユーザーズガイド」を参照してください。

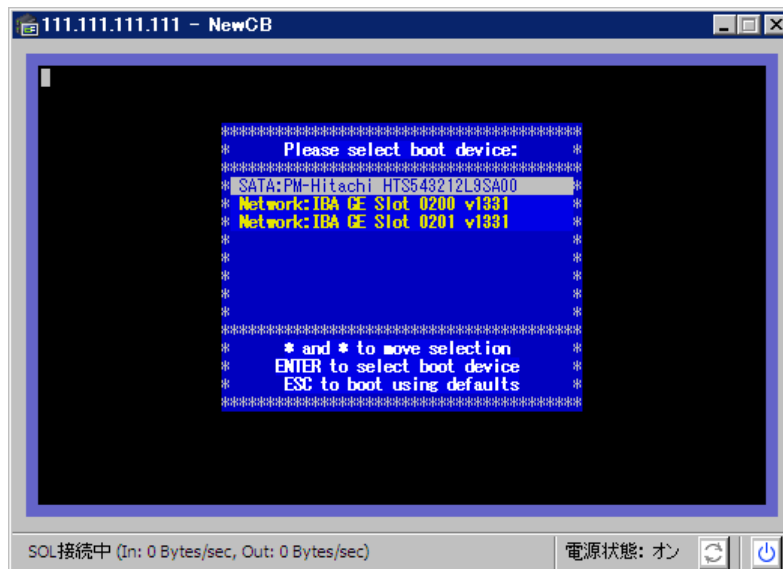
3-11-2 SOLによるブートデバイス選択画面の表示

・接続先のブレードのブートデバイスを切り替えるには、次のように操作します。

1. SOL 画面右下にある  アイコンをクリックして電源制御画面を表示します。「電源オン」を実行して、接続先のブレードを起動します。ブレードが既に起動していてOS 起動中以外の場合(BIOS 画面等)は「リセット」を実行してください。ブレードが既に起動していてOS が起動中の場合は、「シャットダウン」で一旦停止した後、「電源オン」を実行してください。



2. SOL 画面が変化し、ブレードの起動が始まりましたら、すぐに「F3」キーまたは「F12」キーを押下します。するとブートデバイス選択ダイアログが表示されます。



3. ブートデバイス選択を終了すると、OS が起動を開始します。この時 SOL 画面の更新が途中で止まりますが、異常ではありません。

補足

・「電源制御」からもブレードの起動および再起動を行うことができます。[3-12 電源制御](#) を参照してください。

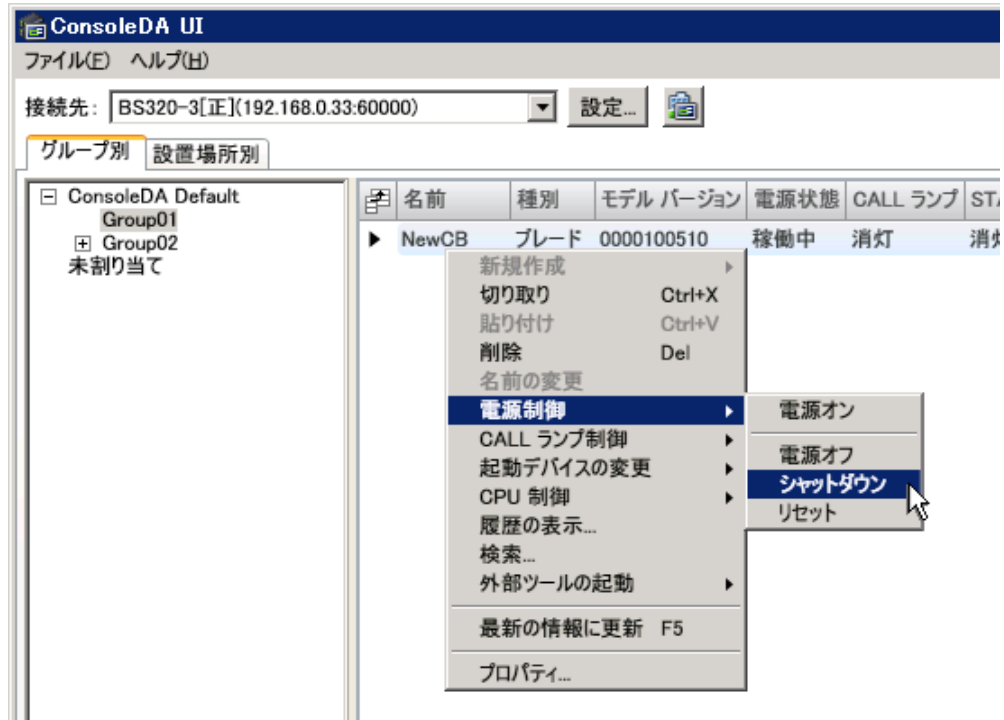
3-12 電源制御

ブレードの電源を遠隔制御することができます。

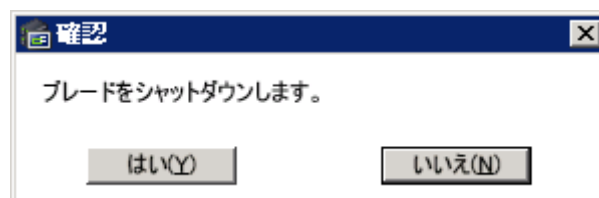
(※この機能は、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にご使用できます。)

・電源制御をするには次のように操作します。

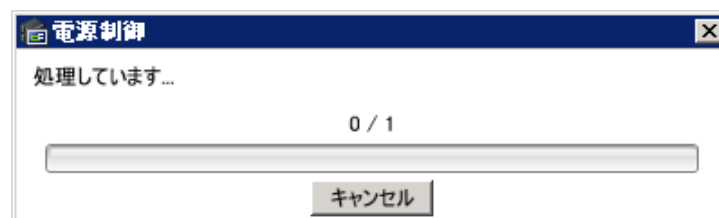
1. 電源制御をするブレード名の上で右クリックをし、「電源制御」から行う処理を選択してください。



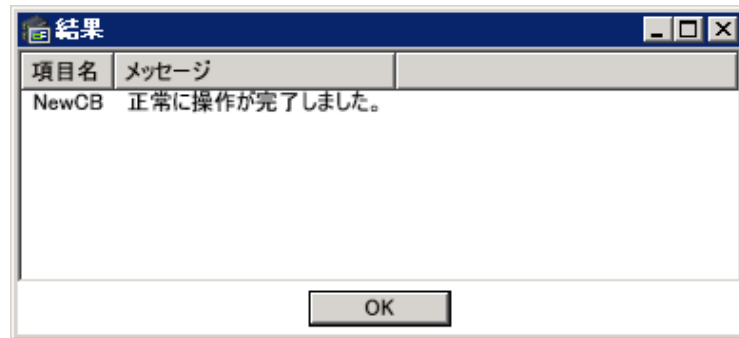
2. 確認ダイアログが次のように表示されるので、「はい」を選択してください。



3. 電源制御進行ダイアログが表示されます。



4. 制御が完了すると、結果が表示されます。



補足

- ・ 設置場所・ラック・シャーシ・グループからも「電源制御」を行うことができます。
- ・ 各操作の処理内容は次の通りです。
 - 「電源オン」 電源を入れます。
 - 「電源オフ」 強制的に電源を切ります。
 - 「シャットダウン」 シャットダウン処理を行います。
 - 「リセット」 ハードウェア的に強制再起動を行います。
- ・ 完了メッセージは、「ConsoleDA Manager」からブレードへの操作が完了したことを示します。制御がブレードに反映されたことを保証するものではありません。

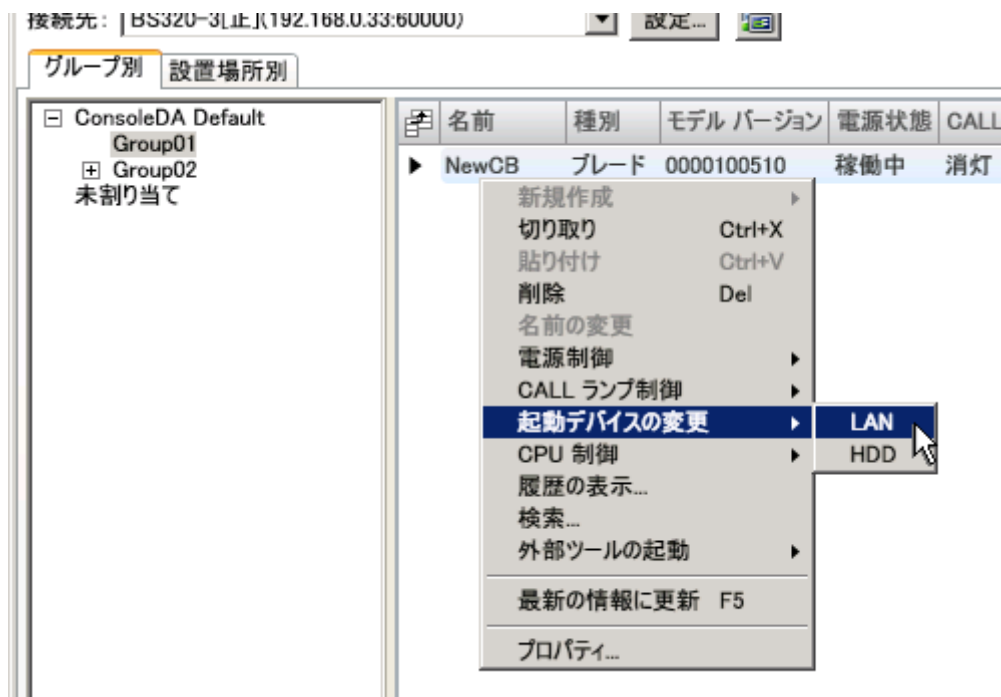
3-13 起動デバイスの変更

ブレードの次回の起動を、内蔵 HDD ブート・ネットワークブートから選択し設定することができます。

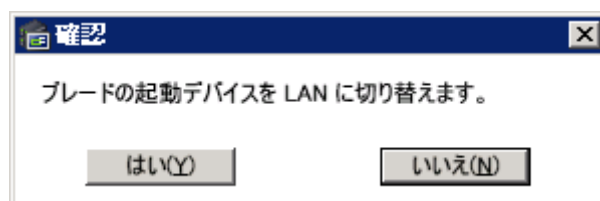
・起動デバイスを変更するには次のように操作します。

(※この機能は、「FLORA bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にご使用できます。)

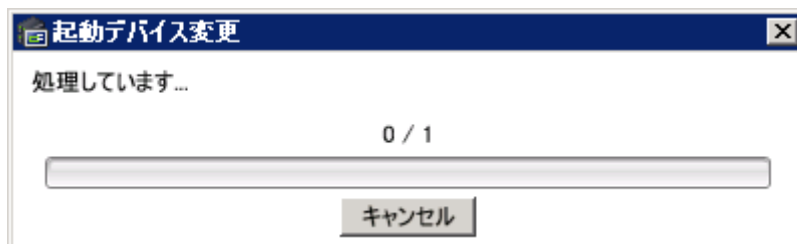
1. ここでは例として、ブレードの次回の起動をネットワークブートに設定します。起動デバイスを変更したいブレードを右クリックし、「起動デバイスの変更」→「LAN」を選択してください。



2. 確認メッセージが表示されますので「はい」をクリックしてください。



3. 進行ダイアログが次のように表示され、完了するとダイアログが消えます。次回起動時、この設定が反映され、ブレードはネットワークブートします。



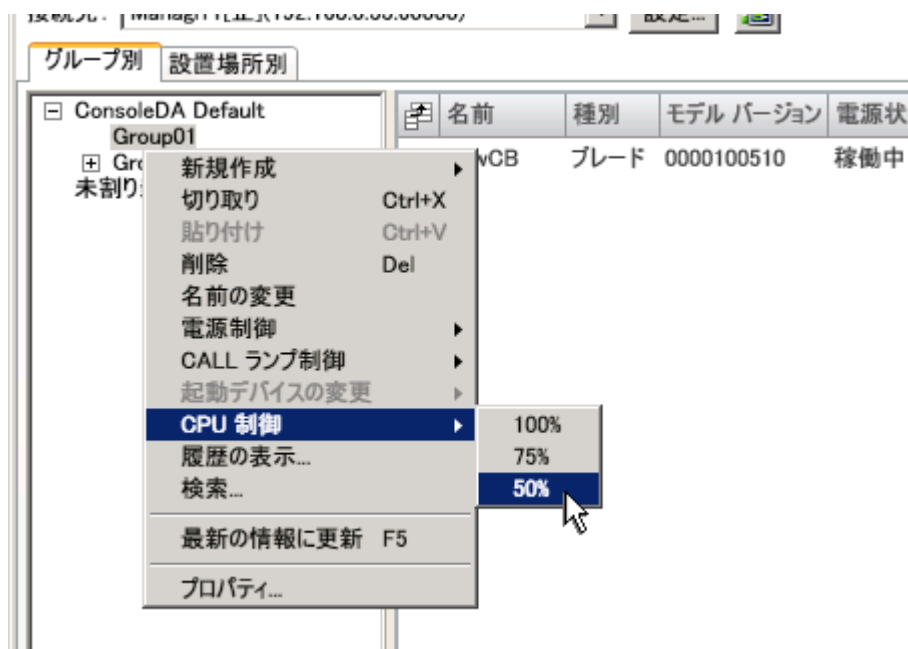
注意	<ul style="list-style-type: none"> この機能は、FLORA bd500 X7 モデル、FLORA gd500 X7 モデル、および HA8000-bd/BD10 モデルのブレードで動作します。 設定は次回起動時 1 回のみ有効です。それ以降は通常のデバイスから起動します。 ネットワークブート用サーバから起動させるには、あらかじめ BIOS セットアップメニューで Network Boot を Enabled に設定しておく必要があります。BIOS セットアップメニューについては「FLORA bd500 ユーザーズガイド」または「HA8000-bd/BD10X1 ユーザーズガイド」を参照してください。
補足	<ul style="list-style-type: none"> 設置場所・ラック・シャーシ・グループからも「起動デバイスの変更」を行うことができます。

3-14 CPU制御

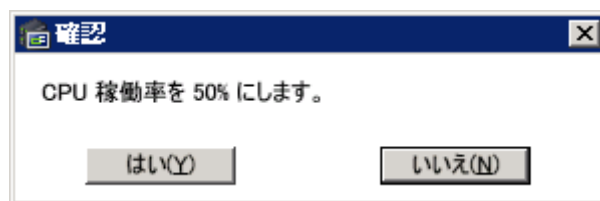
・グループ内のブレードのCPUを制御するには次のように操作します。

(※この機能は、ブレードに SAVINGDA Pro がインストールされている場合に有効です。)

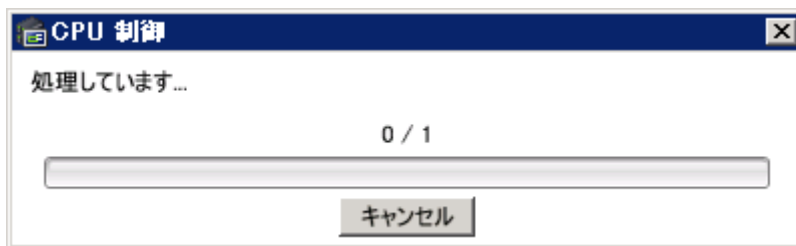
1. 「グループ」を右クリックし、「CPU 制御」から、制御する CPU の稼働率を選択してください。



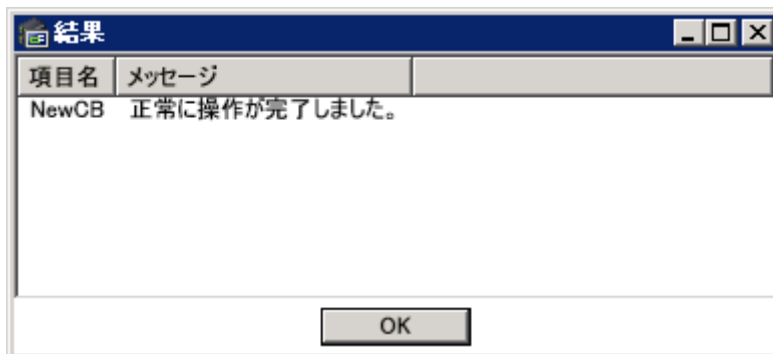
2. 確認メッセージが表示されるので、「はい」をクリックします。



3. CPU 制御進行ダイアログが次のように表示されます。



4. 制御が完了すると、結果が表示されます。



<p>注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 上記の操作を行っても、制御対象のブレードに SAVINGDA Pro がインストールされていない場合、制御が行われません。 • ブレードの電源が一度 OFF になると CPU 稼働率は「100%」に戻ります。 • 同一のブレードに連続して CPU 制御を行うと、正しく設定されません。1 分以上時間を置いて制御を行ってください。 • CPU 稼働率 50%に設定しているブレードに 75%を設定することはできません。一度、CPU 稼働率を 100%に設定してから、75%に設定してください。 • ConsoleDA UI からはブレードの CPU 制御の設定状況が分かりません。 • ブレードの使用環境によっては、既に CPU の稼働率に制限がかけられている場合があります。このような場合、ConsoleDA UI から制御を行っても設定が反映されないことがあります。
<p>補足</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 完了メッセージは、「ConsoleDA Manager」からブレードへの操作が完了したことを示します。制御がブレードに反映されたことを保証するものではありません。

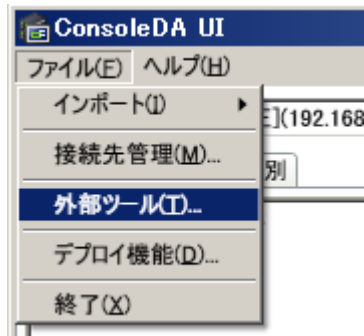
3-15 外部ツール起動

外部ツールを起動して、連携することができます。HA8000-bd/BD10 ブレードのリモートコンソールと連携させる場合は本機能を使用します。

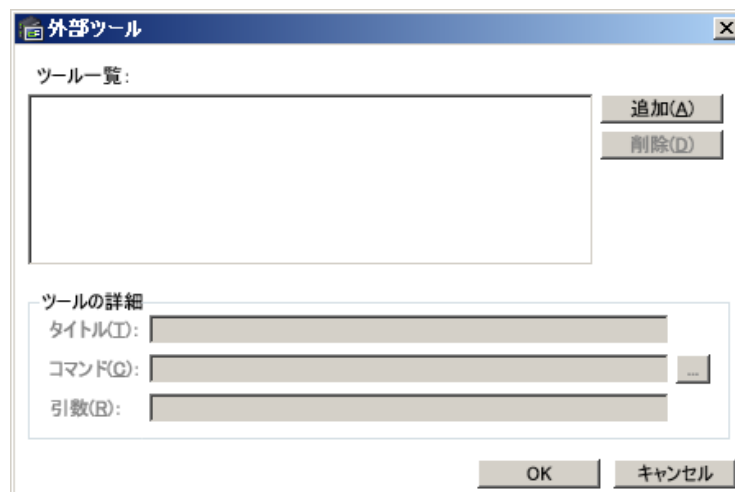
・外部ツールの設定は次のように操作します。

(※この機能は、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にご使用できます。)

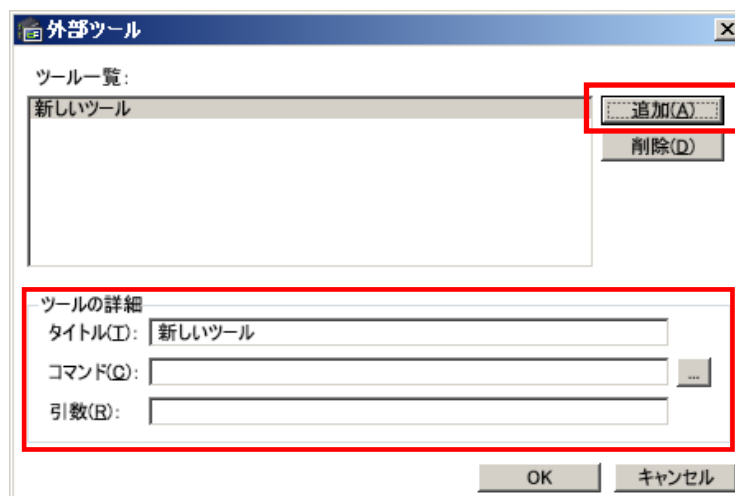
1. メインメニューから「ファイル」→「外部ツール」を選択します。



2. 外部ツールの設定画面が表示されます。



3. 「追加」ボタンをクリックしてツールの詳細エリアに情報を入力します。



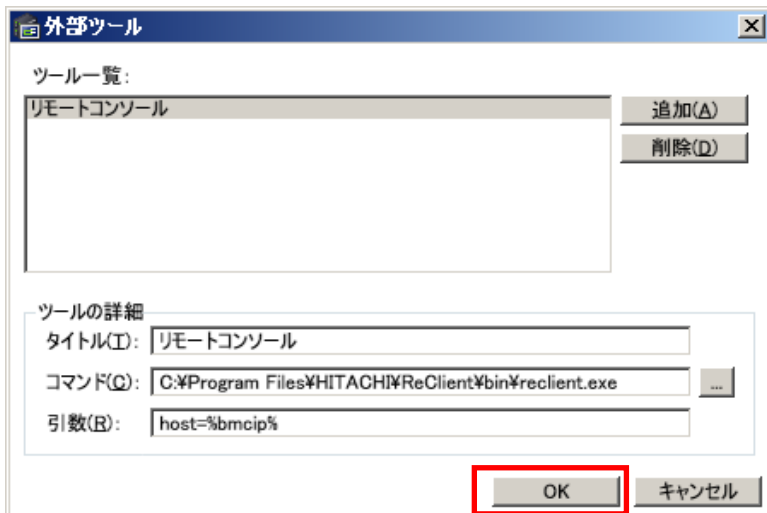
タイトルには、ツールのタイトルを入力します。コマンドはツールの実行パスを入力します。[...]ボタンでファイルを参照して入力することができます。

引数にはコマンドに渡すパラメーターを指定します。下記の書式でツールに ConsoleDA で管理する各ブレードのパラメーターを引き渡すことができます。

No.	項目	パラメーター
1	IP アドレス 1	%ip1%
2	MAC アドレス 1	%mac1%
3	IP アドレス 2	%ip2%
4	MAC アドレス 2	%mac2%
5	BMC IP アドレス	%bmcip%
6	BMC MAC アドレス	%bmcmac%
7	IPMI パスワード	%bmcpass%
8	コンピューター名	%host%

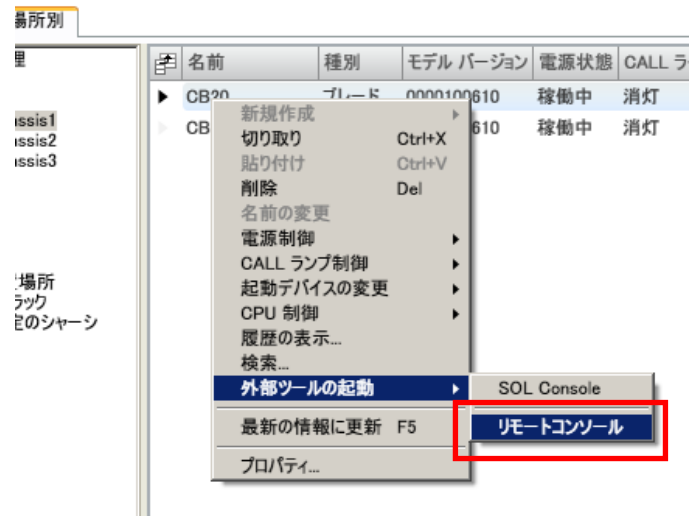
補足	<ul style="list-style-type: none"> HA8000-bd/BD10 ブレードのリモートコンソールと連携するには、コマンドに、リモートコンソールインストール先フォルダの recclient.exe を選択してください。引数パラメーターは下記のいずれかの形式で指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> 形式 1: host=%bmcip% 形式 2: IP=%bmcip%,[ニックネーム],ユーザーID,パスワード,ポート番号, [パスワードの記憶有無], [CD="ISO イメージファイル"] [FD_IN="FD イメージファイル"] (リモートコンソールの引数や使い方の詳細は、HA8000-bd/BD10 に添付されているリモートコンソールのマニュアルを参照してください。)
-----------	--

4. 「OK」ボタンをクリックして設定ダイアログを閉じます。



補足	・「削除」ボタンで設定済みのツールを削除することができます。
-----------	--------------------------------

5. 設定した外部ツールの起動は、ブレード選択後の右クリックメニューから「外部ツールの起動」を選択し、表示されるサブメニューからタイトルを選択することにより起動します。



注意	・登録した外部ツールによっては、多重起動ができない場合があります。ツールのマニュアル等を参照してご利用ください。
-----------	--

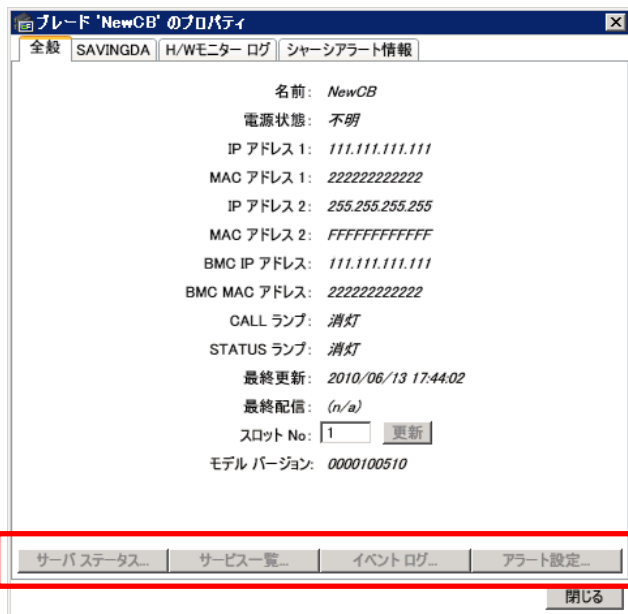
3-16 サーバブレードの管理

サーバブレード(FLORA gd500 X7, HA8000-bd/BD10)に対して、サーバステータス(パフォーマンスモニター、ネットワーク使用率、ディスク使用率)、サービス一覧、イベントログの表示、およびアラート設定を行うことができます。

・サーバブレードの管理の各機能は次のように操作します。

(※この機能は、「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にご使用できます。また、サーバブレードには「Hitachi bd Link /SV」の ConsoleDA Agent For Server がインストールされている必要があります。)

各機能は「ブレードのプロパティ」画面の全般タブより呼び出します。

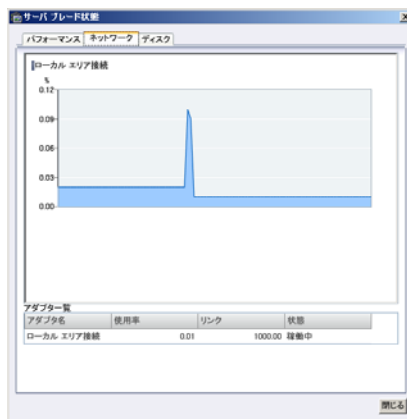


3-16-1 サーバステータス

1. プロパティ画面の「全般」タブより「サーバステータス」ボタンをクリックします。
2. 「サーバブレード状態」画面が開き、「パフォーマンス」、「ネットワーク」、および「ディスク」の各タブをクリックすることにより各ステータスを表示することができます。



(パフォーマンス)



(ネットワーク)



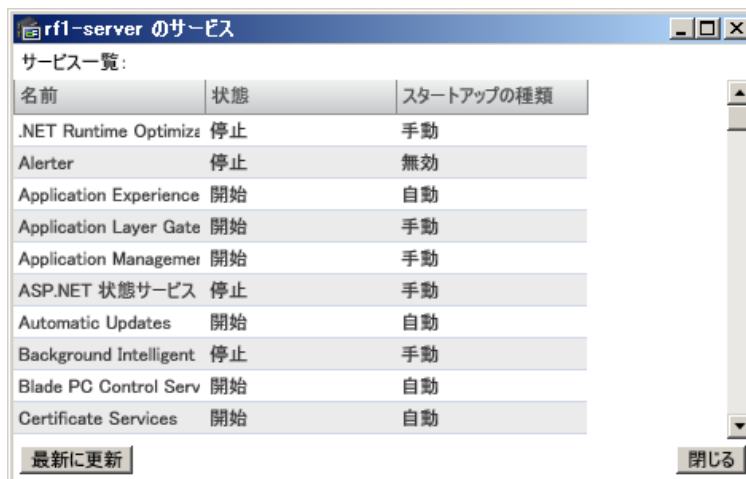
(ディスク)

- 「閉じる」ボタンをクリックすると「サーバブレード状態」画面が閉じます。

補足	・「パフォーマンス」タブの CPU 使用率の値は、CPU のコア数に関係なく使用率の平均値を示しています。
-----------	---

3-16-2 サービス一覧

- プロパティ画面の「全般」タブより「サービス一覧」ボタンをクリックします。
- サービス一覧画面が開き、各サービスの状態とスタートアップの種類が表示されます。



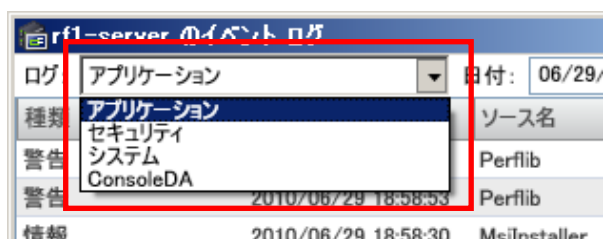
- 「最新に更新」ボタンをクリックすると、サービスの状態の表示を更新します。「閉じる」ボタンでサービス一覧画面が閉じます。

3-16-3 イベントログ

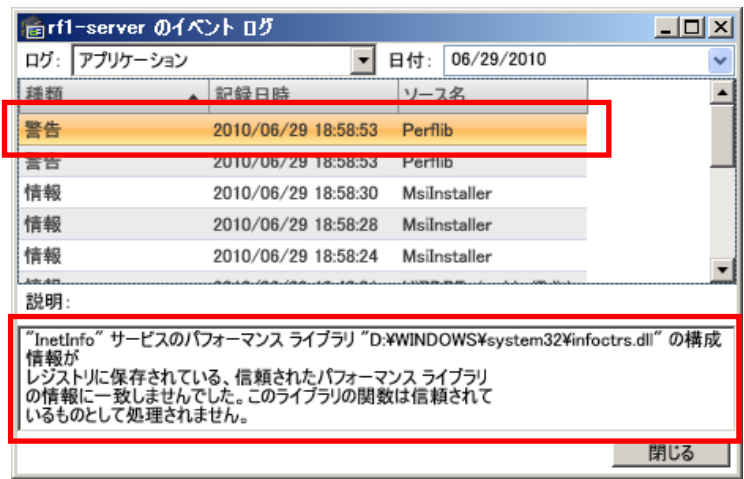
- プロパティ画面の「全般」タブより「イベント ログ」ボタンをクリックします。
- イベントログ一覧画面が開きます。



- 「ログ」のコンボボックスをクリックして、ログの種類を選択することができます。



- リスト内の各イベントログをクリックすると、説明エリアのログの詳細が表示されます。



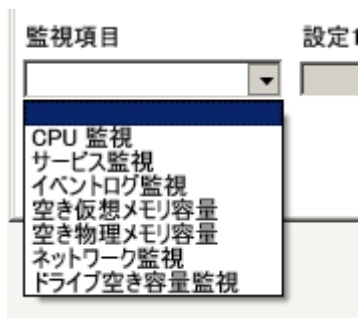
- 「閉じる」ボタンでイベントログの画面が閉じます。

3-16-4 アラート設定

- プロパティ画面の「全般」タブより「アラート設定」ボタンをクリックします。
- アラート設定画面が開きます。



- 「監視項目」のコンボボックスをクリックして、監視項目の種類を選択します。



4. 監視内容の設定を行います。監視項目ごとの設定項目およびアラートが発生する条件は以下の通りです。

	監視項目	設定項目	アラート発生条件
1	CPU 監視	CPU 稼働率閾値(%)	CPU 稼働率が閾値を超えたとき
2	サービス監視	サービス名	指定したサービスが停止・再起動したとき
3	イベントログ監視	ログ名, 種類, ソース名, イベント ID	指定したイベントログが記録されたとき
4	空き仮想メモリ容量	空きメモリ閾値(MB)	空き仮想メモリ容量が閾値を下回ったとき
5	空き物理メモリ容量	空きメモリ閾値(MB)	空き物理メモリ容量が閾値を下回ったとき
6	ネットワーク監視	ネットワーク使用率閾値(%)	ネットワーク使用率が閾値を超えたとき
7	ドライブ空き容量監視	ドライブ名, 閾値(MB)	指定したドライブの空き容量が閾値を下回ったとき

補足	<ul style="list-style-type: none"> 「CPU 監視」では、CPU のコア数に関係なく使用率の平均値を監視します。 「ネットワーク監視」では、全ての NIC が監視対象になります。ただし、NIC 名称に「*」, 「isatap」を含むものを除きます。
-----------	---

5. 「追加」ボタンをクリックして、現在の設定リストに追加します。

6. 追加が完了したら「適用」ボタンをクリックして、設定をサーバブレードに送信します。

注意	<ul style="list-style-type: none"> 「適用」ボタンをクリックしないと、設定がサーバブレードに反映されません。 サーバブレードの「ConsoleDA Agent For Server」を再インストールすると、サーバブレード側の設定がクリアされます。再度、アラート設定画面から「適用」ボタンをクリックして、設定をブレードサーバ側へ反映させてください。
-----------	--


7. 「閉じる」ボタンでアラート設定画面が閉じます。

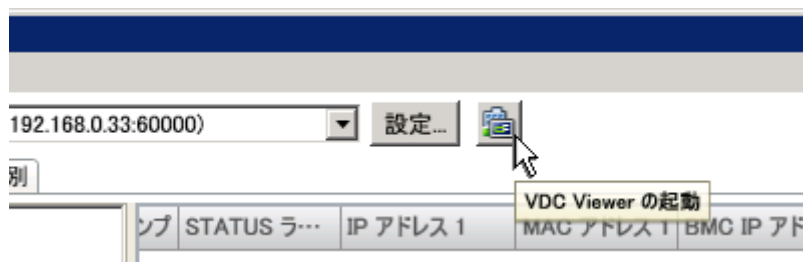
3-17 データセンターのビジュアル表示(VDC Viewer)

データセンターの物理位置を仮想的に表示し、直感的な状況の把握と操作ができるようになります。「VDC Viewer」のご使用方法については「VDC Viewer 操作マニュアル」を参照してください。

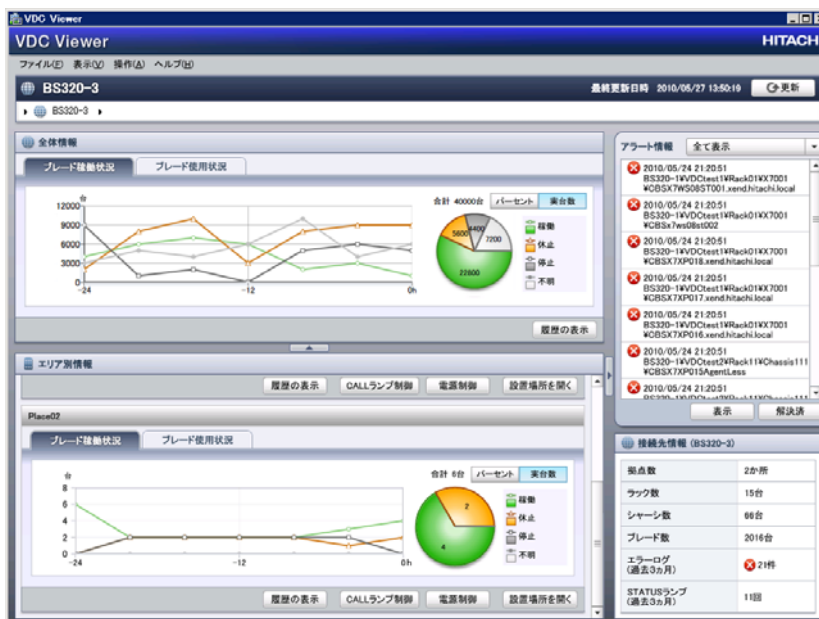
・VDC Viewerを実行するには、次のように操作します。

(※この機能は、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にご使用できます。)

1. 「スタートメニュー」→「すべてのプログラム」→「ConsoleDA」→「ConsoleDA Tools」→「VDC 設定ツール」を選択して「VDC 設定ツール」を起動してください。
2. 「VDC 設定ツール」での設定完了後、「スタートメニュー」→「すべてのプログラム」→「ConsoleDA」→「VDC Viewer」を選択して「VDC Viewer」を起動してください。ConsoleDA UI が起動中であれば、次の図の  ボタンをクリックしても起動できます。



3. 「VDC Viewer」が起動します。



「VDC Viewer」および「VDC 設定ツール」の詳しい操作方法については、「VDC Viewer 操作マニュアル」を参照してください。

補足	・ConsoleDA UI と VDC Viewer は独立して起動が可能です。
-----------	--

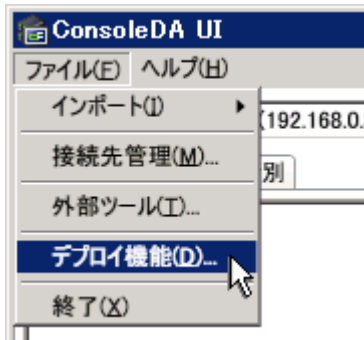
3-18 デプロイ機能

システムイメージをリモートで展開する機能を有するデプロイ用ソフトウェアと連携し、複数のブレードを指定して、個別アプリケーションを含めた OS 環境を容易に再構築することが可能になります。デプロイ機能のご使用方法については「デプロイ機能取扱説明書」を参照してください。

・デプロイ機能を実行するに次のように操作します。

(※この機能は、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にご使用できます。)

1. メインメニューから「ファイル」から「デプロイ機能」を選択してください。



2. 「Hitachi bd Link Deploy」画面が起動します。



デプロイ機能の使用方法については「デプロイ機能取扱説明書」を参照してください。

3-19 コマンドラインインタフェース

コマンドラインから「Hitachi bd Link」の一部の機能を実行することができます。

(※この機能は、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にご使用できます。)

ConsoleDA UI のインストールフォルダにある「ConsoleDACmd.exe」を使用します。

■コマンド書式

ConsoleDACmd.exe [[-h *address:port*] -f *command parameters*]

■引数

- h *address:port* 接続先 ConsoleDA Manager の IP アドレスとポートを指定します。
省略した場合、127.0.0.1:60000 となります。
- address* ConsoleDA Manager の IP アドレスを指定します。
- port* ConsoleDA Manager のポート番号を指定します。
- f *command parameters* 下記仕様となります。

■ *command* の仕様

(1) **error log** ブレードのエラーログ情報を表示します。

・*parameters* の仕様

- c *computer-name* ブレードのコンピューター名を指定します。
- s *yyyyMMdd* エラーログの検索開始年月日を指定します。
- e *yyyyMMdd* エラーログの検索終了年月日を指定します。
- o *filename* エラーログの出力ファイル名を指定します。
省略した場合、画面に表示されます。

・戻り値

- 0 成功
- 1000 エラー (パラメーター不正)
- 1001 エラー (取得失敗)

(2) **lampstatus** ブレードのランプ状態を取得します。

・*parameters* の仕様

- i *bmc-ip-address* ブレードの BMC の IP アドレスを指定します。

・戻り値

0~255	成功
bit[8]	1(固定)
bit[7:6]	STATUS ランプ状態 00b:Off、01b:On、10b:Blink
bit[5:4]	STATUS ランプ Blink タイミング 01b:1Hz、11b:3Hz
bit[3:2]	CALL ランプ状態 00b:Off、01b:On、10b:Blink
bit[1:0]	CALL ランプ Blink タイミング 01b:1Hz、11b:3Hz
1000	エラー(パラメーター不正)
1001	エラー(取得失敗)

(3) `calllampctrl` ブレードの CALL ランプを制御します。

・*parameters* の仕様

-i <i>bmc-ip-address</i>	ブレードの BMC の IP アドレスを指定します。
-m (on blink1 blink3 off)	制御モード(下記)を指定します。 on:点灯、blink1:点滅(1Hz)、blink3:点滅(3Hz)、off:消灯

・戻り値

0	成功
1000	エラー(パラメーター不正)
1001	エラー(制御失敗)

(4) `powerstatus` ブレードの電源状態を取得します。

・*parameters* の仕様

-i <i>bmc-ip-address</i>	ブレードの BMC の IP アドレスを指定します。
--------------------------	----------------------------

・戻り値

0	成功(電源オフ状態)
1	成功(電源オン状態)
1000	エラー(パラメーター不正)
1001	エラー(取得失敗)
1002	エラー(/CB-AP または/SV が未インストール)

(5) `powerctrl` ブレードの電源を制御します。

・*parameters* の仕様

-i <i>bmc-ip-address</i>	ブレードの BMC の IP アドレスを指定します。
-m (on soft off reset)	制御モード(下記)を指定します。 on:電源オン、soft:シャットダウン、off:強制電源オフ、reset:リセット

・戻り値

0	成功
1000	エラー(パラメーター不正)
1001	エラー(取得失敗)
1002	エラー(/CB-AP または/SV が未インストール)

(6) bootdev	ブレードのブートデバイスを制御します。
• <i>parameters</i> の仕様	
-i <i>bmc-ip-address</i>	ブレードの BMC の IP アドレスを指定します。
-d (disk pxe)	ブート デバイス(下記)を指定します。 disk: 内蔵 HDD、pxe: ネットワークブート用サーバ
• 戻り値	
0	成功
1000	エラー (パラメーター不正)
1001	エラー (制御失敗)
1002	エラー (/CB-AP または /SV が未インストール)

(7) history	履歴情報を CSV ファイル形式で取得します。
• <i>parameters</i> の仕様	
-s <i>yyyyMMdd</i>	エラーログの検索開始年月日を指定します。
-e <i>yyyyMMdd</i>	エラーログの検索終了年月日を指定します。
-u <i>computer-name%account</i>	ユーザー名を指定します。 省略した場合、全てのユーザーが対象。
-c <i>full-computer-name</i>	ブレードのフルコンピュータ名を指定します。 省略した場合、全てのブレードが対象。
-o <i>filename</i>	エラーログの出力ファイル名を指定します。 省略した場合、画面に表示されます。
• 戻り値	
0	成功
1000	エラー (パラメーター不正)
1001	エラー (取得失敗)
1002	エラー (/CB-AP または /SV が未インストール)

注意	・ネットワークの環境や状態により、状態取得や電源制御に失敗することがあります。BAT ファイルなどでお使いいただく場合は、コマンドの実行結果をエラーレベルで判別するようにしてください。
-----------	--

4 環境設定

4-1 接続先の管理

4-1-1 接続先の登録設定

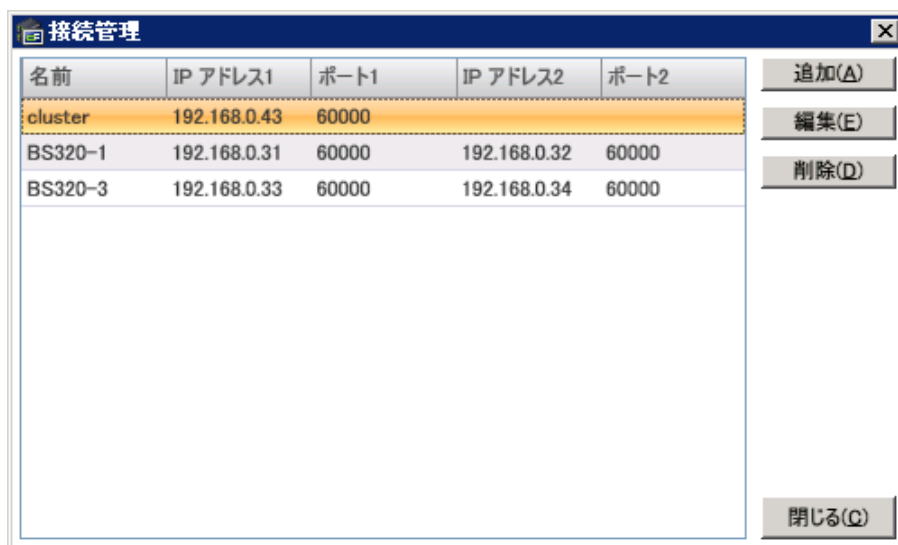
•ConsoleDA UIは複数の管理サーバ(ConsoleDA Manager)と接続できます。接続先の登録設定を行うには、次のように操作します。

1. メインメニューの「ファイル」から「接続先管理」を選択してください。



2. 「接続管理」画面が表示されます。

「追加」・「編集」ボタンで接続管理画面が表示され、管理サーバを追加・編集できます。また、「削除」ボタンで選択した管理サーバを削除できます。



3. 「追加」ボタンまたは「編集」ボタンをクリックすると、接続管理の設定画面が表示されます。以下の各項目を設定してください。

- ・「名前」欄 接続先の管理用の、任意の名前(サーバのコンピューター名など)
- ・「IP アドレス 1」欄 ConsoleDA Manager がインストールされているサーバの IP アドレス
- ・「ポート 1」欄 ConsoleDA Manager の受信ポート

正副冗長構成を組んでいる場合は「冗長構成」にチェックを入れ、以下の各項目を追加設定してください。

- ・「IP アドレス 2」欄 副側の ConsoleDA Manager がインストールされているサーバの IP アドレス
- ・「ポート 2」欄 副側の ConsoleDA Manager の受信ポート

接続管理

名前(N):

ConsoleDA Manager

IP アドレス1(A):

ポート1(P): 60000

冗長構成

IP アドレス2(D):

ポート2(Q): 60000

OK キャンセル

4. 「OK」ボタンをクリックし接続管理画面を閉じてください。

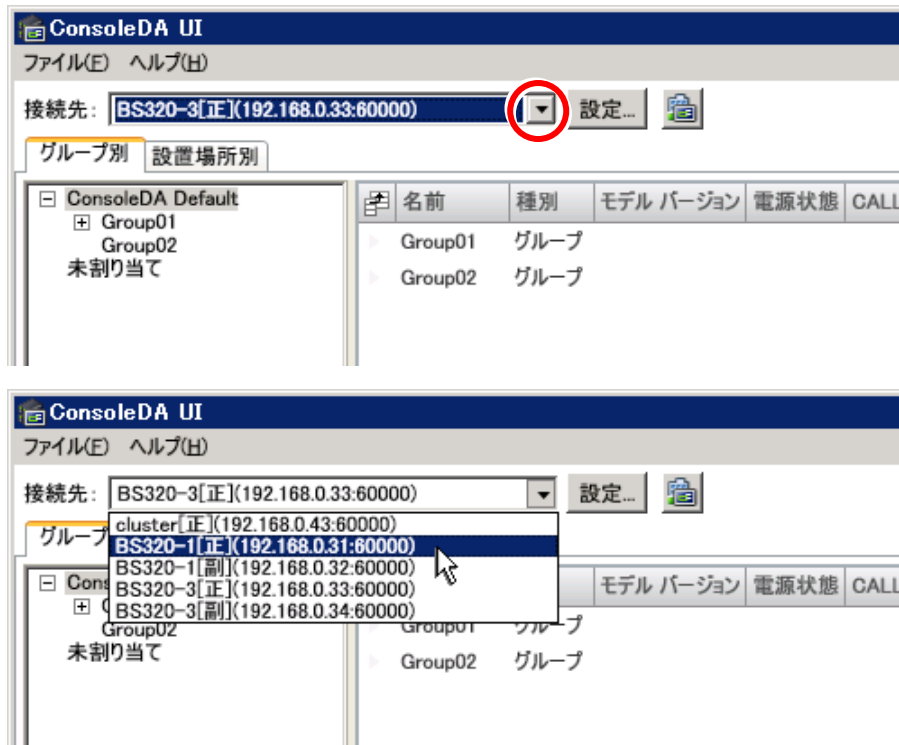
5. 「閉じる」ボタンをクリックして接続管理設定を終了します。

補足	<ul style="list-style-type: none">・接続の名前として使用できる文字について、英数字は半角文字のみ、カタカナは全角文字のみとなります。・「ConsoleDA Manager」に設定されるポートのデフォルト値は「60000」です。
-----------	---

4-1-2 接続先の切り替え

・ConsoleDA UIの接続先を切り替えるには、次のように操作します。

1. 接続先サーバ名右側の[▼] (赤枠部分)をクリックして、接続するサーバを選択します。



2. 選択を変更すると、ブレード一覧表示が選択した管理サーバの内容に切り替わります。

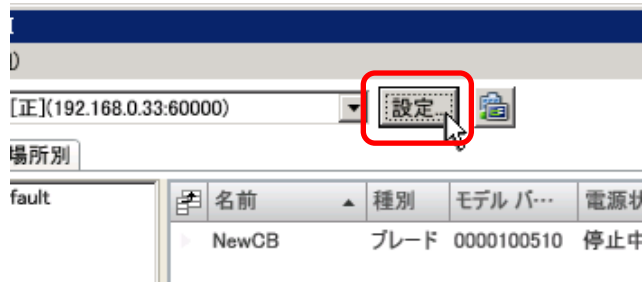
注意

・接続元の ConsoleDA UI が、接続先のサーバに接続を許可されている必要があります。
(「[4-3 接続認証の設定](#)」参照)

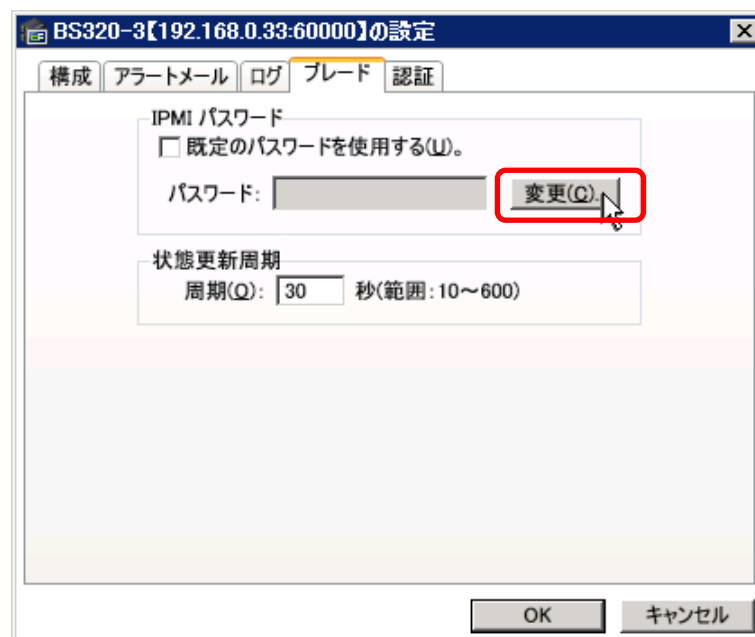
4-2 IPMIの設定

・IPMIのパスワードや電源とCALLランプの状態を更新する周期を設定するには次のように操作します。

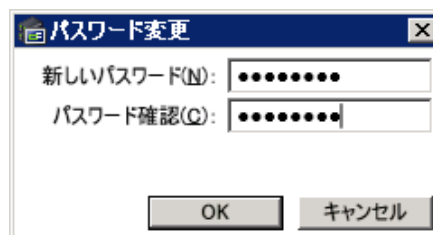
1. 基本画面の、次の図の「設定」ボタンをクリックしてください。



2. 設定画面の「ブレード」タブを選択します。「IPMIパスワード」を設定する場合は、「既定のパスワードを使用する。」のチェックを外し、「変更」ボタンをクリックします。



3. 「新しいパスワード」欄と「パスワード確認」欄に新しく設定するパスワードを入力します。



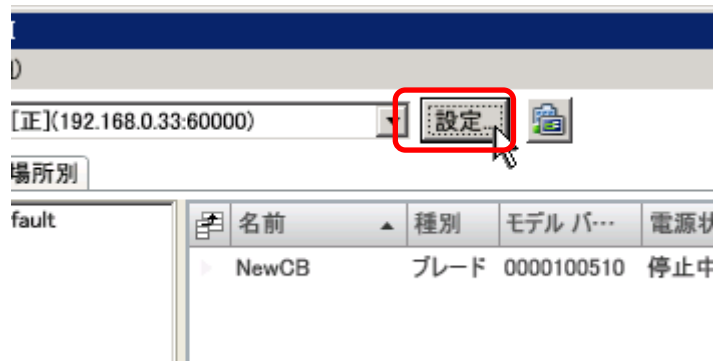
4. 「状態更新周期」は10～600秒の範囲で設定できます。設定が済みましたら「OK」ボタンをクリックして設定画面を終了します。

注意	・各ブレードにて BMC (Baseboard Management Controller) のパスワードが出荷状態から変更されている場合は、IPMI パスワードの設定が必要です。(管理サーバが管理する全てのブレードに同じパスワードが設定されている必要があります。)
-----------	---

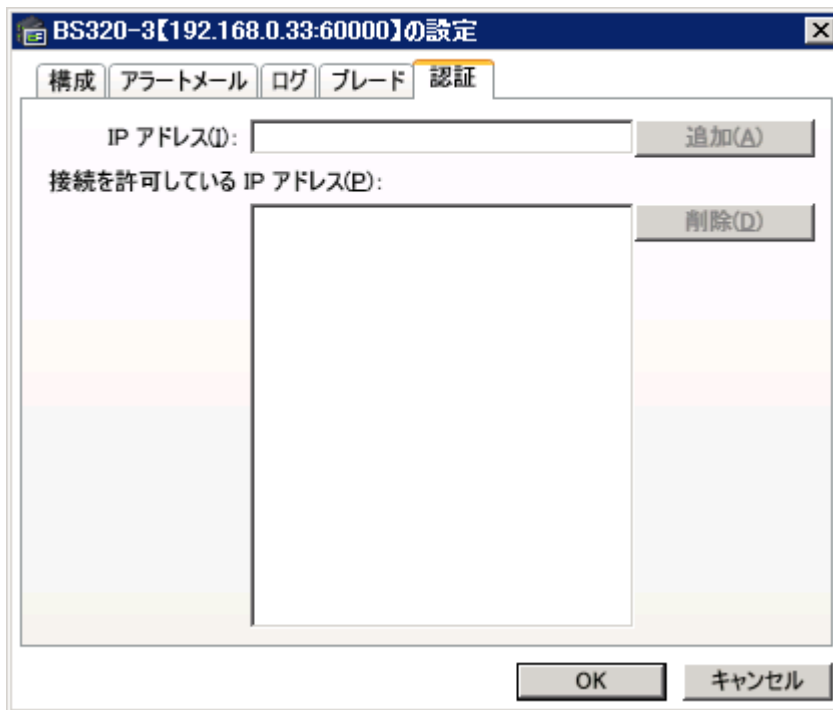
4-3 接続認証の設定

・指定したIPアドレスを持つマシン上で動作する「ConsoleDA UI」以外からの要求を拒否することができます。

1. 管理コンソール画面の「設定」ボタンをクリックしてください。



2. 設定画面の「認証」タブを選択します。



3. 接続を許可する IP アドレスを入力し、「追加」ボタンをクリックします。

接続を許可している IP アドレスを削除するには、削除する IP アドレスを選択して「削除」ボタンをクリックします。

注意	・ConsoleDA Manager への接続を許可する IP アドレスの設定は、ConsoleDA Manager と同じ環境にインストールした ConsoleDA UI からのみ行うことができます。
補足	・接続を許可する IP アドレスを 1 つも登録していない場合、要求拒否は行わず全ての接続が許可されます。 ・ConsoleDA Manager と同じ環境にインストールした ConsoleDA UI は、無条件に接続することができます。

5 困ったときは

No	現象	原因	対策
①	CALL ランプの制御を行うと「CALL ランプの制御に失敗しました。」というエラーが表示された。	回線が接続されていない可能性があります。	・各機器の接続を確認してください。
②	グループを移動させようとする「移動後のグループが深すぎるため移動できません。」というエラーが表示された。	グループの最大階層は「6 階層」です。	・グループ階層が「6 階層」以下になるようにしてください。
③	「ネットワーク接続でエラーが発生しました。接続を確認してください。」というエラーが表示された。	「ConsoleDA Manager」の IP アドレスが間違っている可能性があります。	・「ConsoleDA Manager」がインストールされているサーバの IP アドレスを確認してください。
		「ConsoleDA Manager」が起動していない可能性があります。	・「ConsoleDA Manager」のサービスを起動してください。 確認方法: 管理サーバの「コントロールパネル」の「管理ツール」から「サービス」を開き、「ConsoleDA Manager」の状態が「開始」になっているか確認してください。 「開始」状態になっていない場合は「ConsoleDA Manager」を右クリックして「開始」を選択してください。
		回線が繋がっていない可能性があります。	・回線を確認してください。
④	「ConsoleDA Manager」をインストールしたサーバの IP アドレスを変更したら、接続できなくなった。	「 ConsoleDA UI 」が「 ConsoleDA Manager」に接続できなくなったためです。	・接続先を再設定する必要があります。「 4-1-1 接続先の登録設定 」を参照して再設定してください。
⑤	「ConsoleDA Manager」をインストールしたサーバの IP アドレスを変更したら、ブレードの電源状態が変更されなくなった。	ブレードにインストールした「ConsoleDA Agent」が「ConsoleDA Manager」に接続できなくなったためです。	・ブレードの ConsoleDA Agent のインストール先にある設定ファイルを編集して ConsoleDA Agent のサービスを再起動してください。 ・設定ファイルについてはセットアップ手順書を参照してください。

No	現象	原因	対策
⑥	「ConsoleDA Manager」が起動しなくなった。	設定ファイルが正しくない可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 「ConsoleDA Manager」の設定ファイルを確認してください。 設定ファイルについては「ConsoleDA Manager インストールガイド」を参照してください。
		「SQL Server®」が起動していない可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 「SQL Server®」を起動してください。 <p>確認方法: 管理サーバの「コントロールパネル」の「管理ツール」から「サービス」を開き、「SQL Server®」の状態が「開始」になっているか確認してください。「開始」状態になっていない場合は「SQL Server®」を右クリックして「開始」を選択してください。</p>
⑦	「ConsoleDA UI」が起動しなくなった。	設定ファイルが正しくない可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 「ConsoleDA UI」のユーザー設定保存ファイル(user.config ファイル)を削除します。 <p>(user.config ファイルの場所)</p> <p>Windows® XP/Windows Server® 2003/Windows Server® 2003 R2 の場合:</p> <p>C:\¥Documents and Settings¥(ユーザーアカウント名)\¥Local Settings¥Application Data¥Hitachi, Ltd¥ConsoleDAUI.exe Uri_xxxx¥3.0.0.0</p> <p>Windows Vista®/Windows® 7 の場合:</p> <p>C:\¥Users¥(ユーザーアカウント名)\AppData¥Local¥Hitachi, Ltd¥ConsoleDAUI.exe Uri_xxxx¥3.0.0.0</p>
⑧	管理サーバの ConsoleDA イベントログに同じエラーログが連続して多数記録されていた。	各ブレードにアクセスごとのエラーが記録される可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、イベントビューアの設定にてログサイズを変更してください。 または、ログ出力をオフに設定してください。設定ファイルについては各インストールガイドを参照してください。
⑨	サーバブレード管理画面、イベントログ、サービスが表示できない。	IP アドレス 1 の値が正しく設定されていないためです。	<ul style="list-style-type: none"> IP アドレス 1 に適切な値を持つブレードを作成してください。

No	現象	原因	対策
		<p>「ConsoleDA Agent For Server」がファイアウォールの例外に設定されていない可能性があります。</p>	<p>ブレードで次の操作を行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.コントロールパネルから「Windows ファイアウォール」画面を開く。 2. 「例外」に「ConsoleDA Agent For Server」インストールフォルダーの「Agent2.exe」を追加する。(Windows Server 2003/Server 2003 R2 の場合の操作)
		<p>サーバブレードのサーバステータス (パフォーマンス、ネットワーク、ディスク)だけが表示されない場合、「ConsoleDA UI」がファイアウォールの例外に設定されていない可能性があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ConsoleDA UI インストールマシンで次の操作を行ってください。 <ol style="list-style-type: none"> 1.コントロールパネルから「Windows ファイアウォール」画面を開く。 2.「例外」に「ConsoleDA UI」を追加する。(Windows® XP/Windows Server® 2003/Windows Server® 2003 R2 の場合の操作)

6 制限事項

1. 「ConsoleDA UI」を複数の PC・サーバにインストールしてお使いいただく場合、同時に使用しないでください。
2. 「ConsoleDA Default」及び「未割り当て」グループは削除できません。
3. 「既定の設置場所」「既定のラック」「既定のシャーシ」は削除できません。
4. ブレードが LAN に接続されていない場合、「ConsoleDA UI」で表示される「電源状態表示」や「CALL ランプ表示」「STATUS ランプ表示」は正しくない場合があります。
5. Citrix® XenDesktop®環境でブレードを統合管理する場合、ブレードが休止状態になっていても、ConsoleDA UI 上で表示されるブレードの「状態」(電源状態表示)は「停止中」と表示されます。
6. 「ブレードの利用履歴」「SOL 画面の表示」「電源制御」「起動デバイスの変更」「データセンターのビジュアル表示」「デプロイ機能」各機能については、「Hitachi bd Link /CB-AP」または「Hitachi bd Link /SV」がインストールされている場合にご使用することができます。
7. 「ConsoleDA UI」は、画面サイズが 1024×768 以上の環境でご使用ください。

7 付録

メインメニュー

No	表記		説明	参照先	
①	ファイル(F)	インポート (I)	ファイルから インポート(L)	CSV ファイルからブレードをインポートしま す。	2-4 CSVファイルのインポート
			JP1 宛先ファ イルからイン ポート(J)	JP1 宛先ファイルからブレードの構成情報をイ ンポートします。	2-3 JP1 宛先ファイルのインポ ート
	接続先管理(M)		ConsoleDA Manager の接続先を設定します。	4-1 接続先の管理	
			ConsoleDA Manager の構成、アラートメール、 ログ、ブレードの IPMI の設定をします。	3-1-3 ConsoleDAの構成表示 3-9 アラートメールの管理 3-7 ログの管理 4-2 IPMIの設定 4-3 接続認証の設定	
	外部ツール(T)		外部ツールの登録を行います。	3-15 外部ツール起動	
	デプロイ機能(D)		デプロイ画面を起動します。	3-18 デプロイ機能	
	終了(X)		ConsoleDA UI を終了します。		
②	ヘルプ(H)	バージョン情報(A)	ConsoleDA UI のバージョン情報を表示しま す。		